

人ノ按内線ヲ以テ其反別ヲ計算スレハ拂トケ地ハ八反五畝廿八步ニシテ共有墓地ハ二反
壹畝二步トナリ殆ント村役場ノ公簿ニ符合スルヲ以テ被告ノ申立ヲ採リシモノニシ
テ正當ノ理由アル裁判ナリトス

原告人ハ判文中共有墓地ハ一反二畝十三步ニ減少ストアルニ對シ被告原告按内線二反一畝
二步ノ内ヨリ論地三畝八步ヲ引去ルキハ壹反七畝廿四步トナリ判文ハ違算ナリト云ヘリ
是レ原告人申立ノ如クナルヘシト雖モ仍ホ公簿ノ反別ニ比スレハ若干ノ不足ナルヲ以テ
原裁判ノ主意ニ反スルコトナシトス

又原告人ハ明治九年地租改正ハ耕地ノ改正ニ止リ山林原野等ニ及ハサルヲ以テ墓地ノ丈
量ヲ爲スヘキ謂レナシト云ト雖モ現ニ村役場ノ地租改正三斜繪圖面ハ實地丈量ノアリシ
明確ナル證據ナリトス殊ニ原告本人矢島喜武ト被告本人内中林友三郎ト連名ニテ事務
所ヘ差出セシ明治十二年二月廿日付ノ書面ニ依レハ私共所有地境界云々地租改正圖上ニ
基キ御取計被成下候上ハ毛頭異論無之トアリ彼是ヲ參照スレハ本案ノ判決ヲ爲スニ村役
場ニ保存スル所ノ三斜圖ト地引帳トニ基キシハ正當ノ裁判ナリトス又其被告原告者カ求ム
ル反別ノ改正反別ヨリモ少シク減少ストモ此レハ是レ被告原告者自ツカラ權利ヲ減殺セル
筋ナルヲ以テ三斜帳等ヲ採用スルニ妨ケナシトス

判決

原告ノ條々都テ不條理ニシテ原裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキモノトス
第百壹號

○返地約定履行一件東京上尋裁判所

裁判不法上告ノ判文

(明治十四年八月廿九日上告)
(明治十五年四月五日申渡)

千葉縣下總國東葛飾郡市野谷村
平民

原告人

染谷 兵右衛門

東京府深川區佐賀町壹丁目寄留

茨城縣士族

右代言人

鴨志田 直

千葉縣下總國東葛飾郡流山村

平民

被告原告人

淺見 平兵衛

上告ノ要領

原裁判所ハ上告第一號証ニ(此度貴殿へ金貳百圓年賦証書ニテ貸渡候約定ノ通一ケ年ニ
テモ返済不相成候節ハ)云々トアルヲ被告上告第二號証ノ年賦一ケ年ヲモ返済相滞リタ
ルキハ返地セサルトノ意ナリト解釋セラレタレモ該証ノ旨趣ハ其明文ニ(返済不相成候
節ハ)トアルガ如ク其年賦金一ケ年タリトモ返済シ得サル場合ニ至リタルニ於テハ返
地ヲ爲サストノ意ニシテ要スルニ之ヲ論地ノ上ハ金一爲シ地所ハ被告原告ノ所有ニ確定
スヘシトノ意ナリ這ハ論地ハ貳町四反步餘ナルヲ僅ニ金貳百三拾圓餘ノ廉價ニ賣却セシ

事實ニ依テ判然タリ若シ原裁所ノ解釋ノ如クナリトセハ被上告者ハ上告者ニ返金淹滞ノ爲メニ最モ廉價ヲ以テ賣買シタル地所ノ所有權ヲ確定スルノ利益ヲ得ル而已ナラズ其滞金ヲモ請求シ得ル權利ヲ有スルモノ豈斯ノ如キ一方ヘ利益ヲ與フル契約ヲ爲スノ理アラシヤ是原裁判所ガ証書ノ解釋ヲ誤リタルコトヲ知ルヘシ又原裁判所ハ(明治十一年分ノ年賦金相滞。明治十二年十一月乙第三號証ノ如ク勸解出願ノ上漸ク乙第六七號証ノ金ヲ差入レ乙第四號証ノ如ク願下ケテ爲メタルモノナレハ既ニ甲第一號証返地ノ約。消滅ニ歸シタル明シカトリ)ト裁判セラレタル該年賦金ハ被上告者第三號証ノ如ク勸解願ニ及ハレタルハ相違無之モ上告第二號証ノ如ク明治十一年分ハ明治十二年分ト俱ニ返金爲シタルコト付上告第一號証返地ノ約ハ無効ニ歸スヘキ理由ナシ何トナレハ該証ノ旨趣ハ前開陳スル知シ年賦金ヲ返濟シ得サル場合ニ至リシナハ返地セスト云フノ義ナレハナリ若シ原裁判所裁判ノ如ク明治十一年分ノ年賦金ヲ淹滞セシメ該証ノ効力ヲ消滅シタルモノナルコト於テハ上告第二號証成立ノ際其第一號証ヲ被上告者ノ手ニ而戻スガ又ハ該証ノ無効ニ屬スル証書ヲ作ルカ當時必ス其事ヲ明ラカニセサルヘカラス然ルチ是等ノコトヲ爲シタルコトナキハ該年賦金淹滞ノ事柄ハ毫モ第一號証ノ効力ニ關係アラサリシコト知ルヘシ故ニ原裁判所カ証書ノ解釋ヲ誤リ上告者カ明治十一年分ノ年賦金ヲ淹滞セシメ因リ上告第一號証返地ノ約ハ消滅セシト裁判セシハ最モ不法ノ裁判ナリト思考ス

右ノ理由ナルヲ以テ原裁判ヲ破毀セラレ更ニ至當ノ判決ヲ與ヘラレシコトヲ請願ス

辨明

上告者於テ其第一號証ニ(返濟不相成候節ハ)云々トアルヲ原裁判所カ返濟相滞リタル地所ハ其地セサルトノ意ナリト解釋セラレシハ其解釋ヲ誤リタルモノニシテ該証ノ旨趣ハ其年賦金ノ一ケ年タリトモ返濟シ得サル場合ニ至リタルニ於テハ返地ヲ爲サストノ意ニシテ要スルニ之ヲ論地ノ上ハ金ト爲シ地所ハ被上告者ノ所有ニ確定スヘシトノ意ナル旨云々申述スレモ果シテ其旨趣ナリトハ見做シガタシ如何トナレハ凡金錢貸借ノコトタル借リ主ニ於テハ資力ヲ尽スモ尙不足アレハ其子孫ニモ返濟義務ノ及フヘキハ固ヨリ論ヲ駁サハナリ上告者言ノ如ク返濟不相成場合ニ至リ返濟スヘキ金額ヲ以テ地代上ハ金トナシ返地ヲ可得權利ヲ以テ返濟スヘキ義務ト交換スルノ義ナレハ之ヲ特別ノ契約ト云カルヘカラス左スレハ宜シク証書ニ明記スヘキ等ナルニ被上告第二號証ニハ(期日約定ノ通り無相違返濟可仕若本人差滞候節ハ加判引受辨濟仕)云々トアリ尋常貸借証文ニ外ナラス其契約タル本ハハ不及申引受ハ迄力ヲ尽シテナリトモ返濟スヘキ意ニシテ返濟不相成時ニ至リ其金額ヲ以テ地代上ハ金トナスノ旨趣ハ毫モ見ルヘキナキナリ又上告第一號証ニ於テハ管ニ一ケ年ニテモ返濟不相成云々トアルノミニシテ別ニ旨趣ノ在ルアルヲ見サレハ其一ケ年ニテモ返濟不相成トノ意ハ返濟相滞ル義ト見做サハルヲ不得也然レハ原裁判所カ其返濟不相成トノ文詞ヲ直チニ返濟相滞リト解釋セシハ相當ナリトス

判決

右辨明ノ如クナルヲ以テ明治十四年六月三十日東京上等裁判所ニ於テ言渡シタル終決裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

○判文 明治十四年十二月六日上告
明治十五年 四月五日申渡

岡山縣備前國赤阪郡西窪田村
惣代兼同村平民橋本邦太郎外
十一名代人

東白府麴町區有樂町一丁目
五番地高知縣平民

上告人

渡 邊 左 久 郎

岡山縣備前國赤阪郡下仁保村

惣代兼同村平民

被上告人

大 野 八 五 郎
外 十 四 名

共有野山立木分配拒障反對一件大阪上等裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スル要領左ノ如

第一 原裁判所判文中ニ被告惣代十二名カ原告第三號証ヲ勸解廳へ呈シタルト該証中有
分配方ノ議取極メ置キ伐木ニ取掛ルヘシト云ヒテ這般ノ議定取消云々ノ申立アルヲ以
テ觀レハ其シヤ集會協議ニ關リタルモノハ被告惣代中僅ニ五名ニ過キサルモ他ノ七名
ニ於テモ其後之ヲ承諾シタルモノト認定セサルヲ得ス云々トアリ是レ恐クハ法官ノ誤

認ニアラサレハ牽強附會ノ說タルヲ免カレサルヘシ何ソトナレハ被上告第三號証中有
分配方ノ儀取極メ云々ノ文詞ハ其席ニ連リタル五名ノ者カ戸長ノ說論ヲ聞キタルヲ
記載セシニ過ス決シテ戸長ノ說論ニ從ヒ被上告第一號証ノ契約ヲ承認シタルノ意ヲ記
シタルモノニアラス又今般ノ議定取消云々ノ文詞モ上告者十二名カ既ニ承認シタル契
約ヲ取消サントスルノ意ニアラス上告者一統ニ於テ素トヨリ承諾セサルモ被上告者ニ
於テ其契約ヲ爲シ遂ントスルニ於テハ到底上告者ノ權利ニ妨害ヲ與フルハ顯然タルヲ
以テ斯ノ如ク上告者ノ權利ヲ妨害スヘキノ契約ハ之ヲ取消スノ訴訟權アルヲ以テノ故
ニ之カ取消ヲ要求シタルモノナレハ也夫レ斯ノ如ク上告者ニ於テ被上告第一號証ノ契
約ヲ承諾シタルヲナシ然ルニ前掲ノ如ク判定セラレタルハ不法ナリトノ事

第二 原裁判所カ本件ノ判定スルノ材料トシテ採用セラレタル被上告第三號証中ニ右分
配方ノ議定取究メ置伐木ニ取掛ルヘシ又今般ノ議定取消トアル文詞ハ上告惣代十二名
ニ於テ被上告第一號証ヲ承認シタルモノト假定シテ論スルモ原裁判ハ不法ナリトス何
ソトナレハ右第三號証ハ他ノ抗擊ヲ受ケ其證據ニ資メラレ初メテ自認シタルニアラス
自カラ好テ之ヲ爲シタルモノナレハ之ヲ採用セント欲セハ其全部ヲ取ルヘキモノニシ
之ヲ分ツヘキモノニアラサレハナリ抑モ右第三號証ニ若シ後日古書類顯出ノ節此度ノ
議定ト相違ノ廉有之時ハ此議定書ハ取消可申段云々トアレハ前段ノ文詞ト共ニ此文詞
ヲモ採用セラレテ到底被上告第一號証ハ取消スヘキモノナリト判決セラルヘキニ其自
認ヲ崩シ上告者ノ利益トナルヘキ廉ハ之ヲ捨テ其損害トナルヘキ廉ノミヲ採用シ判文

第四條ノ如ク被上告第一號証ノ契約ハ上告者ノ完全ノ承諾ニ出テ且古証書ノ現出ト共ニ其効力ヲ失フヘキモノニアラスト判決セラレタルハ不法ナリトノ事
依テ辨明及判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辨明

第一條

上告要領第一項ノ旨趣ヲ審按スルニ被上告第二號証中「右分配ノ義取極メ置伐木ニ取掛ルヘシ云々西窪田村總代ノ内調印致スノ場合」トアル數語ハ乃チ上告村總代ノ内五名カ戸長ノ説諭ニ服シ被上告第一號証ノ契約ヲ承諾シテ之ニ調印シタルヲ供述シタルモノナリ又該第三號証中「今般ノ議定取消」トノ文意ハ即チ右上告村總代ノ内五名カ既ニ調印シテ承諾ヲ爲シタル被上告第一號証ノ契約ヲ更ニ取消サントノヲナリ而シテ上告村總代ノ内七名ハ右總代五名ノ者ト共ニ是等ノ數語ヲ記載セル被上告第三號証ヲ勸解廳ヘ捧呈シタルハ是レ即チ他ノ總代七名モ亦被上告第一號証ノ契約ヲ承諾シタルモノト云ハサルヲ得ス如何トナシハ未ダ承諾セサル契約ノ取消ヲ要求スルノ理ナケレハナリ又假リニ他ノ總代七名ハ該契約ヲ承諾セサルモノトスルモ是レ畢竟上告村内ノ紛議ニ屬スヘキモノニシテ上告村ハ之ヲ以テ他ノ被上告村ニ向ヒ該契約ヲ承諾セサルモノト云フヲ得ス何トナレハ曩キニ三ヶ村ノ集會ニ出席シタル上告村總代橋本林平外四名ノ者ハ既ニ該契約ヲ承諾シタルノミナラス終ニ被上告第一號証ニ調印シタルハナリ況ンヤ又前段辨明ノ如ク他ノ總代七名モ亦該契約ヲ承諾シタルノ痕跡アルニ於テチヤ故ニ原裁判所カ被告總

代十二名カ原告第三號証ヲ勸解廳ヘ呈シタルト該証中右分配方ノ義取極メ置伐木ニ取掛ルヘシト云ヒ又這般ノ議定取消云々ノ申立アルヲ以テ云々他ノ七名ニ於テモ其後之ヲ承認シタルモノト認定セサルヲ得ス云々ト判決シタルハ不當ニアラス

第二條

上告要領第二項ノ旨趣ハ証書ナキ自認ノ場合ニ限り或ハ之ヲ適用スヘシト雖モ本訴ノ如キハ被上告第一號証之レアルモノナルカニニ原判文第三條及第四條ノ判決ヲ以テ適法ノモノナリトス

判決

右辨明ノ如クナルヲ以テ大阪上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

第百三號

○判文(明治十五年二月廿五日上告) 全年 四月 五日申渡

三重縣伊勢國三重郡仲川原村 十一番地平民

山 内 半 藏

東京府日本橋區堀留町二丁目 十一番地寄留鳥取縣平民

熊 谷 寛 治

東京府日本橋區兜町五番地寄

右代言人

留愛知縣平民

前 田 又 平

被告八

証據金取戻一件及ヒ立替金請求并株切手取戻一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ムル上告ノ主点左ノ如シ

第一 被告八ハ上告人ノ依頼ニヨリ明治十三年四月十二日ヲ以六月限銀貨十一枚ヲ株式取引所ニ於テ買付ケ五月三日四日五日ノ三日間ニ賣埋ニナリシト云モ四月一日以降十二日迄ノ間ニ被告八カ買付ハ八枚ニシテ内三枚ハ四月三十日賣埋五枚ハ有賀利助ナル者ノ爲メニ買付ケ之レヲ五月十日ニ至リ賣埋メタリ其他被告八ハ取引所ヘ証據金ヲ差入レタルコトナシ是上告人カ四月十二日買付ノ十一枚ハ會所ヘ証據金ヲ差入ルハ以前示談ヲ遂ケ解合トナリシ証據ナリ然ルヲ終審裁判ハ十一枚買付ノ証アリトシ而シテ四月十五日解合(甲第一號)ト記載セシテ被告八ノ看認タル証左ナシト判決セシハ不當ナリトノコト

第二 被告乙第二號証株式取引所ノ証明書ニ四月十五日銀貨賣買解合無之トアルハ原告間ノ取引ニ關セサル八枚ノ買付ノ解合ナキヲ証明セシモノナルヘシ然ルニ右ノ証明書ヲ本訴ノ証據トセシハ不當ナリトノコト

辨明

第一條

被告八カ四月一日以降十二日迄ノ銀貨買付ハ八枚ニシテ内五枚ハ他人ノ爲メノ買付ナ

リト云ト雖モ仲買人ハ客方ヨリ注文ヲ受ケタル賣買ヲ他ノ仲買人ヘ依頼スルノ例アル上ハ被告八ノ名前ヲ以テ買付ケタルモノハ八枚ナリトテ必スシモ八枚ノ外買付ケテ爲サハリシト云フヲ得ス殊ニ被告八ハ四月十二日買付ノ十二枚ハ其十五日解合ニナリシト云フ証據ヲ以主張セシ者ニアリナカラ更ニ十二枚ノ買付ハナカリシト云フハ不都合ノ申分ナリ如何トナレハ元來買付ノナカリシモノタラハ解合ノアルヘキ謂ヒナキヲ以テ也故ニ原裁判所ニ於テ上告人カ甲第壹號証四月十二日十二枚買付ノ廉ニ四月十五日解合ト記セシ証據ヲ提供セシハ取モ直サス十二枚ヲ買付ケタル証ナリト認メ而シテ四月十五日解合ト記載アルモ被告八ノ之ヲ看認メタル証ナキノミナラス四月十五日ハ取引停止中ニ係ルト株式取引所ノ証明トニヨリ解合ナカリシモノト判決セシハ至當ナリトス

第二條

被告乙第二號株式取引所ノ証明書ニ四月十五日銀貨賣買解合無之トアルモ原告ノ取引ハ株式取引所ニ届出テ無之内示談解合トナリタルカ故ニ取引所ニ於テ知ルヘキ道理ナシ右乙第二號ハ原告ニ關セサル他ノ八枚ハ解合ニナラサリシト云フモノナルヘキ旨論辨スト雖モ取引所ヘ届出テ無之内ハ賣買ノ成立サルモノナルヲ以テ解合ノアルヘキ謂レナシ且十二枚賣買アリシトノ事實ノ認定ノ動カスヘカラサル理由ハ前條既ニ辨明セシカ如シ然ル上ハ取引所ノ証明ハ原告ニ關セサル他ノ八枚ノ解合ニナラサリシヲ証明セシモノナルヘシトノ申分相立タス

判決

右辨明ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス
第四百號

○判文(明治十四年十月八日上告)
明治十五年四月八日申渡)
上告人

鹿兒島縣日向國臼杵郡大武町
平民大島庄吉代人

東京府京橋區銀座二丁目十番

地寄留靜岡縣士族

畔 柳 時 行

鹿兒島縣日向國臼杵郡岡富村

平民

山 口 若 三 郎

所有地差縫一件長崎上等裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトシ破毀ヲ求ムル上告ノ要趣左シ如シ

第一條

原裁判所カ審理不尽ニシテ事實不適當ノ裁判ヲ與ヘラレタル不當ノ要點ヲ左ニ陳述ス

第一款

被告カ論地ヲ現ニ所有シ居ルノ實況ヲ以テ乙號諸証ニ參照スレハ明治三年九月舊藩民
政局ヨリ拂下ヲリト云フコトヨリ事實ニ適セリト認ムヘキ云々

第二款

又々明治維新前後ニ在リテハ既ニ荒蕪ニ屬シタルニ因リ舊藩民政局ハ斷然該地ヲ引上
ケ官普請ニテ之ヲ修繕シ然後被告先代民三へ拂下ケタルモノト推測ス云々

第三款

當時喜助ノ死亡ニ際シ老婆幼女ハ勿論親戚等モ官署ニ向テ之ヲ争フコト能ハサリシハ素
ヨリ該家ノ不幸ニ出ツト雖モ抑亦自己ノ權利ヲ拋棄セシモノト看做サ、ルヘカラス之
レヲ要スルニ舊藩ノ處分ニ係リ己ニ公正ノ手數ヲ以テ被告ノ所有ト確定セシヨリ十年
ノ久シキヲ經タレハ今更被告ヘ對シ所有ヲ争フヘキモノニ非ヌ云々

第四款

原告モ嘗テ被告ヨリ該地ヲ借受下作セシコトアルニ於テチヤ

第二條

原裁判所ノ不法ノ裁判ヲ駁撃ス

第一款

本訴訟地ノ實況ト被上告者ノ諸証ヲ參照スレハ舊藩民政局ヨリ拂下ケタル云々又々明
治維新前後ニ在テ既ニ荒蕪ニ屬シタル云々トハ何等ノ誤判シヤ抑モ被上告者カ證據ト
シテ原裁判所ヘ呈供セシ各證據ヲ視ルニ一トシテ論地ヲ拂下ケタルノ証左毫モ在ルニ
アラズ只被上告者ノ虚説ヲ信用サレ却テ之レヲ觀破スル能ハサルノ疎漏判決ニ外ナラ
サル可シ之レ上告者カ誤判ノ二字ヲ下ス所以ナリ

第二款

判文中ニ當時喜助カ死亡ニ際シ老婆幼女ハ勿論親戚等モ官署ニ向ケ之レテ爭フコト能ハ
 カリシ云々原裁判所ハ其當時ノ事實ヲ認定セシテ單ニ該論地ノ所有權ヲ拋棄セシモ
 ノト看做サル、ト雖モ我國於テ不動産ノ所有權ヲシテ十年間之レテ爭フハサルコト於テ
 ハ其所有權ヲ拋棄セシモノトスルノ成規等アルヲ聞カス之レヲ道理ニ照シテ論スルモ
 上告者カ所有ニ屬セシハ甲第一號証乃至甲第十七號証ヲ以テ明カナリ然ルニ却テ被上
 告者ニ何レノ日ニ於テカ所有權ノ屬セシヲ視定スルニ由シナカルヘシ果シテ然ラハ
 該論地ノ所有權ハ上告者被上告者何レニ屬スルヤヲ判別スルニ該地ニ對スル証左ヲ對
 照シ以テ之レヲ認定セサルヲ得ス然ルヲ原裁判所ハ唯ニ現今ノ實況ノミニ拘泥シ裁判
 セラレシハ甚ダシキ失當ノ裁判ナリト思考ス

第三款

原告モ嘗テ被告ヨリ該地ヲ借受ケ下作セシコアルニ於テヤトハ何タル裁判ソヤ抑モ
 上告者ノ該論地ヲ下作セシコハ聊虛説ト云フニ非ス其所以ハ當上告者カ養父喜助ノ亡
 跡ヲ相續セシハ明治五年七月ヨシテ其際マテ當上告者ハ延岡大武町字横町ニ住居セリ
 大島喜助カ亡跡ハ右大武町ニアリ尤上告者ハ祖先ヨリ大島姓ナリ又亡喜助モ祖先ヨ
 リ大島姓ナレハ養實面家ニ同姓ニアリ故ニ被上告者カ之レヲ奇貨トシ乙第四號証作德
 米取立帳ニ大島庄吉ノ名稱ヲ書載シ附會ノ妄説ヲ主唱スルト雖モ既ニ上告者カ下作セ
 シ當時ハ明治四年度一作即チ大島喜助亡跡ヲ相續スル以前ニシテ現今ハ其身分ヲ異ニ
 スルモノナレハ該爭論地ニ毫末モ干渉スルノ理ナシ而シテ被上告者カ呈供スル乙第四

號証ノ如キハ自己カ自儘ニ調製セシ扣帳簿ナレハ信ヲ措クニ足ラス仰願クハ甲第十六
 號甲第十七號証ノ事實ヲ參酌セラレシコトヲ乞フトノコト

辨明

本件上告ニ付テハ左ノ二項ヲ審明スルニ必要ナリトス

- 一 論地(字大武町裏田六反歩)ハ上告人ノ養父喜助カ嘉永年其筋ヨリ申受タル以來今ニ至ル迄之ヲ引續キ保持シ隨テ所有權アルヤ否
- 一 上告人ハ明治四年ノ一作丈ケ論地ヲ被上告人ヨリ借受下作セシコアリテ明治五年喜助ノ養子トナリシ後ハ小作セシコナキヤ否

依テ原裁判書類ニ就キ之ヲ考按シ辨明判決スルコト左ノ如シ

甲 第二號地方役所ノ達書第四號地方借方掛合中ヨリノ讓渡狀其他ノ證據物ニ依レハ慶應
 年度上告人ノ養父喜助ニ於テ論地ヲ其筋ヨリ申受之ヲ進退セシコト見ルヘキモノアリ然ル
 ニ乙號數証ヲ閱スレハ舊延岡藩民政局ヨリ奉行出張シ論地見分ノ上之レヲ修繕セシ際明
 治三年中被上告人ノ先代民三カ其修繕費(舊藩札)若干ヲ大武裏新開普請所へ獻納セシモノ
 ナリ就中其第四號証ニ於テ上告人先代カ右地所(即地)論ハ舊郡掛ヨリ拂下ケテ受ケタルコ
 ト認知スヘシ右等ノ事跡ナレハ被上告人ノ養父喜助カ慶應度該地ヲ申受タル以來引續キ之
 ヲ保持セサリシモノニシテ其所有權モ亦之ヲ拋棄セシモノト云ハサルヲ得ズ左スレハ原
 裁判所カ論地ハ喜助ニ於テ堤防ノ破壞等ヲ修ムルニ暇アラス明治維新前後ニ在テ既ニ荒
 蕪ニ屬シタルヨリ舊藩之ヲ引上ケ官普請ヲ爲シ然後被告先代へ拂下タルモノト推測シ且

被告(被上告人)ニ於テ公正ノ手數ヲ以テ之ヲ所有シ十ヶ年ノ久キヲ經タレハ今更被告ニ對シ所有ヲ爭ヘカラサル旨申渡セシハ不當ニ非ストス

又上告人ハ明治五年七月大島喜助ノ養子トナリシ後モ尙ホ被上告人ヨリ論地ヲ借受小作セシモノト認サルヲ得ス何トナレハ被上告人カ乙第六號明治五年六年七年論地ノ作徳米ヲ上告人ヨリ取立タリトノ證據物ニ對シ一モ抗弁セサリシヲ以テナリ(養父喜助カ養子トナリシ後ハ下作セシヲ論ハアレトモ)然レハ原裁判所カ原告(上告人)モ嘗テ被告(被上告人)ヨリ該地ヲ借受下作セシヲアルニ於テハ猶更今ニ至リ所有ヲ爭フヲ得サルトノ旨申渡セシハ相當ナリトス

判決

右ノ筋合ナルニ依リ長崎上等裁判所カ明治十四年六月三十日本訴ニ與ヘタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

上告入費ハ上告人ヨリ辨償スヘシ

第五百五號

○讓渡地所受戻ノ件大阪上等裁判所
 明治十四年十月十八日上告
 明治十五年四月八日申渡

德島縣阿波國名東郡矢三村
 平民

上告人

柳澤榮三郎
 東京府神田區今川小路二丁目

右代言人

七番地寄留熊本縣平民
 白石剛

大阪府大和國十市郡池田村
 平民

梅咲善八

上告要領

第一條

原裁判所ノ判文ニ「福本兵三郎カ被告ノ代理者タラハ被告第四號証ニモ兵三郎ノ名義ヲ書加フヘキ筈ナルニ原告第一號証ト同日ニ成立タル被告第四號証ニハ單ニ梅咲善八殿ト記載アル迄ニテ其代理者タル兵三郎ノ名義ナシ」トアレトモ被告第四號証ハ買受人ノ所持スヘキモノナレハ單ニ買受人ノ名宛ニシテ代理人ノ名宛ニセサルモ敢テ妨アルコトナシ其代理人ノ名義ヲ掲ケサリシハ地券書換上代理人ノ名義ニ爲シ置ク能ハサル所ヨリ斯ク代理人ノ名義ヲ被告第四號証ニ記載セサルモノナレハ被告第四號証ニ代理人即チ福本兵三郎ノ名義ナキノ處ヲ以テ福本兵三郎ハ被告上告人ノ代理人ニアラスト云フヲ得ス何ントナレハ被告第四號証ニハ代理人ノ名義ヲ記載スルノ必用ナルコアラサルヨリ之ヲ記載セサリシモノナレハナリ而テ上告第一號証ハ之ニ反シテ被告上告人梅咲善八自ラ被告第四號証ノ契約ヲ爲サス代理人福本兵三郎ヲ以テ之ヲ爲シタルヨリ其代理人タル福本兵三郎ヨリ之ヲ受領シ置クモノナレハ必ス代理人ノ名義ヲ顯ハシ置カサルヲ得サルモ

ノナリ故ニ上告第壹號証ト同日ニ成立タル被上告第四號証ニ代理人福本兵三郎ノ名義記載ナキノ点ヲ以テ福本兵三郎ハ被上告人ノ代理人ニアラスト裁判セラレタルハ所謂誤斷ニ出タル不法ノ裁判ト思惟ス

第二條

又同判文ニ(原告第三號証ハ該地ヲ保有スルニ付テハ一切ノ事務ヲ委任セシ迄ニテ其所有權ヲ移轉スル如キ重要ノ權限ヲ包含セシ者ニ非ラサレハ原田十平ヨリ如何様ノ保証ヲ爲スモ被告ノ權利ニ影響ヲ及ス可キモノニ非ス)トアレトモ上告第三號証ニハ(金澤新田高須新田共該地ニ關スル事務ヲ初貢稅諸役ニ至ル迄渾テ)トアルヲ以テ地所保有ニ關スル者ノ如シト雖モ原田十平ノ任タル事實ニ重シト謂フヘシ斯ク重任ヲ負フタル原田十平カ上告第一號証ノ保証人タルヲ以テ觀ルモ上告第一號証ノ成立チニ疑ヒナカルヘシ如何ントナレハ原田十平ハ被上告人ヨリ重要ナル委任ヲ受ケ居ルモノナレハ專ラ被上告人ノ利益ヲ計ルノ人ナリ左スレハ被上告人ノ代理人ニ非ラサル福本兵三郎カ上告第一號証ヲ渡ス場合ニ於テ之レカ保証人トナル可キ謂フナケレハナリ然ルニ被上告人ヨリ重要ナル任ヲ受ケ居ル原田十平スラ上告第一號証ノ保証人トナリ今尙上告第二號証ノ如ク上告第一號証ハ被上告人ノ代理人福本兵三郎カ差入タルニ相違ナキコトヲ保証ス然ルニ原裁判所ハ上告第三號証ハ所有權ヲ移轉シ得ヘキ委任ノ証ニアラサレハ原田十平ヨリ如何様ナル保証ヲ爲スモ被上告人ノ權利ニ影響ヲ及スモノニアラスト裁判セラレタルハ是亦不法ノ裁判ト思惟ス

第三條

又同判文ニ(原告第九號乃至第十一號証手簡ハ其シヤ被告ノ手ヨリ差出シタル者トスルモ賣戻シノ契約ヲ結ビ得ヘキ權利ヲ被告ヨリ委任セシ者ト見認ムル文意ナケレハ是等ノ數証ヲ以テ原告第一號証ヲ慥ムルノ具ト爲スニ足ラス)トアレトモ上告人ハ上告第九號乃至第十一號証ヲ以テ被上告人カ代理人福本兵三郎ヘ賣戻シノ契約ヲ爲シ得ヘキ權利ヲ與ヘシ適証ト論辨シタルコトアラズ被上告人カ福本兵三郎ヲ以テ代理人ト爲シタルコトナシト云フニ依リ其仲供ノ虛妄ニ出タルヲ排除シ其實果シテ福本兵三郎カ被上告人ノ代理人タルコトハ上告第九號乃至第十一號証ノ手簡中本件論地ノ地券ニ付種々ノ照會ヲ爲シアレハ此ヲ以テ觀ルモ福本兵三郎カ被上告人ノ代理人ニ相違ナキヲ徵スル証據トシテ提供シタルモノニシテ而シテ該上告第九號乃至第十一號証ニ據レハ福本兵三郎カ代理人ニ相違ナキヲ徵スルコト余アレハ此等ノ數証ハ上告第一號証ノ確實ナルコトヲ証スルコト足ラスト裁判セラレタルハ是亦不當ノ裁判ト思惟ス

第四條

同判文中ニ(原告ニ於テ兵三郎カ被告ノ代理者タル証明ヲ爲シ能ハサレハ原告第一號証ハ以テ本訴ノ權利ヲ證明スルノ力ナキモノトス)トアレトモ上告人カ福本兵三郎ハ被上告人ノ代理人タルコトヲ証明シタルハ被上告人カ本件論地ノ賣買契約ノ爲スニ被上告人自ラ上告人ノ居村ニ出張セシテ福本兵三郎ヲ遣シタルコト福本兵三郎ヲ遣シタルヲ以テ上告第九號乃至第十一號証手簡ノ往復アリタルコト及ヒ上告第三號証ノ如ク被上告人ヨリ重

要ナル委任ヲ受ケタル原田十平モ上告第一號証ノ保証人ト也且ツ上告第二號証ノ如ク保証ヲ爲スヲ等ハ全ク福本兵三郎カ被上告人ノ代理人タルヲ証明シタルハ充分ナル者ニアラヌヤ而テ被上告人ハ此点ニツキ福本兵三郎ヲ以テ自己ノ代理人ニ遣シタルニアラスンハ上告第九號乃至第十一號証ハ何等ノ譯ヲ以テ斯ル往復ヲナシタルヤハ之ヲ証明シ能ハサリシニアラスヤ然ラハ則チ此争点ヲ決スルニハ審理法ニ於テ必ス福本兵三郎ヲ喚問セサルヘカラス然ルニ原裁判所ハ上告人カカ充分ノ証明ヲ爲シタル事項ハ之ヲ掲ケスシテ福本兵三郎ノ喚問モナク漫コ兵三郎カ被上告人ノ代理人タリシ証明ヲ爲シ能ハサレハ上告第一號証ハ以テ本訴ノ權利ヲ証明スルノ力ナシト裁判セラレタルハ是亦不法ノ裁判ト思惟ス

第五條

同判文中ニ「原告第四號第五號証ニ記載アル地代ハ金惣計三万圓ナルモ原告ヨリ被告ニ賣渡シタル時ノ實際代價ハ六千二百五拾圓ナルニ其証書面ニハ原告第四號第五號証ト同様三萬圓ノ金高ヲ記載シ有テ視レハ原告第四號第五號証ノ金高モ亦被告第四號甲乙証ノ金高ニ於ケル如ク畢竟地券面ノ金高ヲ顯シタル者ニテ實際賣買ノ金高トハ認メ難シ又原告第六號証ハ現今ア評價ニシテ賣買ノ當時テ証スルニ足ラス」トアレトモ本件論地ハ上告人カ明治八年中上告第四號第五號証ノ如ク三方圓ヲ以テ之ヲ買受ケタルモノナリ而テ本件論地ノ實價タルヤ上告第六號証ノ如ク平均ニシテ合計四万五千四百五拾圓ナリ其所得モ亦上告第七號証ノ如ク七千八百六拾圓余ナリ殊ニ明治八年以來地價ハ概シテ騰貴シ敢而低落シ

タルヲ莫シ況テ地券價額ハ乃チ地租ノ因テ生スル基本ナレハ徒ラニ巨額ノ金額ヲ記載シタルモノニアラス相當賣買價額ヨリモ寧ロ低價ト云フモ詛言ニアラス然ラハ上告人カ六千二百五拾圓ヲ以テ被上告人ヘ賣渡シタルハ全ク上告第一號証ノ賣買契約アルニ起因シタルヲハ一目瞭然毫モ疑ヒナキ所ナリ然ルニ原裁判所ハ被上告第四號甲乙証ニ地券面ノ價額ヲ顯ハシアレハ上告第四號第五號証モ地券面ノ價額ニシテ賣買價額ニアラス又上告第六號証ハ現今ノ評價ニシテ賣買當時テ証スルニ足ラスト裁判セラレタルハ甚ダ審理ヲ究メテ事實ノ如何ヲ顧ミサル無稽ニ出タル不法ノ裁判ト思惟ス

但本件ノ來歴及ヒ被上告人カ大阪上等裁判所ニ提供シタル各証ノ辨駁ハ上告人カ同裁判所ヘ提供シタル書類ニ充分尽シアレハ偏ニ御参照アラソコトヲ乞願シ別ニ上申セス

辨明

抑モ上告第一號証ニ據レハ福本兵三郎ナルモノハ被上告者ノ代理人トナリ上告者ヘ對シ論地ノ賣戻ヲ約束シタルモノ、如シト雖モ此兵三郎ハ被上告者ノ代理人タル証左ノアルヲ觀ス上告者ハ其第二號証原田重平ノ保証書及ヒ第九號乃至第十一號証被上告者ヨリ兵三郎ヘ差遣シタル書翰ヲ以テ兵三郎ハ被上告者ノ代理人ナリト証スレトモ右重平カ保証ハ本訴起生后ニ成立シタルモノニシテ且此重平ハ上告第三號証ノ如ク論地ニ關スル事務ヲ被上告者ヨリ任サレタルモノナルモ被上告者カ權義ニ關スル事柄ヲ他人ヘ對シ保証ナスカ如キヲ委任シタルモノニアラサレハ此重平カ保証ハ被上告者ニ關係アラス又上告第九號乃至第十一號証ノ書翰ニハ何レモ論地賣戻シ等ノヲ委託セシ文詞ノアルヲ觀

二四
ナルノミナラス上告第一號証書ト同日ニ成立タル被上告第四號証書ニ被上告者ノ名前ヲ
記シ被上告者ト直接ニ契約爲シタルヲ見レハ其同日ニ上告者ニ受取ヘキ証書ノ契約ハ兵
三郎ト取結ヒ其被上告者ヘ差入ヘキ証書ノ契約ハ被上告者ト直接ニ取結ヘキ理由アルヲ
觀ス又上告者ハ上告第三號証書ノ如キ論地ニ付テハ重要ナル權限ヲ被上告者ヨリ委任サレ
タル原田重平カ上告第一號証書ノ保証人ナレハ該第一號証書ノ契約ハ確實ナル旨申述ス
レモ右第三號証書ノ委任狀ニ據レハ「金澤新田高須共該地ニ關スル事務ヲ始貢租諸地役ニ
至ル迄渾テ右委任狀仍テ如件」トアリテ即チ該地保全方一切ノヲ委任セシ者ニ之レ
カ賣買讓與等被上告者カ權利上ニ關係ヲ來スカ如キ事柄ヲ委託セシ者ニ非ス然ラハ福本
兵三郎ハ被上告者ノ代理人ニアラス又原田重平カ保証ハ其効ナケレハ上告第一號証書ハ
被上告者ニ對シ其効驗ヲ有セサルモナリ然ルニ上告者ハ右兵三郎ヲ原裁判所ニ於テ被
上告者ノ代理人ナルヲ否テ判決スルニハ兵三郎ヲ召喚シ親シク之レカ問糺ヲ遂ケサルヘ
カラサル筋ナリトノ所論アルモ既ニ証書上ニ於テ判然シタル事柄モ猶之レヲ召喚シ審問
セサルヘカラストノ道理ナケレハ是等ノ事柄ヲ以テ破毀ヲ要ムルノ材料ト爲スヲ得ス又
上告者於テ論地ハ三万圓ノ金額ニテ上告者ニ買受ケ且地券代價モ三万圓ナルニ被上告者
ハ六千貳百五拾圓ニテ賣却セシハ必竟上告第一號証書即チ賣戻シノ契約アル明証ナリト
云フモ如何セン其第一號証書ハ上文辨明ノ如ク被上告者ニ對シ効驗ヲ有スルモノニアラ
サレハ其低價ヲ以テ賣却セシ事跡ヲ以テ第一號証書ヲ有効ノモノト爲スヲ得ス故ニ原裁
判所ニ於テ結局(原告(上)ノ請求不相立者也)ト申渡シタルハ不當ノ裁判ト謂フヲ得ス

判決

右辨明ノ理由ナルヲ以テ明治十四年八月一日大坂上等裁判所ニ於テ申渡シタル終決裁判ハ
破毀スヘキ理由ナキモノトス

第百六號

○判文(明治十四年九月十二日上告)
明治十五年四月十日申渡
上告人

埼玉縣武藏國南埼玉郡篠津村
三十六番地平民勝房之助外三
名代言人

東京府神田區佐久間町三丁目
廿七番地平民

八 幡 儀 三 郎

埼玉縣武藏國南埼玉郡南中曾根

村三番地平民岡崎時三郎代人

同縣同國同郡表慈恩寺村八番地

平民

厚 澤 眞 喜 太

埼玉縣武藏國南埼玉郡篠津村四

十七番地平民竹林榮輝代言人

被上告人

東京府京橋區南鍋町一丁目
七番地寄留和歌山縣平民

植木綱二郎

○管財權解放及ヒ精算要求一件上告ノ判文(明治十四年九月十二日上告) 明治十五年四月十日申渡
上告人勝房之助外四名ハ本案ノ起訴者ニシテ被上告人竹林榮輝ニ對シ請求セシ條件ハ左ノ
三項ナリトス

第一 甲乙第一號証ヲ以テ委託セシ管財權ヲ解放セントノ事

第二 房之助所有ノ田畑合計九町八畝十五步ニ關スル明治十年ヨリ明治十二年迄歲入出
ノ計算ヲ知ントノ事

第三 附托セシ房之助カ實印ノ返還ヲ得且附托中押用セシ事件ヲ知ントノ事
東京上等裁判所ニ於テ甲乙第一號ノ契約ハ請負契約ノ性質アルヲ以テ第三ノ條件ヲ除クノ
外房之助等ノ請求不相立ト判決シタリ

房之助外四名ハ右ノ判決ヲ不法ナリトシ破毀ヲ求ム其主点左ノ如シ
一 甲乙第一號ノ契約ハ管財代理ヲ委託セシモノニシテ請負ノ契約ニアラストノ事
被上告人答辨ノ要旨左ノ如シ

第一 管財委任ノ契約ナラハ契約書ニ財産ノ全額ヲ記シ又其財産ニ過不足アリシトキノ
處置方ヲ記シ次ニ入費トシテ授受セシ金百圓ヲ取戻スヲ記スヘキ順序ナルニ其記載
方ヲ逆ニセシハ管財委任ノ契約ニ適セストノ事

第二 甲乙兩証書ニ記セル房之助カ居室ト地所壹町ノ外財産ヲ剩セシトキノ方法ヲ定メ
サリシハ請負契約ニ適合ストノ事

第三 契約ノ事件目的ノ如ク行ハレヌシテ房之助カ身代ヲ盡スニ至ルトキハ曾テ請取ル
處ノ掛合入費金百圓ヲ返還スルハ即チ居室ト地所壹町ノ償金ニ充ツルノ筋合ニシテ雙
方共利益ヲ計リシ契約ナリトノ事

又被上告人ハ左ノ理由ヲ述ヘ甲乙兩証書ノ契約ハ既ニ其局ヲ結了セシ旨ヲ証セリ

第一 乙第四號長島伊平次ヨリ取置ク處ノ証書アリ而シテ房之助等此証書ヲ認諾セシ証
據ハ右第四號証授受ノ後ニ係ル房之助カ金圓受取書ニ都テ借用ノ文字アリ其他乙第六
號小作人等ヨリ取置ク處ノ証書ニ依レハ房之助ハ各小作人ニ對シ既ニ地所分割セシ事
ノ中贈リタルヲ知ルニ足ルヘシトノ事

第二 上告人ニ於テ被上告人ハ地券取戻シ事件ニ曾テ尽力セスト云ト雖モ若シ果シテ然
ラハ入費金百圓ヲ取戻サント求ムヘキ筈ナルニ曾テ其儀ナカリシトノ事

辨明

第一條

東京上等裁判所ニ於テハ被上告人ヨリ上告人等ニ對スル甲第一號証ニ「宅ハ不及申地所
壹町歩丈々相殘シ家名行立候様可取計」トアルヲ房之助一家ノ財産ヲ以テ負債償却ニ充
テ而シテ過不足アリシトキノ方法ヲ定メサリシ所以ノモノハ其過不足豫メ期シ難キヲ以
テ之レヲ未必ノ損害ニ付シ居室ト地所壹町ヲ以テ家名繼續セシムル事ヲ期セシヲ見ルニ

是レハ即請負ノ性質ト認ムト解釋セリ。
 依テ按スルニ凡請負ノ契約トハ委託人ト請負人トノ間ニ於テ目的ノ事柄ト請負料トヲ定
 メ委託人ハ請負料ヲ拂ヒ請負人ハ委託ヲ受ケタル事柄ヲ成就セシメント約束スル双務ノ
 契約ヲ云フ故ニ請負ノ契約ヲ爲ント欲セハ先其目的ノ事柄ト請負料ノ高ヲ定メサルヘカ
 ラス且其目的ノ事柄タルヤ他人ニ關セズ必ズ請負人ノ存意ニテ成就セシムルヲ得ヘキ事
 柄ヲササルヘカラス是等ノ要件ヲ定メズシテ請負契約ノ成立ツヘキ謂レナシトス然ルニ
 本案ノ契約タル請負料ハ姑ク房之助一家ノ財産ヲ以テ之レニ充テタルモノト爲スモ目的
 タル事柄ハ房之助カ負債ヲ償却スル事及ヒ房之助カ他人ヨリ預リタル處ノ地券ヲ別人ニ
 詐取セラレシヲ取戻ス（被上告人ハ房之助及ヒ分家豊三郎ノ地券ニシテ別人ノ地券）
ニアラスト云フ今此所ニ於テハ姑ク上告人ノ中立ニ由ル
 ニケ條ナリトス是皆他人ノ存意ニ關シ請負人ノ存意ニテ成就スヘキ事柄ニ非ス如何トナレ
 ハ請負人本人ニ代リ負債ノ減額ヲ乞フモ債主之ヲ肯ンセサレハ如何トモスヘカラス又地
 券取戻ノ掛合ヲ爲ン手地券ヲ有スルモノ之レヲ肯ンセサレハ是又如何トモスヘカラス
 ナリナリ此場合ニ方リ請負料ノ外請負人自己ノ財産ヲ以テ辨償スル事ヲ豫期セシモノ
 トセン手負債ノ額幾許又其詐欺ニ罹リシ地券ノ實價幾許ニシテ請負人能ク代償スルノ資
 カアリヤ是等ノ事實ヲ詳ニセサレハ果シテ請負ノ契約ナリト斷定スヘカラス然ルニ甲乙
 面證書ニ目的ノ如ク房之助カ居宅ト地所壹町トヲ剩ス事能ハスシテ房之助カ身代ヲ尽ス
 場合ニ於テハ云々ノ明文アリ是レ請負契約ノ實ナキモノトス如何トナレハ總テ財産ニ關
 スル義務ハ義務者ノ身代ヲ尽スヲ以テ極度トス義務者ニシテ既ニ此極度ニ達スルナリトモ

ハ又何ソ請負人ヨ俟ンヤ日被告人ハ房之助カ親族ヨリ掛合入費助カトシテ金百圓ヲ受取
 ルヘキ事ヲ約セリ是又請負契約ニ不相應ノ事ナリトス如何トナレハ請負ナルモノハ其請
 負料ヲ以テ一切ヲ引受クルヲ通例トセハ別ニ費用ヲ受クルノ謂レナケレハナリ彼是ノ事
 實ヨリ推考スレハ此契約ハ房之助カ家計困難ノ場合ニ方リ一旦家出ノ節被上告人ハ房之
 助カ隣家ニシテ平素懇信ナリシヨリ一書ヲ殘シ（乙第 二號）後事ヲ委託セシニ起リ其後甲乙面
 證書ヲ授受セシモノニシテ其書中宅ハ不及巾地所壹町丈ケ和殘シトアルハ可成ハ居宅ト
 地所壹町丈ケヲ失ハサル様只管尽力アラント頼ムトノ趣意ニ止リ其余ノ家産ヲ悉皆請負
 料ニ委シ過不足ヲ顧ミサルカ如キ契約ト解スヘカラス被上告人ニ於テ房之助カ身代ヲ尽
 スニ至ル時ハ金百圓ヲ差戻ストアルヲ執リ事成ルトキハ居宅ト地所壹町ノ外ハ都ニ吾カ
 有ニ屬シ若シ事成ラサルトキハ費用ト勞力トヲ吾損失ニ飯スヘキ契約ニシテ即双方共ニ
 利益ヲ期圖セシモノナリ決シテ上告人ノ論スル如ク事成ルトキハ全ク上告人ノ利益トナ
 シ事成ラサルトキハ費用勞力共吾カ損失ニ飯スヘキ恩惠ノ契約ニアラサル旨論辨セリ是
 レ被上告人カ原裁判ヲ辨護スルノ第一主眼ナリトス然レトモ房之助カ家産ヲ以テ房之助
 カ負債償却ノ事ヲ委託サレタルモノタラハ掛合入費ノ如キハ房之助カ財産中ヨリ支辨スル
 ハ當然ニシテ嘗テ之レヲ禁セシ事ナキノミナラス契約書中家事進退人竹林榮輝ト明文ア
 ルニアラスヤ又有百圓ハ房之助カ身代ニ關シ親族ヨリ助カトシテ附與スヘシトノ趣意
 タレハ是ヲ以テ費用ノ額ヲ定メシモノト見做スヘカラス然ルニ終審裁判ハ右等ノ理由ア
 ルニ關セズ請負契約ノ性質ナリト判決セシハ不相當ナリトス

第二條

甲乙兩証書ニ大事件トアルハ房之助及ヒ分家豊三郎カ地券ノミニ關セシヤ或ハ町田捨五郎以下七名ノ地券ニモ關セシヤ又其地券取戻ノ結果ハ如何ナリシヤヲ審究スルハ本案ナリ判決スルニ欠クヘカラサル條件ナリトス如何トナレハ房之助外壹人ノミノ地券ナルト捨五郎以下七名ノ地券ニモ關スルトニヨリ房之助カ責任ニ於テ甚シキ輕重アリ隨テ請負ノ契約ナリト主張スルノ点ヨリ論スルモ目的ノ事柄大ニ差等アリ又其地券ハ若シ房之助カ自ツカラ取戻シタラシハ被上告人ハ引受ケタル大事件ヲ成就セシメサリシモノナルヲ以テ契約ハ自然消滅スヘキヲ以テナリ上告人ニ於テ大事件トハ即房之助豊三郎ノ地券ノミナラス町田捨五郎以下七名ノ地券二十九町五反三畝廿一步ノ地券ヲ以テ金三千五百圓ヲ借入ル、見込ニテ各持主ヨリ預リ居タル處宮原嘉右衛門ナル者ノ詐取ニ罹リ捨五郎等ヨリハ嚴重ノ督促ヲ受ケ進退困窮ノ余リ終ニ家出ヲモ爲スニ至リシ事情ニシテ自分并ニ豊三郎ノミノ事件ナラハ斯如ノ場合ニハ至ラサリ旨申立被上告人ハ最初甲乙ノ契約ヲ結ビシ節ハ房之助豊三郎ノミノ關係ナリシカ爾後他人カ地券ノ事ニモ及ヒ旨申立ト雖モ請負人ナリト主張スル者ニシテ如斯範圍不分明ノ契約アルヘカラス又其大事件ノ結果ヲ見ルニ原裁判所ハ其判文第二條ニ「原告〔被上告人〕カ多少該件ニ從事シタル事實ヲ認ムルニ足ルヲ以テ仮令被告〔上告人〕カ該件ニ力ヲ盡シタル証アルモ之ヲ以テ原告カ從事セサリシヲ証スルノ具ト爲スヲ得サルモノトス」トアリ此意上告人カ盡力セシ証据アルモ被上告人モ亦多少盡力セリト云フニ在リ是レ請負人ト云フニ背馳セシ判決ナリトス如

何トナレハ請負人自ツカラ其事ヲ負擔セシメテ却テ本人ニ盡力セシメタルハ請負ノ實ナキモノタルハナリ之ヲ要スルニ被上告人モ或ハ奔走周旋セシ事アルヘシト雖モ其大体ヲ論スレハ房之助カ告訴ニヨリ東京裁判所ノ判決ニテ地券ハ都テ房之助ヘ下付セラレタル實跡アル上ハ全ク被上告人カ委託事件ヲ成就セシモノトハ論シカタクシ其他負債償却事件ノ如キモ双方相互ニ辨論スル處アリト雖モ結局借用金証書ノ未タ借用人タル上告人ノ許ニ皈セサル以上ハ是又整頓セシモノト論スヘカラス

第三條

被上告人ハ其第四號長島伊平次ナル者ヨリ取置ク處ノ証書而及ヒ其後房之助カ金員受取証書ニ都テ借用ト記セシ事又其第六號小作人等ヨリ取置ク處ノ証書ニ示談ノ上地所相分り候ニ付云々トアル等ニヨリ甲乙ノ契約ハ既ニ其局ヲ了シ上告人ハ居宅ト地所二町ヲ得テ一旦満足セシノ旨申立ト雖モ前條々ニ辨明セシカ如ク大体ノ事柄請負ノ事實ナキノミナラス地券取戻シハ被上告人ノ力ノミニ由リシニアラス又負債償却事件モ義務者タル上告人ニ於テ未タ全ク義務ヲ免レサルニ伊平次并ニ小作人等カ如何ナル書面ヲ差入タルモ又金子受取書ノ文面ニ差違アルモ畢竟鎖末ノ事項ニシテ本案ノ大体ヲ變スルノ効力ナキモノトス

第四條

右ニ辨明セシ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ判決スル事左ノ如シ

判決

控訴原告竹林榮輝ハ是迄ノ勞力ニ對シ控訴被告勝房之助ヨリ相當ノ謝金ヲ受クルヲ外房之助等カ第一第二ノ請求ヲ差拒ムノ權利ナシトス但シ訴訟入費ハ竹林榮輝ヨリ辨償スヘシ

第七號

○判文(明治十四年六月十六日上告) 明治十五年四月十二日申渡

上告人

千葉縣下総國千葉郡州村百八十三番地平民 宍倉藤五郎

千葉縣下総國千葉郡畑村二百壹番地平民 齋藤善次郎

外百三十名

東京府日本橋區浪花町卅三番地 藤江幸吉

右代言人

共有地々券書換請求一件上告人ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ不當トシ破毀ヲ求ムル上告ノ要領左ノ如シ

第一條

終審判文ニ(論地ニ對シ戸別割ノ草錢永上納セシトハ其証ノ見ルヘキナク)トアレハ被上告第十七號証ニ(永錢五百文村内ヨリ納稅仕來)トアリテ此村内ヨリノ納稅ハ即チ戸別割ヲ以テ徵收スルノ外ナシ然ルヨ原裁判所ハ其証ノ見ルヘキナクト判決セラレタルハ不當ト思考ス

第二條

同判文ニ(都テ原告第三四號証ノ山手役第五六七號証ノ草錢収納ノ場所ナレハ千葉道及上野ノ兩所ト論地ト其賦課ノ方法ヲ異ニスルノ理アルヘカラス)トアレハ若シ千葉道及ヒ上野ノ兩所ト論地ト其賦課ヲ同フスルナラハ壬申改出貳百七拾九筆ハ是レ同一ノ地ニテ銘々持ト村中持トノ區別ハ非サルヘシ然ルヨ原裁判所ハ茲ニハ賦課ノ方法ヲ異ニスルノ理ナシトシ共次ニハ銘々持チ村中持トノ二種アリトセラレタルハ不當ト思考ス

第三條

同判文ニ(又草錢永五百文ヲ右改出地所二百七拾九筆ノ反別五町六反五畝廿八步ニ除スレハ云々右千葉道上野兩所ノ畑五畝拾五步へ乘スレハ四文四步余ナルヘシ云々然ルチ八百文ヲ收ムルハ是決シテ右兩所ノ草錢永ニ非サルヲ知ルヘシ)トアレハ千葉道上野及ヒ論地ハ上告人カ八百文ヲ收メタル當時ハ無反別ナルヲ以テ一ケ年限リ見取永ノ割賦ニ應シ千葉道上野ノ兩所へ總八百文宛天保年間兩度ニ納稅シ爾來下作錢ハ勿論地稅上納シタルヲ曾テ之ナク又論地ハ前第一條ニ述タル如ク戸別割ヲ以テ納稅シタリ然ルニ原裁判所

ニ於テ永五百文ヲ貳百七十九筆ノ反別五町六反五畝廿八歩ニ除セラレタルハ是レ壬申改出ノ惣反別ハ皆同一ノ地種ト看做シ反當リヲナサレタルナレモ其次ニハ(該訴論地并ニ其外三拾八筆ノ地所ハ云々銘々持ト村中持トノ二種アリ)ト區分セラレタルハ矛盾ノ判定ナリ況ンヤ五町六反五畝廿八歩ノ内三拾八筆(村中持ト稱)ヲ除棄セスシテ二百七十九筆ノ惣反別ニ五百文ヲ除セラレ之カ判決ヲ下サレタルヲヤ

第四條

同判文ニ(原告第十七號廿一號証及ヒ右廿號証云々ニ參照シ)トアレモ被上告第十七號ハ戶長代理ノ保証ナルモ無原因ノ保証ナレハ証トスルニ足ラス却テ其文詞中ニ(永錢五百文ツ、村内ヨリ納稅云々)トアリテ此村内ヨリノ納稅ハ即チ戶別割チ以テ徵收シタルヲ見ルヘシ又被上告第廿一號ハ被上告者ノ部内タル山中伊兵衛其他ノ者ノ故造心ヨリ成立シモノニテ戶長ノ証明アルモ是亦無原因ノ証ナレハ信ヲ置ニ足ラス然ルヲ原裁判所ニ於テ之ヲ採用セラレタルハ不當ト思考ス

第五條

同判文ニ(右八百文ハ該訴論地ノ下作錢ト認メ云々原告第十號乃至十二號証ニ字ノ相違アルモ論地ヲ記載セシモノト見做サ、ルヲ得ス)トアレモ往年村吏ノ割賦ニ應シ八百文ヲ收タルヲ前第三條ニ云フ如クニシテ本訴論地ニ對シテハ未曾テ下作錢トシテ役場ヘ收タルヲ無之若シ被上告ニ於テ小作錢ヲ領收スレハ年々下作錢取立帳簿ヲ製シ之ヲ徵收スヘキニ其証ヲ舉サルヲ看レハ下作金トシテ徵收シタリトハ口頭ニ止リ採ルニ足ラサル

ナリ又被上告第十號及十二號証ハ字ノ相違アリ殊ニ上告第五六號証ニ依ルモ舊村吏ヨリ引繼カサル帳簿ナレハ信スルニ足ラス然ルヲ原裁判所ハ如此判決セラレタルハ不當ト思考ス

第六條

同判文ニ(該訴論地并ニ其外三拾八筆ノ地所ハ村民ノ共有ニシテ被告ノ自認及實跡アルヲ以テ益明瞭ナリトス此ニ由リ之ヲ觀ンハ原告第十三十四號証ニ言ヘルカ如ク從前草錢場ノ内銘々持ト村中持トノ二種アリテ該論地ハ村中持ノ場所ニ係リ云々)トアレモ實跡アルトハ何ヲ指シタルカ又被上告第十三號証ハ其紙質及ヒ墨色ヲ見ルニ文政四年頃ノモノニ非スシテ不正ノ証タルハ一見シテ明カナリ又被上告第十四號証ハ明治十年八月十四日被上告者カ千葉縣廳ヘ上伸シタル書面ニテ本訴詞訟後ニ成立シモノナレハ立証ノ力ナリ況ンヤ上告者カ看認タ、証ニ非スシテ被上告者ノ意中ヲ吐露シタル迄ノモノナルニ於テヤ然ルヲ上文ノ如ク判決セラレタルハ不當ノ裁判ト思考ス

第七條

同判文ニ(原告第一號証第十八號証ハ役場ノ偽造ニ係ルモノト認ムヘキ憑徴モアラサレハ)トアレモ被上告第一號証ハ明治五年新ニ調製シタル村吏ノ手扣同様ノモノニテ該帳簿ヲ論地ノ名寄帳トハ見認メ難ク抑名寄帳ナルモノハ田畑一筆限り明記シ各自名下ヘ押印シアルヘキモノナルニ該帳簿ハ各自押印モナク上告第六七號帳簿引繼ノ受領証ニ掲載アラサレハ被上告等カ手中ニ成リタルヲ益明カナリ又被上告第十八號証ニ齋藤善治郎

外百卅名トアレ地引帳其他ノ帳簿ハ上告者ノ名義ニ調製シアルハ地方廳ノ回答書ニテ
明晰タリ又本訴論地ハ村中持ノ共有ナレハ百五拾壹名ノ共有ナルヘキニ付被上告第十八
號ニ村中持或ハ誰外百五拾名ト記載スヘキニ被上告等ノ人名ノミ記載シアルハ是レ戸長
ニ被上告ノ親戚アルヨリ其望ニ任セ斯ク明記シタルモノナルヲ原裁判所ハ如此判決セラ
レタルハ不當ト思考ス

被上告代人ハ右上告ニ對シ原裁判ハ不當ナラサル旨辨護セリ

第一條

被上告第十七號証タル本訴論地ニ係ル税金ハ村内ヨリ納ムルヤ又上告人ヨリ納ムルヤノ
兩点ヲ村役場ノ公簿ニ照シ保証ヲ承ケ度段被上告人等ヨリ申出タルニ對シ戸長役場カ村
内ヨリ納税スルヲ保証セシモノニテ上告人ヨリ納税スルヲ無之然ルヲ上告人ハ其村内
ヨリノ納税ハ戸別割ヲ以テ徴収スルノ外ナシト申立レ上告人ハ論地ニ對シ納税セシ
ナシト原裁判所ニ於テ供述シナカラ今此納税ノ証ヲ轉用シテ自分カ嘗テ本訴論地ニ對シ
納メタリト唱ル草錢ノ証トナサントシ加之上告人ニ於テ該証ハ戸長ト被上告人等トノ馴
合ヨリシテ成立タリト之ヲ斥ケナカラ今更之ヲ資テ己レヲ利スルノ証トナサント欲スル
ハ自家撞着ノ論ナリトス

第二條

上告第二條ハ次條ノ辨明ニ就テ解得スヘシ

第三條

上告人カ總八百文ヲ千葉道上野(論地外ノ)ノ兩所ニ對シ納税セシ証據ナシ又論地ニ對シ
戸別割ヲ以テ納税セシヲナキハ第一條辨明ノ通ナリ又壬申改出ノ地所ノ種類ハ同一ニシ
テ其持主ニ至テ銘々持ト村中持ト兩様アル譯ナシトノ旨申立レ上告人ハ本訴論地ノ村
中持ナルヲ被上告甲號証并ニ第二號証ノ通リ上告人ニ於テ之ヲ自認セシヲ歷然タリ而
シテ千葉道上野ノ兩所ハ論地ト同シ壬申改出ノ地所ナリ之ヲ上告人カ所有シアルハ是
則チ銘々持ナリ抑壬申改出トハ壬申年ニ於テ初テ本田畑トナリタルモノナレハ其前所有
主ノ種々アリタルモ敢テ恠ムコ足テサルナリ左スレハ二百七十九筆ハ壬申改出ノ同種類
ノ地トシ其所有主ノ兩様ナルトシテ永五百文ノ計算ヲ爲スニ三十八筆ヲ除棄セリシト
テ矛盾ノ判定ト云テ得サルモノトス
但シ被上告甲第一號証(被上告甲號)ノ上告人ノ所有ニハ成ラヌ村中共有地ニ係ルモノ
ト迷誤シ誤認ノ登記ナリト上伸書ヲ提供スルモ上告人ニ於テ論地ハ自分ノ所有タルノ
証據アルアラハ何等ノヲモ迷誤シテ右等ノ書類ヲ差出ス理由アルヘキニ非サレハ
上伸ノ趣不相立モノナリ

第四條

被上告第十七號証ハ第一條ニモ辨明セシ通リ被上告人等ヨリ本訴論地ノ納税者ノ誰ナル
ヤ帳簿取調ノ上確實ノ保証アラシク請ケルニ付戸長代理者カ保証セシモノナレハ固ヨリ
帳簿取調ノ上保証セシモノトセサルヲ得ス又其廿一號証ハ山中伊兵衛等ノ故造心ヲ以テ
製造セシ証據ナクシテ却テ戸長ノ証明アルモノナリ然而シテ上告人ハ右兩號証ノ無原因

タルノ証據ヲ舉タルヲナシ然レハ原裁判所カ之ヲ採用セハ不當ニ非トス
但シ本文廿一號証ハ戸長カ其原簿ノ寫ヲ添ヘサルヲ以テ無原因ノ保証トスル旨上伸ス
レモ是亦帳簿取調タルモノト謂ハサルヲ得サルモノトス

第五條

上告人カ出銅スル總八百文タル論外地千葉上野兩所ノ納税ニ非サルコトハ原判文記載ノ如
ク計算上ヨリシテ明白ナリ而シテ上告人カ總八百文ヲ上納スヘキ他ノ地所ヲ有スルニ非
サレハ自カラ論地ノ下作錢ト認メサルヲ得サルノ理合ナリトス又被上告人ハ其小作錢取
立ノ証トシテ其第十號十一號(天保年)十二號証(弘化年)ヲ提供セシニ上告人ハ其他年
々ノ取立証ヲ求メタルコトナクシテ今ニ至年々ノ受取ナクシテハアラス云々ト謂テ得ス又右
十號十二號証中ニ記載アル地所ノ字ハ稻村堂トアリ論地ノ字ハ中苅コシテ字相違アルモ
右稻村堂ト中苅トハ之ヲ繪圖ニ徵スルコト一帯ノ道ヲ隔タル場所コシテ而シテ上告
人ハ他ニ總八百文ヲ収ムル地所ナキヨリシテ之ヲ見レハ右稻村堂トアルモ本訴ノ論地コ
崑ルモノト推測セサルヲ得サルモノトス又上告第五六號証ハ畑村ノ一平民タル秋山利左
衛門カ上告人ニ貸與ヘタルモノナレハ之ヲ以テ被上告第十號十二號証ヲ舊村吏ヨリ引繼
カサルヲ証スルノ具トナスヲ得サルモノトス

第六條

文政四年頃ノ紙質墨色ハ如何ナルヘキモノナリトノ定リナケレハ其紙質墨色ヲ以テ被上
告十三號証ヲ不正ナリト云フヲ得ス又被上告第十四號証ハ本訴起發後ニ係リ上告人ノ看

認サルモ其事實ノ他証即被上告甲號上告人カ村中持ナリト自認セシ証ト相符合スルモノ
ナレハ之ヲ採用スルコト妨ナク况ヤ本訴ヲ裁判スルノ適証トナセシニ非スシテ唯村中持ト
銘々持トアルト云フヲ引出シカ爲メニ用タルモノナレハ原裁判所カ原告(被上)第十三
號十四號証ニ言ヘルカ如ク從前草錢場ノ内銘々持ト村中持トノ二種アリ云々ト申渡セシ
ハ不當ニ非トス

第七條

被上告第一號証ハ田畑一筆限ノ各自名下ニ押印ナキモ上告人ニ於テ田畑一筆限帳ニハ各
自ノ押印アルヘキ他ノ類例証據ヲ掲ケテ之ヲ駁セスンハアラサルニ其義ナク且被上告人
等ノ手中ニ成タル証ヲモ舉タルヲナシ又地引帳其他ノ帳簿ハ上告者ノ名義ナルモ被上告
甲號証明文通り論地ハ村中持タルヲ上告人ニ於テ自認シアルヲ見レハ前件ノ通總八百
文ノ論地下作錢ニ宛ルモノナレハ論地ハ村中持ナルヲ是迄小作人名義ニ致シ置タルモノ
ト云ハサルヲ得ス又被上告人ノ内戸長カ親戚アルモ其戸長カ云々申立レモ其親戚ノ依估
ヲ以テ右十八號証ヲ偽造セシ証ナシ左スレハ原裁判所カ原告第一號第十八號ヲ偽造ニ係
ルモノト認メサリシハ不當ニ非トス

判決

但シ帳簿引繼ノ受領書ニ掲載ナキ云々ノ点ハ辨明第五條ニ就テ了解スヘシ
右辨明ノ次第ナルニ依リ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス
但上告入費ハ成規ノ通上告者ヨリ償却スヘシ

第百八號

○判文(明治十五年二月十日上告)
全(年四月十二日申渡)

四〇

茨城縣常陸國新治郡中根村

一番地平民

上告人

本 橋 源 兵 衛

東京府神田區中猿樂町二番

地平民

右代言人

大 井 憲 太 郎

茨城縣常陸國新治郡中根村

番外一番地平民

被上告人

本 橋 源 右 衛 門

田地讓渡拒障一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ破毀ヲ求ムル上告ノ要趣左ノ如シ

第一條

甲第一號証慶應度爲取替ノコハ乙第一號証ヲ以解除セリトノ認定ハ不當ナリ何トナレハ
甲第一號記載ノ地面ト乙第一號隱居而田畑トアル地所トハ其性質來歴ヲ異ニスレハナリ
其異ナル所以ハ次條ニ申立ル通ナリ

第二條

乙第一號仮議定書中記載ノ地面(隱居面田)ハ甲第二號証讓渡ノ地面トハ別異ノモノ也又
畑ヲ指ス

仮リニ被上告人ノ論ニ隨フモ乙第二號証ニ明治六年八月議定書ノ廉相用候事トアルモ甲
第二號証讓渡ノ地ハ取除テ相用フルコナリ何トナレハ被上告乙第一號ヲ以テ隱居而田畑
ハ兩親存寄次第ト一旦契約セシニ因リテ其隱居面田畑トアル文字中ニ甲第一號ノ附屬地
ヲモ包含シタリトセンカ然ルモ其後明治七年ニ至リ甲第二號証ヲ以テ特別ニ本訴論地ヲ
讓受タレハナリ

第三條

甲第二號証眞偽如何ニ付加判者等ヲ喚問セヌ乙第一號証ヲ受繼タルモノニシテ乙第二號
証ノ爲メニ消滅セシト推定サレシハ不當トノコ
右ノ通要趣ヲ申立タレハ上告本書ヲ參考アリ度シ而シテ此要趣ニ付テ弁明判決アラソコ
ヲ乞トノコ

弁明

第一條

甲第一號証ノ契約中扶持米ノ件ハ乙第一號証ニ於テ之ヲ更改セシコ判然タリ且ツ上告人
モ亦原裁判所ニ於テ其代言人ヲ以テ明治十四年十月十八日口供ニ右更改ノコヲ申立タリ
然レハ同一通ノ契約書ニシテ其一部分ハ之ヲ改メ其他部ハ之ヲ更改セストノ申分ハ不相
立尙次條ノ弁明ヲ參看スヘシ

第二條

抑本件ハ養父子ノ爭訟ニシテ其來由タルヤ上告人代言人カ明治十四年十月廿一日原裁判

既コ於テナシタル口供ニ原告(上告)カ明治二年八月中實家へ立歸リ云々被告(被上告人)答辨書第一條中コ申立候通相違無之トアルニ依リ右答弁書第一條ヲ視ルニ上告被上告雙方カ度應四年八月中甲第一號証ヲ以隱居(被上告人)附属ノ地ハ雙方共自儘ノ處置不相成旨ノ契約ヲ取結ヒタルモ上告人コ於テ其契約ヲ守ラズ養家へモ立入ラサリシヨリ明治五年養子離縁ノコトヲ其筋ニ出願スルニ至リシ際會ニ取扱人立入り和解ノ末明治六年度ニ乙第一號証仮議定ヲナシ隱居面田畑ハ兩親(被上告人)存寄次第タルヘキコトヲ約束シ其翌七年度乙第二號証ノ議定ヲナシ乙第一號議定書ノ廉ハ違背スヘカラサルコトヲ取極タルモノナリトス然ルニ乙第一號仮議定ヲ以テ甲第一號慶應度ノ契約ハ之ヲ更改セシコトハ既ニ前條ニモ辨明セシ如クナリ尙ホ上告人ハ甲第一號証ノ約ヲ守ラサルヨリ更ニ親類協議ノ上乙第一號証ノ議定ヲナシ家事經營ヲ嚴密ニシタル事跡ト其隱居面田畑ト概記セシヲ見レハ右隱居面田畑ト云ハ甲第一號証掲載ノ隱居附属地ト取添地ヲ包含セシモノト認メサルヲ得サルモノトス然テ甲第二號証ハ乙第一號証仮議定ノ後ニ成立チ右甲第一號証慶應度契約ノ地所ヲ讓渡ストノ証文ナルモ其根原ナル慶應度ノ契約ハ業已ニ更改シタル後ニ係リシ者ニシテ其後明治七年乙第二號証ノ議定ヲナシ家財分配ノ大議定ヲ爲ニ方リ右甲第二號証契約ノ事ハ毫モ之ヲ云ハス却テ之ヲ越ヘ其前年ノ仮議定即乙第一號証ノ旨ハ之ヲ用ユヘシト記入セシヲ見レハ甲第二號証ハ其本幹ナル甲第一號証ノ更改セシニ依リ隨テ消滅シタルニ依ルモノト推定セサルヲ得サルモノトス依テ原裁判所カ甲第二號証ハ乙第二號証ニ依リ消滅セシモノト認定セシハ不當ニ非ストス

第三條

原裁判所ノ判文ヲ閱スルニ甲第二號証ハ果シテ之ヲ取結タルモ之ヲ用ヒスシテ更ニ被告第一號証ノ隱居面田畑兩親存寄次第ノ廉ヲ用ルモノナリ云々トアリテ甲第二號証ノ真正ナルモ其効力ナキヲ認タルモノナレハ其眞偽ヲ取調フルハ本訴ヲ審理スルニ必要ナラザルモノナリ然レハ其眞偽取調ノ爲メ加判者等ヲ喚問セサリシトテ之ヲ不當ト云テ得サルモノトス

判決

右ノ筋合ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナシ
但上告人費ハ上告人ヨリ辨償スヘシ

第百九號

前拂金取戻并償金要求ノ訴東

京上等裁判所裁判不法上告ノ

判文(明治十四年八月六日上告)

明治十五年四月十七日申渡

横濱百七十七番館佛國人

ウアルマルシユース

ミルソム

右代言人

東京府京橋區山下町十八

上告人

ハルバルトアイペラシス

番地主族

被上告人

片岡利和

高知縣平民

安岡喜八

同

前記名ノ上告人ヨリ呈スル所ノ上告狀左ノ如シ

第一條 此事件ニ關スル訴狀ハ前キニ一千八百七十四年八月中當時橫濱在留佛國領事ヲ經由シテ東京裁判所ヘ差出セリ

第二條 右訴狀ノ寫ハ此上告狀ト共ニ進呈ス

第三條 被告答辨書ノ寫ハ共ニ進呈ス

第四條 一千八百八十年一月三十一日附原告弁論書ノ寫ハ共ニ進呈ス

第五條 原告ハ一千八百七十四年一千八百七十五年一千八百七十六年一千八百七十七年

一千八百七十九年及ヒ一千八百八十年ノ數年間數度裁判所ヘ出頭セリ

第六條 右裁判所ニ於テ此事件ヲ擔任セラレタル裁判官ノ姓名ハ詳カナラス

第七條 一千八百八十年八月五日ヲ以テ該裁判所ハ原被告双方ノ間ニ取結ヒタル條約ハ日

本坑法ニ背クヲ以テ無効ニ歸スルモ被告ハ原告ヨリ借入レタル詳銀一萬弗ノ金額ヲ原告

ヘ辨償スヘキノ判決ヲ下セリ

第八條 一千八百八十年八月五日附東京裁判所判決書ノ寫ハ此上告狀ト共ニ進呈ス

第九條 一千八百八十年十一月二日ヲ以テ原告即チ上告人ハ右東京裁判所判決不服ノ控

訴狀ヲ上等裁判所ヘ捧呈セリ被告片岡モ亦一千八百八十年十一月二日ヲ以テ右裁判不服ノ控訴狀ヲ差出セリ

右各控訴狀ノ寫ハ此上告狀ト共ニ進呈ス

第十條 右被告即チ控訴人片岡ノ控訴狀ニ對スル原告即チ被控訴人ノ答辨書ノ寫及ヒ原告即チ控訴人ノ控訴狀ニ對スル被告即チ被控訴人ノ答辨書ノ寫共併セテ進呈ス

第十一條 一千八百八十一年二月二十八日附原告即チ控訴人最終弁論書ノ寫ハ此上告狀ト共ニ進呈ス

第十二條 一千八百八十一年六月三十日ヲ以テ交付セラレタル上等裁判所判決書ノ寫ハ

今回共ニ進呈ス

第十三條 原告即チ上告人ハ左ノ理由アルヲ以テ東京上等裁判所ノ判決ニ服セス

第一條 右判決ハ證據ノ輕重ヲ錯ルヲ以テ不法ナリシヲ

第二條 右判決ハ法律ニ違ヒシヲ

故ニ原告即チ上告人貴院ヘ請願スルヲ左ノ如シ

第一條 東京裁判所及ヒ東京上等裁判所ノ判決ハ廢棄セラレヘキヲ

第二條 詳銀二萬二千七百六十一弗ノ金額ト一千八百七十三年九月十日ヨリ右金額辨償

ニ至ル迄ノ利息ヲ併セテ得ルノ判決ヲ原告即チ上告人ノ爲ニ下サルヘキヲ

第三條 右洋銀二萬二千七百六十一弗ノ金額并利息及ヒ費用共併テ原告即チ上告人ニ償

却スヘキヲ被告即チ被上人ニ命令セラレヘキヲ

第四條 原告即チ上告人ハ此ノ如キ訴訟ノ性質上要スヘキ救助ヲ重テ或ハ更ニ受クヘキ

右上告代官ハハルバルトアイ、ペラシス之レヲ維持辨論スル左ノ如シ

第一條 上等裁判所ノ判決ハ左ノ三個ノ理由ニ基クモノトス

其一 上等裁判所ノ判事ハ本件ノ證據ニ依テ千八百七十三年九月五日ノ定約ハ長坂山ノ銅ヲ賣買スル爲メノ定約ニシテ六千弗ノ金高ハ此定約ノ目的ニ對シテ前拂シタルモノト認定セル事

其二 千八百七十三年九月六日ノ定約ハ右銅ノ賣買ニ付テノ契約ナリトノ事及ヒ上告人ヨリ被上告人ニ貸金トシテ交付シタリト陳述セル四千弗ハ此定約ニ據リ長坂山銅坑ヲ以テ其抵當ニ爲セシトノ事

其三 上告人ノ又請求スル七百六十一弗五十セント并十九法^{フラン}ハ右同一ノ目的ニ對シ前金トシテ交付サレシトノ事

此ニ因リ其裁判ハ右等ノ定約ハ共ニ明治五年三月二十七日(千八百七十二二年五月四日)附太政官第百號布告第一第二第四條并明治六年七月二十日(千八百七十三年七月二十日)附太政官第百五十九號布告第二條ニ記載アル日本抗法ニ犯觸スルモノナルヲ以テ無効ナリト而シテ右德國法ニ犯觸シタル者ハ當廳ノ擁護スルヲ欲セサル所ナリト判決シタリ

第二條 前條東京上等裁判所ノ判決ハ明ニ本訴ノ實效ニ一言ノ及フ無シ而テ上告ヲナス源因タル右判決ハ法律ニ背反スルモノナリトノ理由ヲ以テ貴院ニ上告スルノ外權利ノ

存スル處ナキカ故ニ貴院ニ向テ該判決ハ法律ニ違背スルノミナラス本訴ノ實效ニ一言ノ及フナキヲ以テ不法ナリトノ理由ト又上告人カ事實ニ基ケル判決ヲ得ンカ爲ニハ今ニ至テハ貴院ノ外他ニ訴フルヲ得ル法衙アラサルトノ理由ニ依リテ此上告ヲ受理センヲレソリヲ請願スルノ止ムヲ得サルニ至レリ

第三條 右等ノ狀況ニ據リ且此請願ノ愈々許容セラル、者ト先見シテ茲ニ上中セントスハ下等ノ裁判所ニ呈供シタル口述及ヒ書面ノ證據ノ疑ナク左ノ事ヲ證明スルコト即チ東京裁判所ノ判決シ及ヒ上等裁判所ノ判決ニ依テ暗ニ固定セラレシ通リ千八百七十三年六月二十三日同九月一日同九月五日及ヒ同年九月六日ノ定約カ原被双方ノ間ニ取結ハレ而シテ此雙方カ夫ノ辨說サレタル如キ日本抗法ノ背犯ナル非サル限リハ右定約ヲ守リ其責ニ任セサル可カラサルコト是ナリ

第四條 本訴ニ於ケル是迄ノ諸手續ハ貴院ニ差出タル上告狀其他之ニ附属スル諸書類ヲ以テ畧ホ之ヲ見ルヲ得ヘシト雖モ余ハ尙ホ茲ニ上申セント欲スルハ上告人ノ請求ニ合テ是レハ原トアントワソ氏ヨリ現ニ被上告人ニ係リ横濱裁判所へ訟出タル請求中ニ合籠セシ所ナリ(此一件ハ嘗テ貴院ニ願出シト信ス)當時該裁判所判事ハ其裁判ヲ申渡ス際本件ノ請求ヲ引離シテ之ニ付別ニ出訴センコト命シタリ依之本訴ヲ起セリ而シテ東京裁判所ハ甚タ冗長ナル審問ノ後漸ク其裁判ヲ言渡シ被告ハアントワソ氏ヲ經テ原告ヨリ被告カ既ニ受取タルヲ准諾スル所ノ五千六百五十弗ノミナラス其拂渡シタリト稱スル殘余ノ分モ亦受取タリト判決セリ依テ茲ニ上申スルハ是等ノ拂渡金ノ性質ハ賣

代金ニ非ス其全高蓋シ前拂金トシテ拂渡シタルモノニシテ此事ハ千八百七十三年九月五日ノ定約ニテ明瞭ナルノミナラス又一號及三號証受取書ニテ判然タリ右東京裁判所ノ判文第四條ニ於テハ該條ニ引援シタル証據ニ基キ該探礦事業ハ社中ニ即チ私社ヲ以テ之ヲ創メ「會社」即チ「コンパニ」ニテ營ミシニ非スト判決セリ右初審裁判所ノ判文中ニ引援シタル証據ハ此点ノ確証タリ

第五條 今本訴ニ關係アル或ハ關係アルト辨セラル、所ノ日本坑法ノ論題ニ立入ル前余ハ原被双方ノ間ニ取結ヒタル數個ノ定約ニ就テ二三ノ意見ヲ上申セント欲スルナリ抑モ長坂山ノ坑業ハ千八百七十三年六月ヨリ同年十二月三十一日迄ノ間ニ在テ乃チ政府ノ許可ヲ得テ營ミシ所ナリ千八百七十三年六月二十三日ヲ以テアントワソフ氏ハ被上告人ト一定約ヲ取結ヘリ此定約ハ政府ノ批准ヲ得テ同氏ヲシテ千八百七十三年十二月三十一日迄該坑ノ管理人ヲ心得シムルモノナリ此營業間即チ千八百七十三年九月一日ニ於テ右双方ノ者又一定約ヲナシタリ是レハ六月二十三日ノ定約ノ満期ニ至レハ之ニ代ラシムルノ微意ヲ以テ取結ヒタルモノニシテ此定約ニ就テハ政府ノ許可ヲ得ルヲ無カリキ而シテ此定約ハ貴院其他數裁判所ニ於テ其取結ノ時ヨリ無効ノ定約ト判決セラレタリ故ヲ以テ此定約ハ以前ノ定約ニ對シ何等ノ影響ヲモ及ホサ、ルナリ然ラハ此定約ニ付テハ此上爰ニ記スルヲ要セスト雖モ今一言ス可キハ此定約ハ仮定約ニシテ其意ハ日附并ニ取極メタル期限ニテ明瞭ナル如ク前約ノ終期ヨリ効力ヲ生セシムルニ在リシ者ナルコト是ナリ

千八百七十三年九月五日ヲ以テ被上告人ハ上告人ト同日附ノ定約ヲ執結ヘリ(二號証)是レハ一擔^{ビッセル}十八弗ニテ銅三千擔ノ賣買契約ニシテ上告人ハ其引渡ハ千八百七十三年十二月三十一日ヲ以テ皆濟ス可キモノニシテ上告人ヨリ定約面記載ノ通り乃チ前金トシテ金高一万弗ヲ被上告人ニ交付セリ而シテ千八百七十三年九月六日ニ於テ右双方ノ者今一ノ契約ヲ取結ヒタリ此契約ハ前契約ノ千八百七十三年十二月三十一日ヲ以テ完終シタル時双方更ニ銅ニ付契約ヲ取結フ可キ事ヲ極メ置テ以テ其目的トナス爰ニ注意ス可キハ夫ノ交付シタル一万弗ノ部分ナル四千弗ヲ該契約面ニ記スルニ其契約ノ直約因トセスシテ唯千八百七十三年九月五日ノ契約ノ爲メノ約因ノ部分或ハ約因ノ爲メヲ以テ上告人ヨリ被上告人ニ前金トシテ交付セシモノト爲スコト是ナリ因テ上申ス下等裁判所ハ孰レモ千八百七十三年九月六日ノ契約ノ文言ヲ誤解セシヨリ千八百七十三年九月五日及ヒ六日ノ兩定約ヲ混交シ而シテ右六日ノ定約ハ本訴狀況ノ証據トシテハ重要ナルモノナリト雖モ實ニ決シテ効力ヲ有スルニ至ラサリシカ故ニ實際決シテ重要ナラサルモノヲ以テ却テ重要ト爲シタリ

千八百七十三年九月五日ノ定約ヲ回視セハ特リ拂渡金高ノ部分ナル六千弗而已ナラス亦全額一万弗モ其約因トシテ記載シアルヲ見ルヘシ(前節ヲ參觀セヨ)依テ上申ス此類ノ契約ニ於テ一万弗ノ如キ斯ル大金ハ嘗テ賣代金トシテ交付スルヲアラサルヘシ該金ハ右定約ニ明言セル如ク上告人ヨリ被上告人ニ貸金トシテ交付セシモノニテ上告人ニ在テハ其賠償ヲ受ヘキ契約ノ實踐ニ信ヲ置キシナリ此事ハ實ニ右定約ノ言語ヲ以テ企志セシ

明瞭ナリ即チ其定約面始終殊ニ之カ賠償ヲ約スル條及ヒ一擔ニ付十八弗ノ價ヲ定ムル條
ニ於テハ「前金トシテ交付ス」トノ言ヲ用ヒタリ
又千八百七十三年九月一日ノ契約ハ本訴ニ於テ被告人等カ取引上連帶ノ利益及ヒ連帶ノ
義務アルコトニ付キ重要ナル證據ヲ給スルモノトス但シ此事ナキハ右契約ハ固ヨリ本訴
ニ關係アラサルナリ

此故ニ千八百七十三年九月一日及ヒ六日ノ二契約ハ本訴上ニ證據トシテ重要ナル光ヲ投
スルコト微リセハ固ヨリ本訴ニ關係ナキモノトシテ之ヲ推却シテ可ナリ而テ本訴ハ專ラ千
八百七十三年六月二十三日及ヒ九月五日ノ二定約ニ據ルコト明ラカナリ

余ハ茲ニ一説ヲ陳スヘシ抑上等裁判所ノ判決ニ於テハ召喚セラレテ本訴ノ種々ノ点ニ付
訊問セラレタル證據人等ノ證據ハ措テ更ニ顧ミサルモノ、如シ而シテ其採テ以テ證據ト
セラレタルハ上告人ノ代官人カ呈供セシ所ノ上申并ニ辨論ナリ要スルニ本訴ヲ裁判スヘ
キハ証人ノ供出其他ノ舉証ニ據ラズシテ却テ原訴狀及ヒ爾後ノ辨論中某々ノ文章ノ釋義
ニ據リシ乎ノ如ク原訴狀及ヒ爾後ノ辨論ヲ見做シタリ因テ余ハミルソン氏ハブル、ブラ
ント氏アントワソフ氏及ヒ通辨人賀來原次等ノ證據人カ初審裁判所ニ於テ證據ヲ供シタリ
トノ事實ヲ貴院ニ奉呈センコトヲ欲スルナリ

第六條 證據ニ關シテ以上ノ諸点ニ付貴院ノ注意ヲ請タル上ハ余ハ進テ夫ノ數定約カ犯
觸スト辨セラル、所ノ日本抗法ヲ考査スヘシ
業己明指シタル如ク千八百七十三年六月二十三日ノ定約ハ完全適法ニシテ千八百七十三

年十二月三十一日迄テハ固ヨリ有効ニ存セシ也而シテ千八百七十三年九月一日ノ定約ノ
有効無効ニ付テハ此上論辨スルヲ要セサルナリ又千八百七十三年九月五日ノ定約「二號
証」ニ付テハ余カ茲ニ上申セント欲スルハ此定約ハ必ス一號及ヒ三號証ト校査ス可クシ
テ「上等裁判所ノ裁判ノ如ク」一號証ト二號証及ヒ三號証ト右定約ニ關係ナキ四號証ト比
考ス可カラサルナリ而シテ上等裁判所ハ此定約ノ目的ハ長坂山坑ノ礦物ヲ以テ商業ヲ營
ムニ在リシト判決シタル後ヲ進テ千八百七十三年九月五日及ヒ六日ノ定約ヲ將テ坑法ニ
對照考査シテ此定約ハ俱ニ左ニ掲載スル坑法ノ條々ニ背反スト判決シタリ

○明治五年三月二十七日「千八百七十二二年五月四日」附太政官布告第百號第一條及第二條
○明治六年七月二十日「千八百七十三年七月廿日」附太政官布告第百五十九號第二條
右第一ニ掲タル布告ハ明治六年「千八百七十三年」ノ所ヲ明治五年「千八百七十二二年」ト誤
記シタルモノ、如シ而シテ此布告第一條及ヒ第二條ハ即チ左ノ如シ
第一條 皆礦物ニアラサルハナシ然シテ此礦物ナルモノ都テ政府ノ所有トス故ニ獨リ政
府ノミ之ヲ開採スル分義アリトス云々

但シ此條ニ掲タル礦物ノ義解等本論ニ不關係ノ部分ハ畧ス
第二條 上條ニ述ル如ク礦物ハ皆政府ノ所有タリ故ニ諸府縣管轄下ニ於テ國民ノ開採セ
ルモノハ悉政府ヨリノ請負稼ニ非ルコトナシ因テ請負稼者ニ在テハ其鑛山ヲ以テ私ニ
借金ノ質物トスル權利アラサルナリ云々

千八百七十三年七月二十日附第百五十九號布告第二條ハ千八百七十三年九月一日ヨリ

實施ス可キモノニテ其要領ハ上等裁判所ノ判決書ニ掲クル通ニシテ即チ左ノ如シ

第二條 前ニ掲記セシ礦物類凡日本國中ニ於テ發見スル者ハ都テ日本政府ノ所有ニシテ

獨政府ノミコシテ採用スル分義アリ

茲ニ續テ右判決ニ述フル所左ノ如シ

此レニ因リ之ヲ觀レハ開坑許可ヲ受ルトモ其鑛山又ハ其坑中ノ品ヲ引當ニ致シ金子借入

又ハ賣買ヲ得ヘカラサルヲ明瞭ナリ

因テ上申ス前記ノ法律即チ日本坑法中右上等裁判所判事ノ引証ヲ保證シ或ハ坑山ノ產出

物ヲ坑山用ノ物品ノ抵當トシ人ニ與ルヲ禁スルノ言一モアルヲナク且右法律中ニ該鑛

物ヲ以テ商業ヲ營ム爲メノ定約ヲ禁止スル所ノ言ナキ事ハ尙更ニ明確也此ノ故ニ若シニ

號証ノ定約カ該坑ノ產出物上ニ質取ノ效ヲ生ス可キ方法ニテ爲サレタリト雖モ是レ決シ

テ該坑法ニ背反スルモノニアラザリシナルヘシ然ルニ二號証ノ定約ハ決シテ斯ル目的ヲ

有セス之レ單ニ賣買ノ一契約ニシテ其一方ノ者ハ銅若干量ヲ引渡ス可キ義務ヲ負ヒ他一

方ノ者ハ該銅ニ對シテ代金ヲ拂フ可キ責ニ任セシムル所ノ定約ニ過キサルナリ而シテ此

定約ハ當時(即チ同契約ヲ行ヒシ時及共後數月間)實行ノ法律上完全適法ノモノニシテ乃

チ充分有効ノ定約ナリキ

當時坑法ノ狀態ノ右ノ如クナリシ事ハ明治六年十一月十日(千八百七十三年十一月十日

附ニテ乃チ同年内後チニ頒布ノ布告第百二十四號ニ依テ一層明晰ナリトス其布告左ノ如

シ

坑物ノ儀ハ明治六年第二百五十九號布告日本坑法ニ掲載ノ通總テ政府ノ所有物タルコト

依令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ

賣約定等ノ儀ハ不相成ニ云々

今若シ上等裁判所ノ判決ニ於テ推定サレシ如ク明治六年九月一日迄實施セラレサル所ノ

同年七月附布告第二百五十九號ノ法文ヲ特リ坑山ヲ質入ニスルコトヲ禁スル耳ナラス又能

ク其レヨリ得タル礦物ヲ抵當ニスルコト及ヒ礦物ヲ賣買スル爲メノ契約ヲ禁スルニ充分ナ

リト認メタル所ハ日本政府ニ在テ是等ノ目的ヲ遂クル爲メ前布告實施後僅カニ二ヶ月ヲ

經テ更ニ同様ノ布告ヲ發スルノ要ナキ筈ナリ是レ實ニ明晰ニシテ此上更ニ何等ノ辨論ヲ

モ要セサルナリ之ニ因テ余ハ貴院ニ上申ス抑モ日本政府ノ當採礦事業ヲ差停タルコトニ付

テハ何等ノ理由ヲモ明示セス、第二百五十九號布告ノ幅員ハ明瞭該坑ノ產出物ニ及ハス、

千八百七十三年九月五日ノ定約ハ唯銅賣買ノ契約ニシテ其目的該坑又ハ其產出物ヲ抵當

ト爲スニ在ラス且千八百七十三年十一月十日ノ布告ハ其日附前ニ取結ヒタル契約ニ何等

ノ勢力ヲモ及ホシ能ハサル以上ハ此定約ハ日本坑法ノ何部分ヲモ破毀違犯シタル廉ハ毛

頭コレ無キナリ之ニ因テ上告人ハ特リ夫ノ前金トシテ交付シタリト證明セシ所ノ金員ノ

ミナラス又被上告人カ契約ヲ破毀シタル故ヲ以テ損害セラレシト證明シ且請求スル所ノ

相當賠償ヲモ得ルノ裁判ヲ受ル權アルナリ之ニ因テ余ハ謹ニ貴院ニ請願ス千八百八十

一年八月當四日ヲ以テ差出シタル本訴上告狀ニ請願スル如ク裁判アラントナ

辨明

本案上告ニ付テハ左ノ二項ヲ審理スルヲ以テ緊要ナリトス

- 一 本訴ニ請求スル金額ハ如何ナル契約ヲ以テ被上告人へ交付シタルヤ否ノ一
- 一 上告人カ被上告人トノ契約ハ日本坑法ニ背反セサルヤ否ノ一

第一條

上告人カ請求スル金額壹万弗ハ甲第二號証ノ定約ニ原因シ交付シタルモノナルヤ事實ヲ
 審按スルニ該金ノ内甲第一號証六千弗ハ其証書中ニ甲第二號証ノ契約履行ノ爲メ渡スヘ
 キ旨明載アリテ甲第二號証ニハ即チ

最初一千〔ヘキユル〕ノ代價辨濟ヲ爲スニハ先ツ証書押印ノ時某々々氏ヨリ金六千弗ヲ

〔アントワース〕ニ前拂スヘシ而シテ此前金六千弗ヲ拂濟マテハ云々當時ノ相場ハ非常

ノ高度ニ達セシモ三千〔ヘキユル〕ノ中一〔ヘキユル〕ニ付代價十八弗ト約定セシ所以ハ

全ク六千弗ノ前金アリシヲ以テ双方共ニ之ヲ承諾セリ

右ノ如ク記載アリテ六千弗ハ全ク銅代價ノ前金ナルヤ判然タリ

又壹万弗ノ内四千弗ノ受取書甲第三號証ニ

- 一 金四千弗也

右ノ内二千弗ハ本日受取二千弗ハ來ル十一月十五日ニ受取ヘキ約最モ該金額ハ安岡氏

所有アントワースノ管理ノ地所ニ付其管廳ニ納ムヘキ金額也トアリ

該証書面ニ於ケルヤ上告人カ云フ如キ甲第二號証ノ定約ニ原因シ貸渡シタルモノト思量
 スヘキ文詞ナキノミナラス既ニ東京裁判所ニ於テ原告(告上) 代理人カ爲シタル口供ニ千八

百七十三年九月六日ノ契約(甲第四號証)ハ云々其要旨ハ長阪山銅山ノ借區稅トシテ其地
 方廳へ上納スヘキ金額四千弗ヲ被告(被上) 告人へ交付スル件ニ關スルモノナリトアリテ千
 八百七十三年九月六日(甲第四號証)ノ定約書ヲ見レハ

安岡會社ニ於テ古銅山(長阪山)ノアル土地殘ラヌ四万五千弗ニテ買入レタリ同社該

山堀出ニ取掛ランカ爲メウアルマルツンニウ、エメルツン氏等ヨリ既ニ若干

金ヲ前受致シ四千弗アントアース氏ノ姓名手署)且後日同氏等ヨリ礦山ニ必要ニシテ

全ク該山ノ爲メ最良ノ法ヲ以テ益之レヲ堀出スルニ用ユヘキ出金高二万二千五百弗

ヲ受取ルルハ安岡會社ヨリ礦中ノ總產物四分ノ一ヲ實價ヲ以テ同人等ニ讓リ渡シ云々

(以下
 零)

右ノ如ク掲載アリテ甲第三號証ノ四千弗ハ他日上告人カ長坂山礦中ノ產物ヲ買ヒ受ル其
 代價ノ前金トシテ被上告人へ交付シタルモノナルヤ明ナリ然ルニ該定約ハ千八百七十四
 年一月一日ヨリ執行スヘキトノ豫約ナントモ証書ノ成立ツ當時若干金即チ四千弗ヲ受授
 シタル事跡アルニ據レハ既其定約ノ一端ヲ實行シタルモノト云フヘキナリ

上告人ハ「上等級裁判所ノ如ク一號証ト二號証及ヒ三號証ト右定約ニ關係ナキ第四號証ト
 比考スヘカラサルナリ」ト申述スレトモ上文弁明ノ如クナレハ第四號証ハ何ソ本訴ニ關
 係ナキモノト謂フヲ得ンヤ

抑上告人カ請求スル元金壹万弗ハ甲第二號証及ヒ第四號証ノ定約ニ據リ他日被上告人カ
 開採シテ渡スヘキ長坂山坑中ノ銅鑛ヲ目的トシ其代價ノ前金トシテ拂渡シタルモノナリ

トス何トナレハ甲第二號証契約ノ當時ニ在テ開採セシ銅鑛ノ多ヲサルヲハ上告代人カ東京裁判所へ差出タル千八百八十年三月廿三日附ノ書面ニ「原告及ヒアントアース氏ノ言フトコロニ據レハ銅引渡契約ノ成立セシトキニ當リ既ニ實際掘出シアル銅ハ甚僅少ナリシト雖モ外國鑛山師ノ該銅山ヲ實驗シテ其多量ノ銅ヲ有スルヲ發見セシ報告書ヲ確定セシトテ以テ其多量ノ銅ヲ有スルヲ知ルニ足レリ原告ノ前金ヲ交付シタルハ被告ヲシテ該銅山ヲ開山セシメンカ爲メナリ」トアルニ依テ明晰ナリトス而シテ上告人カ尙請求スル七百六十一弗五拾セント並十九フランノ金額モ亦甲第二號証及ヒ第四號証定約ノ旨趣ニ原因シ其前金トシテ交付シタルニ外ナラサルモノトス故ニ東京上等裁判所ニ於テ「甲第一號証三號証ノ金額合計壹万弗ハ甲第一號（原文ニ一號トアル）証四號証ノ契約則長坂山坑鑛賣買ノ爲メニ受授セシ前渡金ナルヲ明瞭ナリ」云々ト判定シタルハ事實ニ適合シタル裁判ニシテ不法ト謂フヲ得ス

第二條

本訴銅賣買ノ契約タル甲第二號証ニ掲載シタル所ハ大坂港碇泊場ニ於テ日本上品ノ銅板ヲ引渡スヘキトノ約定ナレトモ其事實ノ如何ヲ顧レハ現品ヲ以テ賣買スヘキ約定ニ非スシテ當時長坂山ノ坑中ニ在テ未タ開採セサル銅鑛ヲ以テ目的トナシ取結タルモノナルヲ前條辨明ノ如キノミナラス上告人カ東京裁判所へ差出タル願書ニ「拙者ヨリ前金ヲ出シタル次第ハ云々此鑛物ハ拙者共ヨリ出シタル前金ヲ以テ掘出シタルモノニシテ千八百七十三年九月五日附ノ契約ニ依リ拙者ニ渡スヘキモノナリトアレハ前金ヲ交付スル際約定ノ銅ハ未タ坑中ニ在ルモノナルヤ明カナリ又甲第四號証ニハ「該山掘出ニ取掛ランカ爲メウツルマルソソニウ、エ、メルソソ氏等ヨリ云々出金高二万二千五百弗ヲ受取ルキハ安岡會社ヨリ鑛中ノ総産物四分ノ一ヲ實價ヲ以テ同人等へ譲リ渡シ」云々トアレハ是又坑中ニアル鑛物ヲ目的トシテ取結ヒタル契約ナルヤ論ヲ跋ス夫レ如此事實ナルニ上告人ハ明治五年三月二十七日太政官第百號布告鑛山心得并明治六年七月二十日太政官第百五十九號布告日本抗法ヲ援引シテ上告人カ取結ヒタル契約ハ該抗法ニ背反セサル旨所論アリト雖モ上告人カ取結ヒタル右二個ノ契約ヲ以テ日本抗法ニ照シ之ヲ審明スルニ明治五年三月二十七日太政官第百號布告鑛山心得第一條ニ

此鑛物ナルモノ都テ政府ノ所有トス故ニ獨政府ノミ之ヲ開採スル分義アリトス」トアリ

其第二條ニ

上條ニ述ル如ク鑛物ハ皆政府ノ所有タリ故ニ諸府縣管轄下ニ於テ國民ノ開採セルモノハ悉政府ヨリノ請負稼ニ非ルヲナシ因テ請負ノ鑛山ヲ以テ私ニ借金ノ質物トスルハ決シテアルヘカテサレ理ナリ」トアリ

又明治六年七月二十日太政官第百五十九號布告日本抗法第二款ニ

前ニ掲記セシ物類凡日本國中ニ於テ發見スル者ハ都テ日本政府ノ所有ニシテ獨政府ノ

ミ之ヲ採用スル分義アリ」トアリ

右ニ掲出スル布告中將來開採スル鑛物ヲ以テ先賣等ヲ爲スヲ禁シタルノ明文ナシト雖モ

鑛物ナルモノハ都テ政府ノ所有ニシテ云々トアレハ抗中ニ在テ政府ノ所有ニ屬スル鑛物ヲ以テ私ニ借金ノ抵當或ハ先賣等ヲ爲スハ固ヨリ爲スヲ得ヘカラサル事ニシテ抗法ノ許サハル所ナレハ則上告人ノ契約ハ該抗法ニ抵觸スルモノトス

又上告人ハ明治七年（上告代人ノ論辨書中ニ）十一月十日大政官第百二十四號布告ヲ引援シ論辨スルト雖モ該布告ハ第百五十九號布告ノ意旨ヲ申明シタルモノニ過スシテ右第百二十四號布告以前ト雖モ決シテ將來開採スヘキ鑛物ヲ以テ借金ノ抵當或ハ先賣等ヲ爲スヲ許容シタルモノニ非ルナリ

加之上告人カ甲第二號及四號証ノ契約ヲ結ヒシ當時ニ在テ被上告人ハ未タ試堀中ニシテ借區ノ許可ヲ不得コトハ上告人於テモ知ル所ナリ而シテ第百號布告鑛山心得第六條ニ但願濟ニ相成候分モ試堀中ハ鑛物ヲ賣却スルヲ禁ストアリ

又第百五十九號布告第六款ニ凡産鑛ハ借區券ヲ得ル後ニ非レハ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之レニ背カハ其全價ヲ沒収スヘシトアリ
右ノ如ク試堀中其鑛物ヲ賣却スルハ法律ノ禁スル處ナレハ甲第二號及四號証ノ契約ハ到底抗法ニ抵觸シ爲スヲ得ヘカラサル無効ノモノタルヲ免レサルナリ然レハ東京上等裁判所カ該契約ハ日本抗法ニ抵觸シ首メヨリ其効驗ナキモノ云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ニ非ルナリ

判決

前條々辨明ノ筋合ナルヲ以テ明治十四年六月三十日東京上等裁判所ニ於テ申渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス
第百十號

○通路障礙解除一件東京上等裁判所
明治十四年八月一日上告
明治十五年四月十八日申渡

長野縣信濃國更級郡力石村
平民山崎猪松外百廿六名
代同村平民

上告人
中曾根喜右衛門
外 壹名

代 言 人
東京府神田區今川小路二丁目
十五番地平民
志 摩 萬 次 郎

長野縣信濃國更級郡上五明村
平民細田元右衛門外百八十名
總代同村平民

被上告人
赤 羽 祖 兵 衛
外 壹 名
五 九

代言人

上告ノ旨趣

原裁判所判文第二條ニ「該証ヲ熟閱スルニ阪木村枝郷荊屋原村〔中畧〕原告ヘ對シ其効ナキモノトス」トアレヒ山見利兵衛ハ入會山即チ札山ノ取締人ナレハ仮令同人一名ヨリ差入レタル書面トスルモ入會各村ヘ對シ充分ノ効力ヲ有スルモノトセサルヲ得ス况ンヤ他ニ一名ノ連印者アリ且爭論者双方ニ於テ該人ノ申立ニ對シ異議ヲ生セサル旨明言^{上告}第三號^{第三}セシニ於テチヤ然ルニ原裁判所ハ或ハ被上告者カ控訴狀第三條ニ喋々セシ遁辭ニ悞眩シテ然ルカ上文ノ如ク判定セラレタルハ是レ不當ト云フヘキナリ

同判文第三條第一段ニ「第二條ニ指示スル如ク〔中畧〕當ニ陳述ニ止リ其証左有リナシ」トアレヒ本訴爭論即チ入會山ニ秣蒔取りノ爲メ通行スルトノ申立アリテ一方之ヲ拒ム場合ノ如キハ舉証ノ責任何人ニアリトスルヤ起訴者先ツ証憑ヲ舉示スヘシトハ蓋シ普通ノ法理ナリ去レハ且ラク上告者第二號証ヲ無効トスルモ起訴者ニアラサル上告者ハ舉証ノ責任ナキヲ以テ爲メニ失敗ヲ來スヘキ謂レナシ該一段ノ判旨タル恰モ金穀貸借ノ爭論ニ於テ借ラサルノ証左ナケレハ則チ借リタルモノナリト云フト同一ニシテ舉証者ノ所在ヲ誤ルモノト云フヘシ

同判文第三條第二段ニ「然而シテ該道路ニ於ケル〔中畧〕自己ノ便宜ヲ以テ私設セシニモ非ス」ト此語ヲ反言スレハ該道路ハ地券發行以前ハ自己ノ私有地内ニ開設セシ道路トスルモノ、如シ果シテ然レハ原裁判所ハ何ヲ以テ地券發行ノ前後ニ依テ公私ノ區別ヲ立テラレシヤ仮令道路開設カ地券發行以前ニ係ルニモセヨ其私設ニ係ルモノハ則チ私設ニシテ地券發行ニ際シ俄カニ公道ニ化スルノ理ナシ故ニ他ニ變化ノ所以ヲ示サス地券發行ノ前後ノミヨ以テ之レカ區別ヲ立テラレシハ更ニ解シ得サル處ナリ而シテ本訴ノ論道ハ上告者一村ノ其有地内ニ開設セルモノニシテ決シテ他人ノ喙ヲ容ルヘキ地ニ非ス乙第四號ニ依テ之ヲ觀ルモ明了ナリ且夫レ道路ナルモノハ公私二道ノ外他ニ名クヘキ道ナカルヘシ去レハ原裁判所ハ判文第一條ニ確然里道ニ決シタルトハ見認メ難シトアリテ被上告者カ里道ナリトノ陳述ハ之ヲ排斥シ而シテ又私道ニモ非スト判定セラレハ恰モ五里霧中ニ迷ヘルモノ、如クシテ判旨ノ曖昧ナル亦之レヨリ甚シキハナシ凡ソ裁判ノ事物ニ於ル其事物如何ハ必ス之ヲ確乎定メサルヲ得ス未タ事物ノ如何ヲ確定セスシテ能ク適當ノ判定ヲ下シ得ヘキモノニ非ス然ルニ原裁判所ハ上告者ノ私設ニ係ル道路ナルヲ知り得ヘキ証左ハ或ハ謂ハレナク之ヲ排斥シ或ハ措テ之ヲ問ハス味曖ノ間ニ本訴ノ論道ヲ判セラレハ之レヲ如何ソ至當ノ裁判ト云フヘキヤ

同判文第三條第三段ニ「且シ被告カ陳述ニ據ルモ〔中畧〕今日ニ於テ原告ノ通行ヲ拒ムヘキ道理アルヘカラス」トアレヒ新山村ノ如キハ既ニ控訴答書第二條中ニモ細註ヲ以テ云々明載セシ通り特別ノ事情アリテ上告者ハ該村ヘ對シ通行權ヲ許與セシモノナレハ豈新山村ノ事跡ヲシテ其他各村ヘ推及スルヲ得ンヤ要スルニ原裁判所ハ該道路ヲ通行シ得

ナル被上告者ト同位置ニ在ル菊尾原村人民カ事實ハ之ヲ放却シテ被上告者ヲシテ漫ニ通行シ得ヘキ新山村人民ト同一視セラレタルモノト云フ可シ事理ヲ誤ル亦甚シカラズヤ

同判文第三條第四段ニ「况ンヤ一方ノ通路字氷澤道ニ於ケル往時穴崩タリト被告モ明言スルニ於テチヤ」トアリテ氷澤道穴崩セシ以上ハ大林道ヲ通行スルニアラサレハ入會山ニ入稼スル能ハサルヲ以テ從來通行シ來リタルモノト推認セラレタルカ如シ蓋シ原裁判所ハ審理ヲ尽サレヨリ之レカ誤謬ヲ來セルモノカ夫レ大林氷澤二道ノ他ニ道路ナキニ非ス試ミニ圖面ヲ見ヨ該二道ノ他ニ四十八曲リ峠南峠ノ道路アルニ非スヤ去レハ被上告者ハ氷澤穴崩以來該二峠ヲ越エシヤモ知ルヘカラス一步ヲ進メテ之ヲ論スレハ仮令該二峠ナカラシムルモ未ダ必スシモ大林ヲ通行セシモノト推認スヘカラス何トナレハ自己ニ不便否仮令大害ヲ來スコアルモ他人ノ權利ヲ妨クルヲ得サルヲ以テナリ凡ソ物其實ナキハ其言恒ニ支吾ス被上告者ハ初告以來辭ヲ飾リテ曰ク古來氷澤大林ノ兩道ヲ往復セシモ氷澤穴崩以來大林ノミヲ通行セリト而シテ氷澤ハ大林ヨリ迂遠ナリト自供セリ夫レ古來大林ヲ通行シ得ルモノセトハ當時何ニ依テ迂遠ナル氷澤ヲ通行スルヤ又何ソ欠崩ヲ竣テ始テ氷澤ノ通行ヲ廢スルヤ該自供タル却テ大林ヲ通行セシ事實ナキヲ推知スヘキナリ抑モ起訴者ナル被上告者ハ必ス古來通行シ來レリトノ確証ヲ舉示セサルヘカラス然ルニ實ニ其証ナキノミナラス却テ支吾スル自供ヲ爲セルハ蓋シ其實ナキノ依ルヘシ然カモ原裁判所ハ氷澤穴崩ノ事跡ヲ以テ被上告者カ無實ノ陳述ヲ憑信セラレシハ妄斷モ亦甚シト

云フヘシ

右ニ論スル如クナレハ原裁判所カ本訴ニ對スル裁判ハ徹頭徹尾上告者ハ之ヲ不當ト思考スルニ付謹テ破毀ヲ本院ニ求ムル所ナリ

上告者ノ辨駁

被上告者カ提供スル答書ニ小川原利兵衛ノ職權ハ札山ノミニ限リ且利兵衛ノ言ハ信用スヘカラサル旨喋々スレモ若シ果シテ道路ニ關係ナキ利兵衛ナラハ何爲レソ利兵衛對シ道路ノ慣例ヲ聞クヤ被上告ノ論辨ハ其行爲ニ相反スルモノト云フヘシ眞シ道路ニ關係セシヤ否ヲ知ルヘカラストスルモ被上告ニ於テ利兵衛ノ指示スル所ヲ以テ將來ノ礎証トセント明言セシアレハ格段ナル反對ノ証ヲ掲クルニ非サレハ利兵衛ノ言ヲシテ無効ナラシムルヲ得ス而シテ被上告カ利兵衛ノ言信用スヘカラスト喋々スル所ハ都テ枝葉ニ止リ其主眼タル大林通行云々ニ付テハ幾度被上告カ質問スルモ利兵衛ノ答ハ當初ト同一ニ非スヤ然ルニ被上告ハ利兵衛ノ言己レニ不利ナル爲メ喃々スレモ其利ト不利トハ未ダ以テ利兵衛ノ言ヲ抹殺スルヲ得ス

又答書ニ道アルハ一般衆庶ノ通行シ得ヘキモノニシテ若シ其通行ヲ許サレハ特別ノ允許ヲ得テ公書即チ制牌等掲クヘキ筈ナルモノ、如ク論スレモ元來被上告カ言フ道トハ如何ナル道路ヲ指示スルヤ公道ヲ指スカ將ク私道ノ大ナルモノヲ指スカ若シ公道ナラハ或ハ被上告ノ言ノ如シ若シ私道ナラハ其大小廣狹ニ抱ハラス管ニ其承諾ヲ要スルノミナラス設置ノ勞又ハ地稅其他修繕ノ義務ヲ分擔セサルヲ得ス毫モ是等ノ事ナクシテ他人ノ

於テ通行ヲ得ヘキモノナラソヤ且夫レ私道ニ於テ被上告カ云フ如キ制牌云々ハ一般ノ慣例モナク又定規モナケレハ制牌ノ有無ハ毫モ通行權ニ關係ナキモノナリ故ニ荷モ私道ナルニ於テハ舉証ノ責任シク被上告ニアリト云ハサルヲ得ス

又答書ニ本訴ノ論道ハ官民未定ノ地ナリト主張スレト個ハ新規ノ申立ナレハ深ク駁スルヲ要セス然レト論道中其幾部分ハ今日未定地ナレト是トテモ目下民地編入ノ出願中ナレハ決シテ官地トスヘカラス且論道中現ニ原被連印圖ニ上告者所有地アリ該地中ニ係ル部分ハ被上告ハ決シテ設クヘキ口實ナカルヘシ元來被上告ハ本訴ノ道路ニ關係ナキモノナレハ未ク官有地ト定ラサル以上ハ通行權ヲ生セス況ソヤ上告村ノ所有地アルコト判然タル地所アルニ於テヨヤ且又被上告者ハ上告者ニ於テ私設ノ道路ナリト云フ証左ナキ旨喋々スレト上告者ハ古來通行シ來リ何人ト雖ト上告者ノ通行ヲ抗拒セシモノナキハ是最モ確實ナル事實ニシテ上告者ノ私置ナル証トスヘシ且ツ小川原利兵衛ノ言ニ徵スルモ亦明ナリ而シテ被上告ハ衆庶人民ノ通行スヘキ云々供述スレト一モ其証ヲ舉ケス若シ一般人民ノ通行スヘキ道路ナラハ之カ証ヲ示ス豈難シトセシヤ然ルニ其証ナキノミナラス己ノ自ラ通行シ來レトノ証ナキニアラスヤ

又答書ニ妨屋原村人民ノ如キハ自ラ通行權ヲ抛棄セシモノナリト供述スレト試ミニ上告第二號証ヲ看ヨ該人民ハ決テ通行權ヲ抛棄セシモノニ非ス上告者ハ其亂入ヲ拒ミタル者ニシテ該人民ハ其亂入ノ非ナルヲ悔悟セシモノナリ去レハ上告者ハ往昔ヨリ屈從セシコトナキモ妨屋原村人民ト同シク通行權ヲ有セサルモノナリ

又答書ニ四十八曲峠及ヒ南峠ハ札山ニ貫通セサル線路ナル旨申立ルモ圖面ヲ一見スルトハ其貫通セシコト明知シ得ヘケレハ玆ニ贅セス且又被上告ハ道路ノ遠近ニ付比喩ヲ掲ケ來リ喋々スレト比喩ノ究マル却テ支吾セルヲ知ヘシ又被上告ハ若シ大林ヲ通行セサレハ山稅ヲ上納スヘキ筈ナシト論述スレト上陳ノ如ク他ニ通行路アレハ個ハ無用ノ論辨ナリ良々僅々タル山稅ヲ上納セシコトアルモ其上納ノ事蹟ヲ以テ大林ヲ通行セシモノトハ速了スヘカラス被上告或ハ云ハン仮令私設ノ道路ニモセヨ被上告カ通行スレハトテ左程道路ニ破壞ヲ生スヘキニ非ス又地稅ニ關係ヲ來スニモ非サレハ開明ノ今日此ノ便ヲ他人ニ與スト云フハ些ト頑固ニ非サヤト若シ斯ク云ハハ上告者之ニ答ヘテ云ハントス勞力ト財產トヲ擲キ便利ノ事業ヲ企テシモノアルニ若シ謂レナク其便利ヲ他人ニ分與スベキモノトセハ豈世ニ便利ノ事業起ルチ期スヘケソヤ且又設置者カ他人ノ通行ヲ拒ムト毫モ助力セサル他人カ其通行ヲ求ムルト彼是比較スレハ何レカ是ニシテ何レカ非ナルヤ己レ自カラ勞セスシテ他人ノ利ヲ分取セントスルハ是レソ誠ニ己レナ利セントシテ他人ノ權利ヲ妨クルモノニ非スヤ且夫レ若シ被上告ヲシテ通行權アリトセハ他人民モ亦通行スルニ至リ獨リ被上告ヲシテ通行セシムルトスルモ其害ヤ少ナラス况ソヤ近隣各村カ通行スルニ至テハ却テ該道路ヲ設置シテ得ル所ノ利益ニ倍從セル禍害ヲ來ス豈害ヲ受クル爲メ土地ヲ出シ修繕ノ勞ヲ取ルモノアラソヤ

上告代人ノ口供 (明治十五年三月廿三日) 對審ノ庭ニ於テ

本訴ノ論道ハ其地盤上告村ト新山村トノ兩村ニ相涉ソリ

上告村ハ村民ノ畑地及ヒ公有地ヲ論道ニナシタルモノナリ

但シ其公有地ハ現今上告村ノ共有地ニナサンコト其筋ヘ請願中ナリ

右論道ノ寛政年度上告村ト新山村ト協議ノ上之レヲ開設シタルモノニシテ即チ私道ナル

ヲ以テ爾來面村限リ通行シ來リ他村ノモノハ一人タリトモ通行ヲ許サレナリ

右論道ハ舊永井村即チ阪井村ノ地盤内字札山ヘ入會センカ爲メノミノ通路ナリ

論道ハ人馬ノ通行シ得ラルヘキ道路ニシテ即チ三尺内外ノ廣サナリ

答辨ノ旨趣

上告狀中ニ(山見利兵ハ入會山即札山ノ取締人ナレハ)双方ニ於テ該人ノ申立ニ對シ

異議ヲ生セサル旨明言セシニ於テ(ヤ)ト陳述スレモ上告村カ金城鎮壁ト頼ム所ノ上告

第二號証ハ被上告ニ對シ無効ノ反古紙ナリト云フ理由ヲ左ニ掲シヘシ抑山見役小川原利

兵衛ノ職掌タル單ニ永井村札山ノ範圍内ニ關スル事務ノ執行ヲ爲スヘキ者ニシテ即チ札

山税金ノ淹滞ヲ責メ並ニ無鑑札ニテ入稼スル者ヲ監察スヘキ職權ニ限ル者ナレハ若シ誤

テ札山範圍外ナル入稼道路ニ關シ職權ヲ濫用スルモ所謂不法ノ所爲ナルヲ以テ其効ナキ

勿論ナリトス况ンヤ上告第二號証ハ上告村ト山見役小川原利兵外一名トノ間ニ取結ヒタ

ル約ニシテ仮令向後人會人別右地内道行爲致申問敷云々ト契約セシニモセヨ單ニ荊谷原

組ノミノ承諾ヲ經テ他入會各村ノ承諾ヲ經サル者ナレハ小川原利兵外一名ト上告村トノ

間ニハ契約ノ効力ヲ有スル歟ハ知ラサレドモ當時該件ニ關係セサル入會村々即チ被上告

村ニ於テ干豫セサル事柄ニ對シテハ素ヨリ義務ヲ生スヘキ理ナキハ法理ノ最モ親易キモ

ノナリトス又山見役小川原利兵ノ言ニ付テハ異議ヲ申立スト明言セシコトナキノミナラス

利兵ノ言行本訴ニ關シ一モ信用セサル事ハ初審以來申立置タル事柄ニシテ且ツ被上告者

ハ明治十三年三月四日付ヲ以テ原裁判所ヘ奉呈シタル上申書ニモ小川原利兵ノ証言ハ

信用スヘキモノ、アラサルコトヲ詳テカニ開申シ置キタルハ上告者ハ己ニ記臆スル所ナラ

ン然ルヲ尙利兵ノ言ニ付異議申立スト明言セシ云々ト云フハ實ニ誣妄ノ申立ナリトス故

ニ原裁判所ハ事實ト法理ニ照シ永井村山見役利兵外一名ヨリ被告村ニ對シ差入レタル書

面ニ過キス(中)被告(上告)第二號証ハ原告(被告)ニ對シ其効ナキ者ト裁判セラレタルハ

正當ノ裁判ナリ

又上告狀中ニ(通行スルトノ申立アリテ一方之ヲ拒ム場合ノ如キハ云々)申立レモ本訴論

道ハ入會山ヘ通スル道即チ更級郡ヨリ筑摩郡ヘ貫通スル線路ニシテ被上告村ハ往昔ヨリ

入會札山ヘ入稼ノ節ハ道ヲ大林ニ取り今日迄連綿入稼ノ爲メ通行シ居タルコトハ上告者ニ

於テ業ニ己ニ明認シ明治十年迄ハ會テ其通行ヲ拒障セシコト之レナキニ於テオヤ又(舉証

ノ責任ハ何人ニアリトスルヤ云々)ト申立レモ道アレハ一般衆庶ノ通行往復スルハ論ヲ

俟タス然レハ別ニ通行シタリトスル証憑ヲ提出セサルモ大林道ノアリト云フコトニ付テ原

被告カ口供符合スル上ハ通行シ來リタルノ實証ナリトス之ニ反シテ上告者ニ於テ論道ハ

上告村ノ外一般通行ヲ許サ、ル道路ナリト云フコトニ付テハ舉証ノ任ハ上告者ニアリトス何

ントナレハ道アレハ衆庶ノ通行スルハ理ノ最モ看認メ易キモノナルコト其道ノ通行ヲ許サ

ハ、リシト云フ變例ノアル場合ニ在テハ當時ノ政廳ヨリ特別ノ允許ヲ得タリト云フ公書ヲ

六七

舉示スルカ或ハ一般衆庶ノ通行ヲ禁スルト云フ証憑ヲ掲ケサルヲ得
ス然ルニ上告者ハ其証憑ヲ掲ケスシテ單ニ通行ヲ許サザリシト口頭ノ陳述ノミヲ以テ往
昔ヨリノ通行ヲ拒障セントスルハ實ニ不條理也トス依之原裁判所ハ被告(上告者)ニ於テ字
大林ノ道路ハ從前原告(被告)ニ通行ヲ許シメザリシト云フモ實ニ陳述ニ止リ其証左アル
コトナシト判定セラレタルハ實ニ其當ヲ得タル裁判ナリ

又上告狀中ニ「此語ヲ反言スレハ該道路ハ地券發行以前ハ自己ノ私有地ニ開設セシ道路
トスルモノ、如シ果シテ然ラハ原裁判所ハ何ヲ以テ地券發行ノ前後ニ依テ公私ノ區別ナ
立ラレシヤ假令道路開設カ地券發行以前ニ係ルニモセモ其私設ニ係ル者ハ則私設ニシテ
地券發行ニ際シ俄カニ公道ニ化スルノ理ナシ云々」申立レ上告者ハ判文ノ解釋ヲ誤マ
レル者ト云フヘシ何トナレハ地券發行以後人民一己私有宅地内等ニ自己ノ便宜ヲ以テ私
設セシモモアラスト云フ判語ノ旨意ハ地券發行以前ニ於テハ一般人民ニ土地所有ノ權無
之ヲ以テ假リニ私設ノ道路ナリト看做モ一般公衆ノ通行ヲ拒障スルノ權利ヲ有セサルノ
ミナラス私設ナリト云フ証憑ヲ掲ケサルニ依レハ論道ハ往古ヨリ公衆ノ便宜ノ爲メニ
開設アリシ道路ナリト信認セラレタルヨリ地券發行以後人民一己私有宅地内等ニ自己ノ
便宜ヲ以テ私設セシモモアラストノ判定ヲ下サレタルモノニシテ地券發行ノ前後ヲ以テ
公私道ノ區別ヲ立テラレタル者ニアラスト思考ス又(上告者ハ本訴ノ論道ハ上告者一村
ノ共有地内ニ開設セル者ニシテ決シテ他人ノ容喙スヘキ地ニアラス云々)申立ルト雖モ
本訴論道ノ地盤タルヤ上告村ノ地籍内ニアルモ上告村民カ共有地ナリト云フコトヲ得サル

ノミナラス今日ヨ於テモ未ダ官民有地ノ區別未定ノ地ニアラスヤ然ラハ論道ノ地所ハ上
告者ノ共有地ナリト云フヲ得サル論ヲ俟タス加之上告者ハ頻リニ私設ノ道路ナリト云フ
モ初終審裁判所ヘ對シ私設ナリト云証憑ヲ掲ケサルヲ視レハ論道ハ往古ヨリ開設アリシ
道路ナリト推認セサルヲ得サルナリ

又上告狀中ニ「新山村ノ如キハ特別ノ事情アリテ上告者ハ該村ヘ對シ通行權ヲ許與セシ
モノナレハ豈新山村ノ専跡ヲシテ其他各村ヘ推及スルヲ得ンヤ(中)而シテ被上告者ヲシ
テ漫リニ通行シ得ヘキ新山村人民ト同一視セラレタル者ト云フヘシ事理ヲ誤ル亦甚シカ
ラスヤ」ト申立レハ新山村人民ノ如キハ自ラ通行權ヲ放棄シタル者ナレハ被上告者ノ
如キハ往昔ヨリ連綿通行權ヲ有シ未曾テ一回モ該路通行ノ自由ヲ抛擲シタルコト之レナキ
人民ナレハ該路通行ニ付テハ新山村人民ト同一視セラル可理由決メ無之ノミナラス
道路通行ニ付テハ被上告村民ハ上告村ハ勿論新山村人民ト同等ノ位置ヲ占メ往昔ヨリ該
路通行ニ付テハ一步モ屈從セシコト之レナキニ於テオヤ然ラハ上告者カ被上告村民ヲシテ新山
原人民ト同位置ニアル者ナリト推定セシハ反テ上告者カ事理ヲ誤マレル者ナリ
又上告狀中ニ「夫レ大林氷澤二道ノ他ニ道路ナキニ非ス試ニ圖面ヲ見ヨ該二道ノ他ニ四
十八曲峠南畔等ノ道路ノアルニアラスヤ去レハ被上告者ハ氷澤穴崩以來該二峠ヲ越セシ
ヤモ知ルヘカラス云々」ト申立レハ圖面上四十八曲峠南畔ノ兩道ニ記載アルモ永井札山
ヘ入稼スル線路ニアラサレハ素ヨリ札山入稼ニ付通行シタルコト之ナシ實ニ通行セサルノ
ミナラス該兩道ハ札山ヘ貫通セシ線路ニアラサレハナリ又同條中段ニ「凡ソ物其實ナキ

時ハ其言恒ニ支吾ス被上告者ハ初告以來辭ヲ飾テ曰ク古來水澤大林ノ兩道ヲ往復セシモ水澤欠崩以來大林ノミヲ通行セリト而シテ水澤ハ大林ヨリ迂遠ナリト自供セリ夫レ古來大林ヲ通行シ得ヘキ者トセハ當時何ニ依テ迂遠ナル水澤ヲ通行スルヤ又何ソ欠崩ヲ俟テ初テ水澤ノ通行ヲ廢スルヤ該自供タル却テ大林ヲ通行セシ事實ナキヲ推知スヘキナリ云々ト申立レ被上告ハ初告ヨリ終審廳ニ至ルモ未曾テ不實ノ陳述ヲ指テ支吾ノ言トスルヤ更ニ又上告者カ被上告カ言ノ恒ニ支吾スト云フハ如何ナル陳述ヲ指テ支吾ノ言トスルヤ更ニ解シ克ハサル處ナリ然レモ上告者カ支吾ノ言ト推想セシハ被上告カ古來水澤大林兩道ヲ通行セシモ水澤欠崩以後ハ大林ノミヲ通行スルト云フ陳述ヲ以テ直ニ支吾ノ言ト速了セシモノナラン依テ被上告ハ水澤大林ノ兩道アルモ專ラ大林ヲノミ通行セシ理由ヲ左ニ開示セシ被上告カ札山入稼ノ道路ハ古來水澤大林ノ兩線アリシ當時ニ在テモ入稼ノ道ハ專ラ大林ノ線路ヲ通行シ萬不得止場合ニアラサレハ水澤ノ線路ヲ通行セサリシナリ其理由ハ例ヘハ此ノ地ヨリ彼ノ地ヘ達スルコト甲乙兩道アリテ甲路ハ平坦ナルモ迂遠ニシテ乙路ハ峻峻ナルモ直近ナリト仮定セヨ此甲乙兩線ノ内何レノ道ヲ經テ彼ノ地ヘ達スヘキヤト之ヲ市人ニ問ハ、市人ハ必ス曰ハン迂遠ナルモ平坦ナル甲路ニ因ルト又之ヲ樵夫ニ問ハ、樵夫ハ必ス乙路ニ依テ彼地ニ達セント之レ市人ト樵夫ト常ニ徒步ノ慣習ヲ異ニスルニ原因スレハナリ之ニ反シテ甲路モ乙路ト均シク峻嶮ニシテ且ツ迂遠ナル時ハ假令市人ト雖モ乙路ヲ通過セシト云フヤ論ヲ俟クス况ンヤ山間ノ住民ニ於テオヤ右ノ理由ナルコトヨリ被上告村民ハ水澤大林兩道アリシ當時ニ在テモ札山入稼ニ付テハ主トシテ大林即チ乙路

ヲ必要ノ線路トシテ專ラ該道ヲ通行往復シ水澤ノ線路ヲ必要ト爲サ、リシ事實ヲ證明スルコト足レリトス又上告者カ申立ニ因レハ字大林道ハ古來ヨリ被上告村民ノ通行ヲ許シタルノ之レナク被上告村民カ永井札山へ入稼スル道ハ水澤ヲ通行スルヲ順路ナリトスト云フニアリ然レハ被上告カ札山へ入稼スル線路ハ水澤ノ外入稼ノ線路ナキモノト云ハサルヲ得ス然ルニ此ノ水澤道ハ上告者モ既ニ明認スル如ク今ヲ距ル九十ヶ年前即チ寛政度ニ於テ砂降ノ爲メコ路線ハ欠崩シ以來人馬共ニ通行スルコトヲ得サルニアラスヤ如斯通行シ得ヘカヲサル線路ヲ通過セサレハ札山ニ達スルコトヲ得サル者トスレハ素ヨリ入稼ヲ爲シ筋合ナルコト今日迄不斷山稅ヲ上納シ且ツ連綿トシテ入稼キ來リタルハ畢竟欠崩以前ヨリ入稼ノ要路ナル大林道ノ在ルアリテ此ノ道ヲ通行シ來リタル事跡ヲ視ルニ足レリ抑上告者ハ被上告村民カ札山入稼スルニ必ス大林ヲ通行セシ者ト推認シ難シトテ上告狀中ニ「假令該二峠ナカシシムルモ未タ必スシモ大林ヲ通行セシ者ト推認スヘカラス何トナレハ自己ニ不便否假令大害ヲ來スコトアルモ他人ノ權利ヲ妨クルコトヲ得ス」ト云フ自由ノ格言ヲ引用シテ被上告者ハ大林ヲ通行セサリシモノ、如クセリ之ニ因テ被上告者ハ上告者ニ對シ普通ノ格言ヲ以テ之ニ答フルニ己レヲ利センカ爲メニ他人ノ自由ヲ妨ケ又ハ損害ヲ加フルコト勿レト如斯普通ノ道理ノアルニモ拘ハラス上告者ハ被上告者カ札山入稼ニ付字大林ノ道路通行ヲ拒障スル原因ハ只己ヲ利セントスル主義ノ外他ニ理由ノアルニアラス何ントナレハ上告者カ明治十二年十一月二十一日原裁判所ニ於テ申立タル口供ニ

付テ考フレハ札山ハ十五ヶ村ノ入會札山ナルニ付蒞取場ノ區域トテハ無之ト雖モ若シ入會各村ノ者ヲシテ大林ヨリ入稼ナサシメシナラハ上告村カ蒞取ニ最モ手近ニシテ且ツ便宜ナル場所ニ於テ蒞取リセラル、ヤモ計難シ左スレハ乍チ上告村ノ耕作ニ影響ヲ及ホシ候ヨリ該路ノ通行ヲ許サ、リト云ヘリ是ニ由テ之ヲ論スレハ大林道ハ私設ノ道路ナリト云フヲ以テ他人ノ通行ヲ拒障スルニアラヌシテ上告村カ蒞取ニ最モ便宜ナル場所ニ於テ入會各村ノ者ニ蒞取ラレシムルコトヲ慮ルヨリ大林道通行ヲ許サ、リシト云フニアリ如斯己ヲ利センカ爲メニ故シラニ他人ノ自由通行ヲ妨クルノミナラス之レカ爲メ巨多ノ損害ヲ被ムラシムル如キ所爲ハ實ニ不條理ノ甚シキモノト云ハサルヲ得ス元來上告者カ大林道ノ通行ヲ障碍スルニ確然タル權利(乃チ主義)ノ在ルアツテ被上告ノ通行ヲ拒止スルニアラヌ何ントナレハ該道ハ私設ナルヲ以テ通行ヲ許サ、ルト云ヒ(無証ノ申立)又ハ該道ノ通行ヲ許シ札山入稼ナサシメシナラハ上告村最近ノ場所ニテ蒞取ララル、モ計リ難キニヨリ論道ノ通行ヲ許サ、リシト云ヒ始終主義ノ確定セサルヲ視レハ畢竟該道通行ヲ拒障スヘキ權利ヲ有サ、ルモノナリ

右ニ答弁スル次第ナレハ上告者カ原裁判所ノ裁判ヲ不當ナリト云フ上告ハ速ニ排斥相成様慎テ希望ス

辨明

抑モ上告第一號証ハ被上告村ノ吉左衛門外三名ニ於テ上告村及ヒ新山村ノ所有ナル札山ニ立入り薪盜伐セシ時ノ詔ヒ書ニシテ全ク本訴道路ノコトニ關係アラヌ又第二號証ハ蒞屋

原ノ村民共ニ於テ論道ヲ通行シタルヲ當時永井村ノ山見役タリシ利兵衛外一名ニ於テ上告村ニ對シ差入レタル爲取替規定証ニシテ該証中「向後入會人別右地内通路爲致申間敷」云々トアルモ被上告村ノ之ヲ認メタルモノニ非サレハ被上告村ニ對シ效力ヲ有セザルナリ又第三號証ハ原被告村ヨリ右利兵衛ニ對シ入會稼方及ヒ道路通行ノコトニ付從來ノ事實ヲ尋問セシ書面ナルモ利兵衛カ回答ノ旨趣ニ於テ論道ハ往昔上告村ノ發言ニ因リ開設ナシタルヲ以テ入山ノ者ハ上告村ニ無斷通行不相成哉ニ心得ルトノミニテ又第四號証即チ利兵衛ヨリ長野縣廳ニ差出シタル書面ニ於ルモ同一意ナレハ其回答及ヒ申立ハ必竟利兵衛カ心得迄ヲ云ヒシモノニシテ別段其據ルヘキノ証左アルニアラヌ然レハ該第三四號証ヲ以テ果シテ論道ハ上告村ノ開設ナリ被上告村ハ通行不相成ナリト証明スルヲ得ス凡ソ道アレハ一般衆庶ノ通行スルハ固ヨリ當然ノコトニシテ殊ニ本訴ノ道路ニ於ル原被告立會繪圖ニ在ルカ如ク入會山ニ入ルノミニ止ラスシテ他道ニ相達シ從來上告村及ヒ新山村ニ於テ入山ノ道路トナシ即チ人馬ノ通行シ得ヘキ道路ナリト上告者ニ於テモ自ラ明言ス所ナラスヤ然レハ自己私有地内等ニ於テ便宜ノ爲メ私ニ設ケタルカ如キ道路ト同一ニ論シ他人ノ通行ヲ拒ムヘキ條理ナキナリ若シモ該道路ハ上告村ノ私設ニ係リ他人ノ之レカ通行ヲ許サ、ルト云ハ、宜ク其証憑ヲ掲ケサルヘカラサルニ上告者カ提供スル証書ハ何レモ上文辨明ノ如ク之レカ立証ノ効ナクハ東京上等裁判所ニ於テ結局ハ(被告上告)ハ原告(被上告)カ入會札山ニ入稼スルニ付字大林ノ道路ヲ通行スルヲ拒ミ得ヘカラサル者ト可相心得事ト申渡シタルハ相當ノ裁判ナリトス

判決

右辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年六月九日東京上等裁判所ニ於テ本訴道路障礙解除一件ニ對シ申渡シタル終審裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノナリ但シ上告入費ハ上告者ノ負擔タルヘシ

第百十一號

○判文(明治十四年八月四日 上告) 明治十五年四月十八日申渡) 上告人

三重縣伊勢國員辨郡東一色村平民三枝藤吉外二十名代 言人

東京府深川區安宅町九番地 平民

松尾清次郎

三重縣伊勢國員辨郡東一色村平民掛野時三郎外七十五名代 言人

東京府京橋區山下町八番地 寄留三重縣平民

美濃部貞亮

被上告人

同代 言人 同府 同區 同町 同番地

平民

渡邊 稻人

地券申受差違ノ極米催促一件東京上等裁判所裁判ヲ不法トシ上告ノ趣旨ヲ要約スル左ノ如

第一 舊藩ノ頃貢租ヲ収ムル方法ハ村方庄屋ニ於テ之ヲ取集メ其筋ニ完納シ而シテ其請取証ハ皆村役場ニアリ且ツ上告者カ本村則被上告者ヨリ領収スル所ノ受取証ハ古來互ニ授受セシコナキハ當地ノ慣行ナリトス故ニ被上告者モ其請取証ヲ差出シタリト供述セシコナリ然ラハ此受取証ナキヲ以テ貢租ヲサル者トスルハ必竟慣習ノ取捨ヲ誤レルモノト云フヘシ元來本訴ノ如キハ現ニ其公正ナル帳簿ハ被上告者并ニ本村庄屋ニ於テ之ヲ保存スルモノナレハ實ニ上告者ハ之ヲ掲ルノ難キ者トス然ルニ原裁判所ノ審問爰ニ至ラス(往昔ヨリ累年村方役場ヘ納メタリトノ米百貳拾四石貳斗一升三合ハ實ニ貢租ナレハ貢租タルヲ認メ得ヘキ領収証ナカル可ラサルニ是等ノ書類更ニ之ナク云々)ト裁判セラレタルハ不法ナリ

第二 上告者カ其第三號第五號ノ面証ヲ差出シタルハ論地ノ性質即チ上告者等カ論地ヲ所有スルハ如此類例ナルヲ証明シタルナリ然ルニ原裁判所ハ如此立証ノ主意ヲ誤リ(原告) (上告者) 第三號及ヒ原告第五號証ハ論地外ノ地所ナリト原告モ供述スレハ素ヨリ本訴ノ證據トスヘキ者ニアラス)トセラレタルハ不法ノ裁判ナリ

第三 上告第二號第四號証ノ小字ニ於テハ固ヨリ論地中ノ字ニシテ現ニ本村庄屋カ奥印
 ナシタル者ニアラスヤ又被上告者ハ論地ヲ小字ナキ者ノ如ク論スレモ上告第1號証ハ現
 ニ三重縣元裁判所ニテ被上告者カ小作地ナリト主張セシ場所ヲ退テ熟談セシ地盤ニシテ
 明カニ小字ヲ記載セリ然ラハ則チ上告第二四號証ノ小字モ素ヨリ幕明岡山丁田等ノ地ニ
 存在スルモノトス此故ニ先ニ上告者ハ是等ノ事實ハ被上告ノ証言ニアラサレハ其事實ヲ
 見ル能ハサレハコソ殊ニ書面ヲ以テ地券發行實地丈量等ノ事實ヲ尋問セシコトヲ請願シタ
 ル場合被上告者カ其答辨ヲ拒ミタルニ任放シ一遍ノ審問ヲモ爲サス上告者ニ於テ如斯請
 願ハ不要ナリトシテ採用セラレノ竟ニ本案對審ノ局ヲ結ヒ以テ〔原告第二號并ニ原告第
 四號証ハ論地ノ内ナル地所ニシテ該証ニ記載シアル字ハ小字ナリト言フモ何等ノ証據ナ
 ク云々〕ト云渡シタルハ是全ク尽シ能フヘキ審問ヲ尽サ、ル不法ノ裁判ナリ

第四 上告第八號証ノ主義タル上告第一號証ノ訴意ハ貫通セサルモ其他賣買質入ナシタ
 ル土地ハ則上告者ノ土地ナリト裁判セラレタルコトハ一目瞭然タリ既ニ上告者ノ一人タル
 伊藤八庄工門ハ即チ上告第四號証ヲ有スルモノニシテ三重縣元裁判所カ賣買ナシタル上
 地ハ各自銘々ノ所有地トセラレタルナリ然ルチ原裁判所ハ上告者カ提供シタル証據物
 ニ檢印ヲモ降サス既ニ確定シタル裁判ヲ平翻シテ再ヒ被上告者ノ共有地ナリトセラレ
 〔原告第八號ハ三重縣元裁判所ニ於テ與タル判文ニシテ其判文中其質入又ハ賣買等致シ來
 レリト陳スル地所ニ於テハ各自銘々ノ所有地云々トアルヲ以テ論地ハ原告ノ所有地ナリ
 ト主張スレモ當ニ此ノ判文爾ニ別ニ証ヲ舉ケサル限りハ果シテ其地所ハ本訴ノ論地ニ

適當セシモノトハ定メ難ク云々〕ト裁判セラレタルハ聽斷ノ定規ニ乖ク而已ナラス全ク
 裁判官理ノ權限ヲ超ヘタル不法ノ裁判ナリ

第五 上告者カ其八號証ヲ掲タルノ主旨ハ既ニ前條ニ略述スル所タリ然ルニ原裁判所ハ
 上告者カ呈出シタル所証據物ヲ以テ反テ被上告者ノ利益トナルヘキ証據ニ附會シ〔原告
 第八號証ノ判決ハ論地ヲ小作地ナリト看做スノ傍証トスルヲ得ヘキモ云々〕トセラレタ
 ルハ不法ノ判決ナリ

第六 上告第六號証左ノ如ク現ニ被上告者ノ内掛野時三郎カ四日市區裁判所ニ於テ証言
 シタル如ク「右年貢ハ年々百二拾四石貳斗壹升三合ナリ」ト云ハレ實供ニ對シテハ何等ノ
 判文ヲモ與ヘスシテ上告者ノ証據物ヲ捨置キ以テ〔本訴判決上影響ヲ生スヘキモノニハ
 之ナシ〕トセラレタルハ單ニ判官一己ノ思想ヲ以テセラレタル不法ノ裁判ナリ

第七 上告者カ有スル第二號乃至第五號及第八號等ノ諸証ハ悉ク公正ノ証書ナルヲ被上
 告ノ手ニ成立タル私ノ証據物ヲ以テ之ヲ打消シ又〔被告〕^{被上告}第二號第三號及被告第
 九第十號証ヲ視レハ小作地ヲ散田ト稱シ小作米ヲ極米究米掟米ト唱フ事ハ判然トシテ
 云々〕ト裁決セラレ其散田ト稱スルハ如何ナル事由ニテ小作地タルヤモ審究セラレサル
 ハ俱ニ不法ノ裁判ナリ

第八 原裁判所ハ前數條ニ論及セシ如ク尽スヘキ審理ヲ尽サス又採ルヘキ公正ノ証據ヲ
 取ラス自ラ違フ可キノ權限ヲ超過シ杜撰疎漏ノ調査ヲ爲シ終ニ所爭ノ耕地ヲ以テ〔被告
 ノ共有地ナリトスルノ外ナシ〕ト斷定セラレタルモ如何ナル証據ニ依テ斯ク判決セラレ

タルモノナルヤ共有地タリトノ事實ハ少モ分テス實ニ曖昧朦朧タル不法ノ裁判ナリ

上告退伸

被上告者カ請求スル極米高ハ上告者中何ノ誰ニハ幾許ニシテ其反別ハ何レノ地所ニ適スルヤヲ訊問セシ場合原裁判所へ被上告者カ提供(明治十二年十月廿五日)シタル極米小前調ト題スル書面ニ對シ上告者ハ其請求高ト實際是迄官納シタル税米ト符合セス故ニ右書面ニ付箋ヲ爲シ又更ニ起訴者即チ被上告者ニ向テ其ノ符合セサル事實ヲ審問アラソフヲ請願シタルモ採用セラレヌ原裁判所ハ叨リニ被上告者カ根據ナキ請求高ニ相當ナリト認メ以テ〔原告控訴ノ旨趣相立ス到底初審裁判ノ通り云々〕ト申渡サレタルハ審理ヲ尽サ、ル不法ノ裁判ナリトノ事

被上告人ハ上告ノ不當ナルヲ抗撃シ原裁判ヲ以テ正當ナリト辨護シタリ依テ辨明并ニ判決ヲ與フル左ノ如シ

辨明

第一條

上告要領第一項ノ旨趣ヲ審按スルニ原判文ニ所謂實ニ貢租ナレハ貢租タルヲ認メ得ヘキ領収証ナカル可ラサルニ云々トハ其貢租タルヲ認メ得ヘキ孰レカノ證據ナクソハアル可ラストノ意味ニテ強チ其領収証ニ限りタルモノニ非ス夫レ自己ノ申立ヲ確的ナラシメンニハ必ス之ヲ証明セサルヲ得ス故ニ上告者ハ果テ其申立ノ如ク本村ノ慣行ニテ累年村方役場ニ納ル所ノ米額ノ領収証ハ古來互ニ授受セシテ無キニ付其領収証ナシトナレハ即チ

他ノ的証ヲ舉テ其貢租タルヲ證明セスソハアル可ラス然ルニ一モ其貢租タルヲ證明スヘキ舉証ナキヲ以テ原裁判所カ往昔ヨリ累年村方役場へ納メタリトノ米百貳拾四石貳斗壹升三合ハ實ニ貢租ナレハ貢租タルヲ認メ得ヘキ領収証ナカル可ラサルニ是等ノ書類更ニ之ナク云々貢租ナリトハ確定シ難シト裁判シタルハ決シテ不法ニアラサルナリ

第二條

上告要領第二項ノ旨趣ヲ審按スルニ上告第二四號証証書書面ノ地所カ果シテ論地内ノ地所ナリトセハ如何ニモ上告者ハ其第三五號証ノ類例ニテ論地ヲ所有シタリトノ論理ヲ主張スルコト得ルト雖モ其第三四號証々書面ノ地所カ論地ニ適スルトハ唯ニ上告者一己ノ口述ニ止リ何等ノ証左ナキノミナラス反テ上告者ハ該第四號証々書面ノ地所ハ論地外ノ地所也ト自陳スルモノ、如シ如何トナレハ上告者カ本訴抵拒ノ一証トシテ提出シタル其第八號証即チ三重縣元裁判所ノ判文ニ其質入又ハ賣買等ニ致シ來レリト陳スル地所ニ於テハ云々本訴ニ係ルノ土地ニ無之トアリ而シテ又上告者ハ上告第四號証ハ曾テ三重縣元裁判所へ提出シタル十二通証ノ内也ト云ヒ又本訴論地モ同裁判所へ起訴シタル時ノ論地ノ内也ト云フヲ以テナリ然レハ乃チ上告者ハ其第二四號証々書面ノ地所ハ其第三五號証ノ類例ニテ之ヲ所有シタリト云フコト得ルト雖モ論地ヲ所有シタルハ其第三五號証ノ類例ナリト云フコト得ス故ニ上告第三五號証ハ上告者ニ於先ッ其第二四號証々書面ノ地所カ果シテ論地ニ適スルトノ的証ヲ舉ケサル限リハ本訴論地ニ關シ何等證據ノ効力ヲ生セサルモノトス依テ原裁判所カ原告第三號及原告第五號証ハ論地外ノ地所ナリト原告モ供述ス

レハ素ヨリ本訴ノ証據トスヘキモノニアラスト裁判シタルハ決テ不法ニアラサルモノトス

第三條

上告要領第三項ノ旨趣ヲ審按シ傍ラ被上告者カ當法庭ニ於テ申立ニ據ルニ云ク初メ上告者ハ質問書ヲ出シタルニ付被上告者ハ之ニ答辨シタリ然ルニ上告者ハ被上告者ノ答辨ヲ自己ノ意ニ適セストシ其後對審ノ席ニ於テ再々夫ノ請願書ニ掲クルカ如キ質問ヲ爲シタルニ被上告者ハ之ヲ不用ナリトシテ其答辨ヲ拒ミタルニ付キ當時判官モ被上告者ノ答弁ヲ強ヒサリシナリト然シテ上告者モ此申立ノ事實ナルヲ認メ敢テ之ヲ爭ハサリシナリ然レハ乃チ原裁判所カ明治十三年十月四日附ヲ以テ上告者ヨリ捧呈スル所ノ請願書ヲ採用セサリシハ被上告者カ其ノ答辨ヲ拒ムニ因ル者ニシテ決シテ原裁判所カ初ヨリ上告者ノ質問ヲ斥ケ被上告者ニ命スヘノ答弁ヲモ命セサルニ非サリシナリ抑モ原被ノ一方ヨリ他ノ一方ニ對シ自己ノ利益トナルヘキ質問ヲ爲スハ素ヨリ其自由ニ任スト雖モ其質問ヲ受ケタル他ノ一方ニ於テ之カ答辨ヲ爲シ若クハ之ヲ拒ムハ亦其自由ナリトス故ニ若シ他ノ一方ニ於テ其答弁ヲ拒ミタルハ裁判所ニ於テハ之レカ答弁ヲ強ユルヲ得ス又原被ハ其訴件ニ關シ自己ノ權利ヲ保護スルノ証據ハ各々自ラ之ヲ提出スヘキノ責ニ任スヘキノナリ故ニ上告者ハ原裁判所カ被上告者ノ其答辨ヲ拒ムニ拘ハラズ之ヲ強ヒサリシニヨリ上告第二四號証ノ小字カ本訴論地ニ適當スルノ証ヲ舉ルヲ能ハサリシナリトチ其不服ヲ訴フルヲ得ス依テ原裁判所カ上告者ノ願請ニ對ス可キ被上告者ノ答辨ヲ強ヒサリシハ

相當ノ處分ニシテ決テ盡シ能フヘキ審問ヲ盡サ、ル不法ノ事柄ニアラサルモノトス

第四條

上告要領第四項ノ旨趣ヲ審案スルニ上告者ハ其ノ第八號証即チ三重縣元裁判所ノ判文ニ其質入又ハ賣買等ニ致シ來レリト陳スル地所ニ於テハ各自銘々ノ所有地トアリテ而上告第四號証ハ右各自銘々ノ所有地ト判決セラレタル証書ノ一部ナルニ付キ該第四號証々書面ノ地所ハ本訴論地ノ内ナリト言フカ如クナレモ抑モ該判文ニ所謂各自銘々ノ所有地ト其所有地カ本訴論地ニ適當スルヲトハ全ク殊別ノ事柄ナルニヨリ上告者ニ於テ其第四號証々書面ノ所有地ハ即チ本訴論地内ノ地所ナリト主張スルニハ更ニ其的証ヲ舉ケサル可ラス然ルニ一ツモ其証ヲ舉サルノミナラス既ニ第二條ニ於テ辨明ヲ與フルカ如ク却テ該第四號証ノ地所ハ本訴論地外ナルヲ明カナリトス何トナレハ三重縣元裁判所ノ判文ニ各自銘々ノ所有地ニシテ本訴ニ係ルノ土地ニ無之トアレハナリ依テハ原裁判所カ原告第八號証ハ三重縣元裁判所ノ判文ニシテ云々別ニ証ヲ舉ケサル限リハ果シテ其地所ハ本訴ノ論地ニ適當セシモノトハ定メ難クト判決シタルハ至當ノ裁判ニシテ決シテ不法ニアラサルモノトス又此原判文ハ上告第四號証ノ地所カ本訴論地ニ適當セシモノトハ定メ難クト裁判シタル迄ニテ其地所カ上告者ノ所有カ將ク所有ニ非サルカノ点ニハ毫モ判及セサルニ付決テ三重縣元裁判所ノ確定裁判ヲ今又覆審シタル不法ノ裁判ニ非ストス但原裁判所カ上告者ノ捧呈シタル証據物ニ檢印ヲ爲サザリシヲハ至當ナリト云フヲ得サルモ是等ノ事柄ハ本訴曲直ニ些ノ影響ナキヲ以テ破毀ノ材料ト爲スヲ得ス

第五條

上告第五項ノ旨趣ヲ審按スルニ凡ソ裁判所ハ原被兩造カ呈出スル所ノ證據物ニ據テ其事
實ノ當否ノ判斷スルモノナレハ或ハ原被ノ一方ヨリ呈出シタルノ證據物ヲ以テ他ノ一方
ノ爲メノ證據ニ採用スルモ固ヨリ其職權ニ在リトス加之ナラス此場合ニ當リテハ其證據
物ヲ呈出シタル一方ノ者ハ其證據ニ關シテハ畢竟自認ニ等シキモノニシテ自認ハ諸証中
最モ勢力ヲ有スルノ証ナリトス况ンヤ原裁判所カ原告第八號証ノ判決ハ論地ヲ小作地ナ
リト見做スノ傍証トスルヲ得ヘキモ云々ト裁判シタルハ強ク上告者ノ證據物ヲ以テ被上
告者ノ爲メノ證據ニ採用シタルモノニ非ス畢竟其主眼ハ上告第八號証ハ論地ヲ上告者ノ
所有地ナリトスル證據ニハ採用シ難ト裁判シタルニ過サル者ナルニ於テオヤ如何トナレ
ハ其判文ニ傍証アリ若クハ傍証トス等ノ確定詞ヲ用ヰスノ傍証トスルヲ得ヘキモノト云
フ假設ノ詞ヲ用ヒ而シテ直ニ其下ニ原告ノ所有地ナリトスルノ證據ニハ採用シ難シトアレ
ハナリ耶之被上告モ亦其第十一號ヲ以テ上告第八號証ト同一ノ證據物ヲ原裁判所ニ提出
シキタルナレハ原裁判所カ原告第八號証ノ判決ハ論地ヲ小作地ナリト見做スノ傍証ト
スルヲ得ヘキモ云々ト裁判シタルハ決テ不當ニアラサル者トス

第六條

上告要領第六項ノ旨趣ヲ審按スルニ上告第六號証タル被上告者ノ内掛野時三郎カ四日市
區裁判所ニ於テノ供述ハ即チ同人一己ノ供述ニ係リ被上告者ノ總代タル資格ニテ有供述
ヲ爲シタルニ非レハ被上告者一般ニ向テ證據ノ効力ヲ有スルモノニ非ス故ニ該第六號証

ハ被上告者ニ於テ更ニ之ヲ認諾シタルノ証ナキ限リハ本訴ニ關シ影響ナキモノトス依テ
原裁判所カ其六號証ハ云々本訴判決上影響ヲ生スヘキモノニハ無之ト裁判シタルハ決テ
不法ニアラサルモノトス

第七條

上告要領第七項ノ旨趣ヲ審按スルニ上告第二號乃至第五號証ハ村吏ノ與印アル証書ナリ
又其第八號証ハ三重縣元裁判所ノ判決文ニシテ何レモ皆公正ノ証ナリト雖モ既ニ前數條
ニ辨明スル如キ理由ニテ該數號証ハ素ト其性質上告者カ據テ以テ本訴論地ヲ所有地ナリ
トスル證據ノ効力ナキ者ナルニ付キ本訴ニ關シテハ該証自ラ打消ヘタルモノニシテ被上
告者ノ證據物ヲ俟テ初テ打消サレタルニ非ス又被上告者ハ其第二三號及第八號乃至第十
號証ニ據テ本訴論地ハ上告者ニ小作セシメタルナリト申立ルニ依リ果シテ該數號証中散
田若クハ極米ト稱スルモノ、小作地又小作米等ニ相當スルヤ否ヲ審究スルハ頗ル緊要ナ
ナリト雖モ既ニ其事判然セハ其以上如何ナル事理ニテ小作地ヲ散田ト稱スルカヲ究ムル
ハ抑モ不要ノ事ナリトス依テ原裁判ハ不法ニアラサルモノトス

第八條

上告要領第八項ノ旨趣ヲ審按スルニ原裁判所カ本訴論地ヲ被上告者ノ共有地ナリト判決
シタルハ田畑ノ貢租ハ年ノ豐凶ニ依リ多年ノ内ニハ必ス増減アルヘキ筈ナルニ上告者カ
是等ノ事理アルニモ拘ラス古來一定ノ米額ヲ本村ニ納付シ來リタルト被上告第二第三第
八乃至第十號証等ハ皆當時村方役場ニ備ヘタル公正ノ古帳簿ニシテ其形狀尙モ後日捏造

變易等ニ係リタル疑似ノ跡ナキヲ信認採用シタル等ニ因ルモノニシテ決テ原裁判所ノ本
訴論地ヲ被上告者ノ共有地ナリト判決シタルハ何等ノ證據ニ憑リタルモノナルヤ曖昧朦
朧分ツ可ラサルカ如キ不法ノ裁判ニアラサルモノトス

第九條

上告退伸ノ要領ヲ審按スルニ被上告者カ明治十二年十二月二十五日附テ以テ原裁判所へ
提供シタル極米小前調ト題スル書面ハ即チ本訴請求ノ一タル極米高及ヒ其裁判ヲ實地報
行スルニ付頗ル切要ノ關係ヲ有スルモノナレハ若シ上告者ニ於テ該調書ニ對シ異議ノ申
立アレハ此争点ニ付キ詳細審斷ヲ須ユルハ亦最モ緊要ノコナリトス然ルニ原裁判所ハ現
ニ上告者カ該調書ニ對シ異議ノ申立アルニモ拘ハラヌ何等ノ審究判決ヲモ與ヘサリシハ
審理ヲ尽サレ不法ノ裁判ナリトス

判決

右第九條辨明ノ如クナルヲ以テ原裁判ヲ破毀シ名古屋控訴裁判所へ移スニヨリ更ニ同裁判
所ノ裁判ヲ可受者也

但シ訟訴入費ハ規則ニ依リ被上告者ヨリ償却スヘシ
第百十二號

○判文(明治十四年十月卅一日上告)
(明治十五年四月十八日申渡)

新瀉縣越後國西蒲原郡下和
納村平民

上告人

笠原佐太郎

東京府京橋區西紺屋町九番地

平民

林和一

新瀉縣越後國西蒲原郡吉田村

平民

今井孫平

被上告人

東京府神田區駿河台西紅梅町

拾二番地寄留秋田縣士族

關幸太郎

右代言人

地券帳簿名前引直シ一件ノ訴訟東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ムル上告ノ主点
左ノ如シ

第一舊長岡藩下ノ習慣ニ係ル金銀貸借ノ証文ヲ以テ地所賣買ノ証文ト認メ且五ヶ條ノ事
理ヲ推究セサリシトノ事

第二上告者カ會テ申立テサル事項ヲ判文ニ掲載セシトノ事

第三地所賣買禁制中ニ取結ヒタル契約ヲ有効ト判決セシトノ事

第四天保五年ノ契約ニ係ル物件ノ引渡シテ明治十四年ニ至リ請求ストモ出訴ノ期限ハ既
ニ經過セシトノ事

被上告者ハ原裁判ノ至當ナル理由ヲ述ヘテ之ヲ辨護シタリ

辨明

第一條

上告人ニ於テ當時長岡藩ハ幕府ノ制度ニ基キ地所ノ賣買ヲ許サス内實賣買セント欲スル者ハ爾々ノ手續ヲ經テ必ス代官所ノ裏書ヲ要セシ旨第十號ヲ引証トシテ辨論ニ及ヒタルニ原裁判所ハ此習慣ヲ顧ミス偏ニ文字ニ拘泥シテ賣買ノ証文ナリト言渡セシハ不當ナル旨申立ト雖モ被上告者ハ他ニ代官所ノ裏書ナキ証文ヲ以テ賣買ノアリシ証据即第七號第八號ヲ供シ此第八號ヲ以買受タル林左衛門ハ今仍ホ其地所ヲ所有シ居ル旨ヲ辨駁シタリ上告人之レヲ消滅セシムヘキ証据ヲ供セサリシニヨリ原裁判所ハ舊長岡藩ノ習慣必シモ上告人申立ノ如キニ止マラスト認メ証書明文ノ如ク賣買ノ証文ナリト判決セシハ不法ノ裁判ニアラス

第二條

又原裁判ハ被上告者カ第一五十年ノ久シキ貢租ヲ納メス第二小作証書ヲ有セス第三自己ノ所有地ヲ知ラス第四地券調等ト關理セス第五五十年ノ久シキ絶テ關係セサリシ等ノ事理ヲ推究セサリシ旨申立ト雖モ右五ヶ條ニ對シ被上告者ハ夫々証据ヲ以テ相當ノ辨解ヲ爲シタルヲ見レハ原裁判ハ之レヲ推究セスシテ判決セリト見做シ難シ

判文第二條ニ裏判ナキヲ以テ當時成立サリシモノ、如クモ佐太郎代理人ニ於テ申立レトモ云々トアルニ對シ上告人ハ曾テ右様ノ申立テヲナサリシ旨申立ルト雖モ判文中陳

述ノ意ヲ掲載スルコトアリ又陳述ノ儘ヲ掲載スル事アリ之ヲ要スルニ陳述ノ意ヲ失セサレハ孰レニヨルモ妨ケナシトス即本條ノ如キモ上告者ノ控訴狀ニ「該地ノ如キハ未ダ本法ノ賣買完了セシモノニ非ス」トアルノ意ヲ執リシモノト見ルヲ得ヘケレハ申立テサリシ事項ヲ掲載セシニアラス

第三條

上告人ニ於テ地所賣買禁制中ノ契約ハ無効ナル旨辨論スト雖モ當時ニ於テモ人民相互ノ間ニ於テハ實際賣買ヲ行ヒ來リ現ニ長岡藩下ニ在リテモ被上告第八號ノ如キ証据アル上ハ今日ニ於テ無効ノ契約ト爲スヲ得ス

第四條

上告人ニ於テ天保五年ノ契約ニ係ル物件ノ引渡シヨ明治十四年ニ至リ請求ストモ出訴期限ハ既ニ經過セシ旨辨論スト雖モ物件ノ引渡ヲ求ムルニ付テノ出訴期限ハ之レナキモノトス

判決

右辨明ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス
但上告入費ハ上告人負擔スヘシ

第百十三號

○借入金返済証書取戻一件東京上等裁判所
明治十四年十一月十八日上告
裁判不當上告ノ判文
明治十五年四月十八日申渡

千葉縣上総國市原郡姉ヶ崎村
二百七番地平民

上告人

榎 本 佐次兵衛

東京府四ッ谷區四ッ谷忍町

五番地平民

右代人

佐 藤 篤 次 郎

千葉縣上総國市原郡椎津村

百十四番地平民

被上告人

藤 谷 傳 九 郎

藤 谷 友 吉

上告要領

第一條

原判文ニ(明治十三年八月三日被告)齋藤親松ヲ代人トナシ原告ヘ係リ勸解ヲ出願セシメタルニ相違ナク而シテ甲第六七號証ナル勸解聽ノ召喚狀ニハ「榎本佐次兵衛代齋藤親松右ノ者ヨリ貸金催促勸解願出タルニ付來ル十四日云々」ト記シ明治十三年八月三日付ニ有之此ヲ以テ之レヲ觀レハ原告ハ甲第四號ノ委任狀ノ奈何ニ拘ハラズ右召喚狀ニ對スルモ親松ヘ返金スルハ固ヨリ當然ナリトアレトモ明治十三年八月十四日ニ出頭スヘキトノ召喚狀ヲ依令明治十三年八月十三日ニ被上告人方ヘ持參スルモ實ニ被上告人カ在

宿ナレハ該召喚狀ヲ異議ナク受取ルヘキ筈ナキナリ何トナレハ被上告人カ居村ヨリ千葉町ニ至ル凡六里ノ距離ナレハ十四日ニ出頭スヘキトノ召喚狀ヲ十三日ニ受取ルトモ其呼出當日ニ出頭スル能ハサレハナリ蓋召喚狀カ今ニ被上告人方ヘ存在スルヲミレハ全ク當時被上告人ハ不在ナルカ故召喚狀ヲ被上告人方ニテ預リ置キ親松ハ被上告人ノ不在ナルヲ以テ乙第七號証ノ如ク勸解ヲ願下ケタルモノニテ被上告人カ親松ヘ依頼シ勸解ヲ願下ケタリト云ハ事實ニ相違シタル申供ナルヤ明カナリ

抑甲第六七號証ノ召喚狀ハ親松カ自ラ持參セサレハ當時甲第四號証ヲ被上告人ヘ付與シ甲第二號証ノ金額ヲ受取り甲第三號証ノ契約ヲ結了シ得ヘカラサレハ該召喚狀ハ果シテ親松カ持參シタルヤ否ヲ審究セサルヲ得ス然ルニ原裁判所ニ於テハ此等ノ顛末ハ措テ問ハス又勸解聽ニ於テ齋藤親松ヲ上告人ノ代理ト認メラレ乙第六七號証ノ召喚狀ヲ下付セラレタルハ即チ乙第八號証ニ委任狀アルニ依ラレタルモノナリ上告人カ親松ヲ以テ被上告人ヘ係リ貸金催促ノ勸解ヲ出願セシメタルハ則右第八號証ノ委任狀ヲ付與シタルヤ論ヲ駁ス果シテ然レハ他ニ委任狀ヲ付與スヘキ道理ナクレハ當時被上告人カ親松ヨリ受取リ置タルト云フ甲第四號証ハ被上告人ノ作為シタルモノナレハ依令被上告人カ甲第三號証ノ契約ヲ履行シタルト云モ上告人ヘ對シテハ固ヨリ何等ノ効驗ナキモノナレハ本訴証書ヲ請求スヘキ權利アラサルナリ然ルニ原裁判所ニ於テハ上告人カ親松ヲ代理人トナシ委任シタル推限ノ如何ヲ審理セラレズ貸金催促ノ勸解ヲナシタル一偏ニ倚據シテ上文ノ如ク裁判ヲ與ヘラレタルハ不當ナリトノコ

第二條

同判文末項ニ〔甲第一號証ノ利金タルヤ他ノ貸金ノ利足ト看ルヘキ証アラサルカ故甲第一二號及甲第五號証ハ何レモ有効ノモノナリ〕トアレトモ抑甲第一號証ハ彙キニ貸付置タル金員ヲ乙第五號証ニ書換タル際其書換タル元金ノ利息受取書ニシテ本訴金額ノ内ニ受取タルモノニ非ルナリ（第五號証書換ノ事由ハ初審終審兩廳ニ詳述セリ）然リ而シテ乙第五號証ノ金員ハ返濟期限ニ至リ淹滞シタルヨリ明治十四年一月中上告人ヨリ被上告人ヘ係リ始審廳ニ起訴シタル未被上告人ハ該証ノ金額ヲ皆濟シタル事跡アルト又甲第一號証ト乙第五號証ノ成立タル年月日ノ同一ナルヲ以テモ甲第一號証ハ乙第五號証書換ノ際彙キニ貸付置タル元金ノ利息ニ受取タルモノタルヲ証スルニ足レリ固ヨリ乙第一號証ハ本訴金額ノ計算上ニ加入スヘキモノニ非ルナリ故ニ勸解願書即チ乙第六號及ヒ九號証ニモ乙第三號四號証貸金ノ外請求セサルモノナレハ乙第一號証ノ金員ハ本訴ニ關シ加算スヘキモノニ非ルヤ顯然タリ然ルニ原裁判所ニ於テハ甲第一二三四五號証ヲ皆有効ノモノトシ甲第一號証ノ利金タルヤ他ノ貸金ノ利足ト看ルヘキ証アラス云々判定セラレタルハ不當ナリトノリ

辨明

上告人ハ原裁判所ノ判文ニ〔明治十三年八月三日被告齋藤親松ヲ代理人トシテ原告（被上告）ヘ係リ勸解ヲ出願セシメタルニ相違ナク云々右召喚狀ニ對スルモ親松ヘ返金スルハ固ヨリ當然ナリ〕トアルヲ不當ナリトシ親松ヲ代理トシテ勸解ヲ出願セシメタル際被上告人ハ不在ナルコト付乙第七號証ノ通り勸解ヲ願下タリト陳辨スルモ其ハ明治十三年八月

十三日ニ親松カ被上告人ヨリ甲第二號証ノ金員ヲ受取り甲第三號証ノ契約ヲナシタル事跡ノ確實ナルニ於テハ其實被上告人ハ不在ニアラサルヤ知ルヘシ然シテ其事跡ノ確實ナルコトハ後段ノ辨明ニ於テ明了ナリ

上告人ハ甲第六號第七號証ノ召喚狀ハ親松カ自ラ持參シタルヤ否ヲ審究セサルヘカラスト云々陳辨スレトモ明治十三年八月十三日ニ親松カ被上告人ト甲第二號証ノ金員ヲ受授シ甲第三號証ノ契約ヲ爲シタルヤ上告人カ其第三號証ヲ不眞正ナリトスル確証ノ擧ラサル限りハ當時親松カ召喚狀ヲ被上告人ヘ交付シ甲第二號証ノ金員ヲ受授シ甲第三號証ノ契約ヲ結了セシコト明了ナレハ何復該召喚狀ハ何人カ持參シタルヤ否ノ審究ヲ要セシヤ固ヨリ審究スルニ及ハサルナリ

上告人ハ親松ヘ代理セシメタル權限ニ付云々論述スル所アルモ上告人ヨリ親松ヘ乙第八號証ノ通り委任狀ヲ與ヘ被上告人ヘ係リ貸金催促ノ勸解ヲ出願シ而シテ親松ハ甲第六號第七號証ノ召喚狀ヲ被上告人ヘ交付シタル事蹟及ヒ明治十四年七月中原裁判所ニ於テ上告本人ノ口供中ニ金二十圓ト金五拾圓ノ貸金取立方ニ付齋藤親松ヘ任委シタルコトアリ云々トアルヲ參照スレハ上告人ハ親松ヘ該貸金取立方ノ代理ヲナサシメタルモノト認ムルニ餘リアリ且甲第四號証ヲ不眞正トスル確証モ之レナキ上ハ上告人ニ於テ甲第三號証ノ契約ヲ効力ナキモノト云テ得ス

又上告人ハ同判文末項ニ〔甲第一號証ノ利息タルヤ云々故ニ甲第一二號証及ヒ甲第五號証ハ何レモ有効ノモノナリ〕トアルヲ不當ナリトシ甲第一號証ハ他ノ貸附金ヲ乙第五號

証ニ書換タル際其利息ニ受取タルモノナリト申陳スルモ他ノ貸金ノ利息ト認ムヘキ証憑
 ナケレハ該一號証ノ金員ハ該五號証ノ貸金書換以前ノ利息ニ受取タルモノト爲スヲ得ス
 又甲第二號第五號証ノ金員ハ上告人ノ代理タル親松カ受取タル上ハ則被上告人ハ上告人
 へ對シ正當ニ其義務ヲ行ヒタルモノナレハ甲第一二號証及ヒ甲第五號証ノ金員ハ悉皆本
 件返金ノ部ニ計算スヘキハ當然ナルヲ以テ原裁判所ニ於テ何レモ有効ノモノナリト認メ
 タル所以ナリ
 是ヲ以テ原裁判所ニ於テ(原告)被上(請求)ノ通り甲第一二號及甲第五號証ノ金額ヲ引去
 リ云々乙第一號及乙第三四號証ヲ原告(被上)へ差戻スヘキ事ト言渡シタルハ不當ノ裁
 判トナス可カラズ

判決

前條辨明ノ通りナルヲ以テ明治十四年九月二十九日東京上等裁判所ニ於テ言渡シタル終決
 裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス
 第百十四號

○地券書換ヲ求ムル一件長崎上等裁判所

裁判不當上告ノ判文(明治十四年八月廿二日上告)
 (明治十五年四月十九日申渡)

上告者

熊本縣肥後國八代郡兩出村
 七百五十二番地士族
 佐藤立平

右代言人

東京府芝區新櫻田町十九番地
 平民西尾「フミ」方止宿熊本縣
 士族
 吉永爲己

被上告者

熊本縣肥後國熊本區四百廿番
 地士族米田與七郎相續人
 米田虎雄
 松尾經八

右執事

東京府京橋區銀座一丁目廿一
 番地寄留大分縣士族
 元田肇

右代言人

上告ノ要旨

該裁判言渡書第一條ニ曰ク(被告)ニ於テ乙數號証ヲ掲ケ原告カ書換ヲ求ムル本訴十八葉
 地券狀ノ新地ハ原告ヨリ甲第一號証ノ地代錢ヲ借受シ被告カ買得セシモノナル云々申立
 原告ノ請求ヲ拒ムト雖モ甲第一號証ヲ閱スルモ其地代錢ヲ被告カ借受ケタル明文無之ニ
 付其中分相立カタシト漫ニ上告人カ答辨ヲ擯斥セラレシト雖モ抑証書ナル者ハ契約ヲ
 載スルノ器ニシテ事實ヲ后日ニ誤ラサルノ具タルニ過キササルヲ以テ若シ其權義ヲ分別セ
 ント欲セハ宜ク其事實ニ就テ解釋ヲ施サ、ル可カラズ則本訴甲第一號証ノ如キハ尤モ其

成蹟ニ就テ解釋ヲ施サスハ忽チ事實相反シ權義轉倒スルニ至ルヤ必セリ於是從來ノ成蹟ヲ顧ミレハ上告人ハ乙第三號乃至乙第八號及ヒ乙第十號証等ノ如キ其費用勞力ヲ自ラ負擔シ來リタル而已ナラス甲第二號証モ上告人ノ名宛ナリ該地ノ授與ヲ官廳ニ受ケシモ乙第十三號証ノ通り上告人ナリ地券沽券ノ調査ヲ受ケシモ乙第二十三號証ノ通り上告人ニシテ一モ被上告人カ加入ナク所有地ナリト認定ス可キ者ニ之レナキナリ然ラハ則ト仮令甲第一號証ハ原告カ加入ナルコト明文判然タルニモセシ其明文ハ乃チ事實ニ背馳シタルモノナレハ決シテ其効力ヲ有ス可キモノニ非サルナリ況ンヤ其明文ナキニ於テヨヤ又甲第一號証ノ六拾五貫目ハ被上告人カ舊宇土藩ノ新地築造ニ加入セシ者ナリト自供セシ若シ夫レ然ラハ明治二年ノ破壊ニ依テ無論被上告人カ損失ニ飯ス可キ處ナルニ其後ニ至リテモ仍ホ上告人カ其義務ヲ負擔シテ甲第一號証ニ記載セシハ抑モ何ソヤ被上告人カ加入ニ非サルコト愈々判明ナル處ナリ然ルニ右等ノ成蹟ヲ審明セズ該証ニ地代錢ヲ借受ケタル明文無之トテ漫ニ被上告人ノ妄誕ヲ偏信セラレ上告人ノ答弁ヲ擯斥セラレタルハ不當ノ尤モ甚シキモノト謂ハサルヲ得サルナリ

又其第二條ニ曰ク「被告ニ於テ本訴地券狀ヲ原告ヘ引渡シタルハ抵當ニ差入レシモノナリト申立ルト雖モ其抵當タルノ証左ナケレハ原告ノ所有ナルヲ以テ之ヲ引渡シタルモノト認定セサルヲ得ス」ト説明セラルト雖モ元來被上告人カ自己ノ所有ナルヲ以テ該地券ヲ受取りタリト云フコソ口頭ノ陳述ニ止リ寸証ノ視ル可キナク而シテ上告人カ之レヨ抵當ニ差入レタルモノト云フハ其証左ナキニ非サルナリ乃チ乙第十二號ノ如ク當初他村

ノ地券ヲ受取り居タルコト及ヒ植原甘雨名前ノ地券二葉ヲ今仍ホ所持スルカ如キハ被上告人カ所有地ナルヲ以テ本訴ノ地券ヲ受取りタルモノニ非サルコト昭乎トシテ視ル可キモノナリ若シヤ被上告人カ所有ナルヲ以テ受取りタルモノナラハ前陳ノ如キ他村ノ地券及ヒ植原甘雨名前ノ地券等ヲ受取り可キ條理ハ方々之レナキ處ナリ然ルチ却テ上告人カ答旨ヲシテ証左ノ視ル可キナシトハ亦之レ不當ト謂ハサルヲ得サルナリ

其又第三條ニ曰ク「被告ニ於テ甲第三四號及ヒ兩通ノ書翰ハ原告ヘ遺シタル覺ヘナシト申立ルト雖モ甲第一號証及ヒ被告ノ認印アル書翰上ハ封ノ文字其他被告カ本衙ニ差出シタル書面ノ筆跡ニ照シ甲第三四號及ヒ兩通ノ書翰ハ被告ヨリ原告ヘ差入レタルモノト斷定ス」トアレト上告人ニ於テハ未ダ曾テ如此書面ヲ被上告人ヘ差入タルノ覺ナシ然ルチ其筆跡ノ似寄リタルトテ直ニ真正証ト斷定セラレシハ不服ニ堪ヘサル處ナリ且夫レ一步ヲ退テ之ヲ論センニ甲第三號証ニ一金拾八圓四十二錢八厘四毛七糸トアルハ被上告人カ自ラ所有セリト云フ五町二反歩ノ割合高ナルモ同號ノ朱書及ヒ甲第四號証ノ一金二拾四圓九錢九厘トアルハ果シテ何ソヤ朱書中ニ六町八反ニ相増トアレト何ヲ以テ其地所カ六町八反ニハ相増シタルヤ架空ノ妄談ナリ然ラハ則其所有セサル六町八反歩ノ年賦金ヲ何カ爲メニ返納セシヤ之レ其甲第三四號証ハ真正証ト觀ルニ由ナキ所以ナランヤ又兩通ノ書翰ハ德米延期ノ請願ニ止ルモノナリ若シ該判旨ノ如ク被上告人カ所有地ナラハ上告人カ自ラ負擔シテ該書面ノ如キ請願ヲ爲ス可キ道理ハ之レナキ處ナルヲ以テ之ヲ真正トスルニ於テハ却テ被上告人カ所有ニ非サルヲ發見スルニ足ルモノナリ其斷定ノ不當ナル豈

謂フニ堪ヘンヤ
右ノ次第ナルヲ以テ終審裁判ハ破毀セラレシテ請願ス

答弁ノ旨趣

上告者ハ原上等級裁判所カ上告者ニ於テ甲第一號証ノ地代錢ヲ借受ケ自ラ論地ヲ買得セシ
モノナリトスルモ該証ニハ其地代錢ヲ上告者カ借受ケタル明文ナキニ付其申分不相立ト
セラレシト不當トシ抑モ証書ナル者ハ契約ヲ載セルノ器ニシテ云々宜シク其事實ニ就テ
解釋ヲ施サスンハアル可カラスト論スレモ是レ未ダ法理ニ精ナラサルノ失言ト云フヘシ
何ントナレハ凡ソ証書ナルモノハ契約ヲ載スルノ器タルニ過キスト雖モ其約旨ヲ解スル
ニハ亦必ス先ツ其所記ニ據ルヘキト是レ解釋法ノ元則ニシテ未タ其明文ノ如何ヲ問ハス
直チニ事實ヲ附會シ臆測ノ說ヲナスヘシトノ道理ナケレハナリ蓋シ本訴甲第一號証ニ於
テハ現ニ地底錢云々御出方分トアリ又芝口尻新地ノ代錢儘ニ受取ト記載シアリテ被上告
者カ新開加入ノ出金タルヲ瞭然タリ然レハ何ノ用アリテ故ラニ前後ノ事實ヲ附會シ其証
文ヲ強解セシヤ實ニ無用ノ事ト云フヘシ然レモ之レノ事實ニ徵スルモ該裁判ハ決シテ其
當チ失スルモノニアラス何ントナレハ抑々被上告者ハ當時熊本藩ノ家老役ニシテ自ラ該
新開ニ從事スルヲ能ハサルヨリ上告者ニ托シテ之ヲ管理セシメタル事（此事甲第三號第
二十八號乃至三十一號）ナレハ甲第二號及ヒ乙第三號等當時該事ニ關スル書類ニ於テ上
告者ノ名前ヲ記載シタルハ固ヨリ事理當然ノコトナレハナリ若シ上告者カ自ラ該新開ニ加
入セシモノナラハ甲第一號証ニ其理由ヲ記載スヘキ筈ナル而已ナラス何ノ理由アリテ甲

第三四號以下諸証ニ記載スル如ク官廳ニ對スル拜借年分金ハ勿論地租改正ノ入費ニ至ル
迄悉ク之ヲ被上告者ニ弁納セシメタルヤ又何ソ壬申ノ年ニ至リ始メテ德米ヲ納メ爾後歲
ノ豐凶ニ從ヒ之レカ納額ヲ増減シタルヤ苟モ被上告者カ真正ノ所有主タルニ非サルヨリ
ハ決シテ是等ノ事由アラサルヘシ然ラハ則チ乙號証ニ或ハ上告者ノ名前ヲ記シ或ハ其賦
課金等ヲ上納セルカ如ク記載シアルモ其實虛名ノ取次人ニ過キヌシテ毫モ甲第一號証ノ
明文ニ背馳スルモノト云フヘカヲサルナリ又上告者ハ甲第一號証ノ六十五貫目ハ明治二
年ノ破壤ニ依テ被上告者カ損失ニ歸スヘキニ却テ該証ニ記載セシチ見レハ被上告者カ加
入ニ非サルヲ判然タリト論スレモ抑々被上告者ハ初メヨリ右ノ出費ヲ出シ居ル者ナレハ
仮令藩主ニ於テ其築營 廢シタレハ逆被上告者等カ加入ノ出金迄悉ク無効ニ屬スヘキ理
由アル可カラス苟モ被上告者等ニ於テ引續キ出金セシ上ニ成業ノ日ニ至リ其出金丈ケノ
地ヲ得ルハ固ヨリ至當ノ事ナレハナリ之レニ反シテ若シ被上告者ハ加入セシ者ニ非スト
セハ何ノ目的アリテ當時斯ル大金ヲ出ダサンヤ又果シテ上告者ニ貸與シタルモノトセハ
仮令後日出金セサレハ逆何ソ被上告者ノ損耗ニ飯スルト云フノ道理アラシク然ラハ則チ
是又決シテ該証ノ明文ニ抵觸スルモノト云フ可ラサルナリ
以上論辨ノ次第ナレハ甲 一號証ノ金圓ハ上告者カ借受ケニ非サルヲ其前後ノ事迹ニ照
シテ益々明確也ト云フヘシ然リト雖モ是レ既ニ該証ノ所記ニ就テ瞭然タレハ原裁判所カ
是ニ由リテ直チニ其借金ニ非サルヲ斷定シタリト決シテ不當ト云フヘカヲサルナ
リ況ンヤ從來ノ事實ニ於ケルモ亦其被上告者カ加入金タルヲ右ノ如ク判然タルニ於テ

又上告者ハ原裁判第二條ノ判定ヲ不當トシ元來被上告人カ自己ノ所有ナルヲ以テ該地券ヲ受取りタリト云フコソ口頭ノ陳述ニ止リ寸証ノ視ルヘキナク而シテ原上告人カ之レヲ抵當ニ差入レタルモノト云フハ証左ナキニアラスト論辨セリ然レモ上告者ハ何ノ証據アリテ斯ル無稽ノ陳述ヲナスヤ其引援スル所ノ乙第十二號証ハ單ニ「右二枚正ニ受取候也」トアル而已ナレハ眞シヤ真正ナリトスルモ毫モ本訴ノ地券狀カ甲第一號金圓ノ抵當ナリト記載シアルニ非ス又被上告者カ植原甘雨名前ノ券狀ヲ所持スルモ此レ本訴新開地ノ内ニシテ共ニ上告者ヨリ受取りシモノナレハ（被上告者カ之ヲ併セテ本訴ニ及ハ）上告者ハ更ニ其申述ヲ確實ニスル証憑ノ端緒ヲモ有セサルモノナリ之レニ反シ原裁判所カ該券狀ハ原告（被上告者）ノ所有地ナルヲ以テ引渡シタルモノナリト認定セラレタルハ決シテ憑據ナキニ非サルナリ即チ前文ニ論明シタル如ク被上告者ニ於テ甲第一號証ノ如ク加入金ヲ辨出シ甲第二號証ヲ受取り甲第三號以下ノ數証ノ如ク拜借年賦金ヲ返納シ地租改正ノ入費ヲ辨出シタルハ勿論該地開發ノ後ニ及ンテ始メテ之レカ德米ヲ徵集シ且歲ノ豊凶ニ從ヒ其額ヲ増減シタルカ如キハ皆被上告人カ論地ヲ所有スルノ確証ニシテ上告者カ其地券狀ヲ引渡シタルノ情况ヲ見ルニ足ルモノナリ然ラハ則チ原上等裁判所カ前記ノ判定ニ及ハレシハ決シテ不當ト云フヲ得可ラサルナリ

又上告者ハ原裁判所カ甲第三四號証并ニ廿九三十號ノ書翰ハ他ノ上告者カ眞筆ニ照シテ被上告者ニ差入レタルモノト斷定シタルヲ不當トシ如此書面ヲ被上告人ニ差入レタルノ

覺ヘナシト辨解スレモ其筆勢風骨ニ於テ聊カ差異ナケレハ原裁判所カ右ノ判定ニ及ハレシハ實ニ穩安正確ノ裁判也トス又上告者ハ甲第三號証ノ朱書ニ六町八反ニ相増ストアルヲ以テ架空ノ妄談ナリト攻撃スレモ是レ甲第二十八號証第二項ニ記載スル如ク曾テ上告人ニ貸置キタル金圓返納出來サル節上告人ニ於テ一町六反歩ノ地所ヲ差出スヘシトノ情願ニヨリ從來被上告者カ築立テタル五町二反ト合セテ記載セシモノナレハ決シテ怪シムヘキモノニ非サルナリ（該金圓ハ一旦如此上告者ノ意ニ任セ田地ニテ引取ルノ約チナシ依テ不得止貸金ノ名義ヲ以テ本件）然レハ何ソ之ヲ以テ該証ヲ不眞正ナリトスルノ道理ト同時ニ熊本裁判所ヘ出訴セリ

又上告者ハ甲第二十九號以下ノ書翰ヲ以テ德米延期ノ請願ニ止マルモノトスレモ其文中拜借年賦金并ニ地租改正費等ヲ德米中ヨリ立用云々ト記載シアルヲ見レハ此レ則チ被上告者カ論地所有ノ確証ニシテ決シテ單ニ德米延期ノ願書ト目ス可カラサルナリ況ンヤ仮リニ單一德米ニ關スル文書ナリトスルモ貸借金ニ對シ德米ノ延期ヲ乞フ可キ理由ナキニ於テテヤ又上告者ハ若シ論地カ被上告人ノ所有ナラハ上告人ニ於テ該書面ノ如キ請願ヲナスヘキ道理ナシトスレモ是レ實ニ不當ノ極ト云フ可キ也何ソトナレハ其年賦金并ニ地租改正費等ヲ被上告者ノ德米ヨリ立用センコトヲ要シ又論地ノ近狀ヲ報告シテ被上告者ニ要慮セヨト望ミタルカ如キハ此レ悉ク被上告者カ所有主タルノ確証ナレハナリ然ラハ則何ソ其眞正ナルニ於テハ却テ被上告人カ所有ニ非サルコトヲ發見スルニ足ルモノト謂ハンヤ由之觀之レハ本項モ亦不當ノ上告ト謂ハサルヲ得サルナリ

原上等裁判所ノ裁判ノ至當ナル理由ハ上文已ニ詳論セリ然レモ尙ホ一歩ヲ進メテ之ヲ論
セシニ抑々上告者カ本訴ニ於テ原判文ヲ攻撃スルヤ要スルニ事實ノ認定其當ヲ得スト云
フニ在リ然レハ是レ即チ原裁判所ノ職權ニ關スルモノニシテ其果シテ如何ヲ問ハズ法律
上上告スルヲ得可ラサルモノナリ然ラハ則チ本訴ハ獨リ不當ナル而已ナラス又不法ノ上
告ト云フヘシ

右ノ次第ナルコト付長崎上等裁判所ノ裁判ハ斷シテ破毀ス可ラサルモノト確信セシハ本件
ノ上告ハ速ニ擯斥セラレシテ謹テ請願ス

退申

抑々上告ノ主旨タルヤ之ヲ要スルニ地引帳地券証并ニ當時公ニ對スル一ニノ書面ニ上告
人ノ名前記載アルト甲第一號証中ニ六十五貫目ト記載アルトナリ以テ被上告人ハ債主ニシ
テ新開加入人ニ非スト云フニ在リ依テ今逐次ニ其不當ナル所以ヲ辨折セシメ抑々地引帳
ノ如キハ地券証ノ因基スル所ナレハ共ニ本訴爭論ノ在ル所ニシテ固ヨリ本訴ノ証トスル
ニ足ラサルモノナリ故ニ其果シテ適當ナルヤ否ヲ定ムルニハ必ス其他ノ証憑ニ據ラサル
可ラス然リ而シテ其前後ノ事迹ヲ顧ルニ甲第二號証并ニ其他ノ文章ニ於テハ二上告人ノ
名前ニ記載セシモノナキニ非レモ甲第一號証ニ於テ被上告人カ新開地代錢ヲ出シ而シテ
甲第三號四號等ノ如ク該新開地ニ對スル拜借金ヲ返納シ甲第廿九三十號証ノ如ク地租改
正ノ入費ヲ辨納シタルヲ觀レハ上告人ハ單ニ被上告人ノ取次代理人タルニ過キサルヤ昭
々手トシテ明ラカナリ若夫レ上告人カ該地ノ所有主ニシテ甲第一號ノ金圓ハ被上告人ヨ

リ借受ケタルモノトセハ斯ノ如ク被上告人ニ向テ新開加入者ニ貸渡サレタル年賦金ヲ返
納セシメ又所有主ノミ擔任スヘキ地租改正ノ入費ヲ弁納セシムルノ理由ナク又乙第二號
証ニ於テ自ラ地主總代ト稱スヘキ道理モナカルヘシ加之上告者ニ於テ甲第一號証ノ加入
金ヲ出タスヤ甲第二號証ノ後証ヲ受取リ又地租改正ノ後ニ及ンテ該地ノ地券ヲ受取リタ
ルカ如キモ亦上告者ハ單ニ被上告人カ取次代理人タルヲ証スルニ足ルモノナリ然レハ若
シ此等ノ事情ヲ知ラサル他人ニシテ地券面等カ上告人ノ名前ナルヲ信シテ契約セシモノ
ナレハ其上告者カ越權ノ所爲ナルニ係ラス該他人ニ對シテハ被上告人ノレカ責ニ任セサ
ル可ラサルヲモアルヘケレモ被上告人ト上告人トノ間ニ於テハ決シテ係ル差支アルヘキ
道理ナシ此レ甚々明白ノ事理ナリトス然レハ則チ上告者カ其公ニ對スル一ニノ書面ニ於
テ自己ノ名ヲ記載セリトテ甲第一號ノ金圓ヲ借用金ナリト強解シ又論地ヲ自己ノ所有地
ナリト主張スルハ甚シキ不當ト云フヘキナリ

上告者カ若シ被上告者ト新開加入人ナレハ甲第一號証ニ六十五貫目ヲ記載スヘキ道理ナ
シトスルハ一理アルカ如クナレモ退テ詳カニ當時ノ事迹ヲ審究スレハ此レ亦決シテ怪シ
ムニ足ラサルナリ何ントナレハ抑々舊宇土藩(熊本)カ該新開ノ土功ヲ起シ人民ニ加入
ヲ許サルハ元ト獎勵ノ意ニ出テタルモノナレハ一箇人間相互ノ契約トハ自ラ其趣ヲ異
ニスルモノニシテ一旦加入出金セシ者ハ其間多少ノ破壊アリタリ連之ヲ以テ直チニ人民
ノ損失ニ飯スルコトナク成功ノ上ハ應分ノ地ヲ賜ルコト勿論ニシテ此レ蓋シ官府ノ恩惠ニ出
テタルモノナレハナリ蓋シ當時該藩ニ於テハ未タ成功ニ至ラサル前熊本藩ニ引繼カシム

ルトナリタルモ此趣旨ニ至リテハ決シテ變更セシニ非ス而シテ其後小島万平治カ該事ヲ繼續シタルヤ亦熊本藩廳カ中途ニ廢業セントスルヲ以テ折角ノ土功モ成業ニ至ラス就テハ從來官民ノ出金勞力全ク水泡ニ皈スルヲ嘆キ官廳從來ノ特旨ヲ奉シ自費ヲ抛テ尙ホ金圓ヲモ募リ卒業セシヲ期シタルモノナレハ被上告人カ從來消費セシ處ノ加入金ノ無功トナルヘキ道理ナキハ万々ナリ況ンヤ甲第一號証ノ當時ハ小島万平治カ該業繼續ノ初メニシテ新開加入人ノ募集中心ナレハ被上告人ノ如キ從來加入シ來リタル者カ引繼キ出金スルニ於テハ從來ノ出金分ヲモ併セテ成功ノ日ニ至リ分地ナスヘシトノ契約ヲナシタル如キハ人ノ情理上ニ於テ毫モ怪シムニ足ラサルヲナリ反之若シ六十五貫目ヲ記載セシヲ以テ該証ノ金圓ハ上告者ニ貸渡シタルモノトセハ此レ當ニ該証ノ明文ニ抵觸スル而已ナラス甲第三號甲第四號等ノ年賦金ノ返納并ニ甲第二十九三十號ノ地租改正費等ノ徵集ニ對シテハ如何ナル辨解ヲナス可キ乎蓋シ上告者ハ該數號ノ文書ハ其自筆ニ非ストノ遁辭ヲ設ケテ之レハ責メヲ免カレントスレモ其眞筆ナルヲハ動かスニ由ナキモノナレハ上告者ハ此点ニ對シテ毫モ辨解ニ辭ナキモノナリ然ラハ則チ上告者カ本項ノ論旨モ亦其當ヲ失スルモノト云フヘシ此他上告者カ原裁判ヲ不當トスルノ旨趣ハ枝葉ノ論ナルヲ以テ答辨書ニ辨駁スル處ヲ以テ十分ナリトシ茲ニ贅言セス

附言抑々筆跡ヲ審定スルハ原裁判所ノ職權ナレハ今本院ニ向テ其當否ヲ論争スヘキ事柄ニハ之レナケレモ上告者カ純然タル眞筆ヲ以テ似寄リタルモノ抔ト曖昧ナル語ヲ發シ以テ法官閣下ノ明ヲ欺カントスルハ實ニ可惡ノ極ニ有之且又被上告者カ上告者ニ向

テ德米ノ請取証ヲ渡スヤ其中ニ年賦金ノ返納并ニ地租改正ノ入費等ノ差引ヲモ詳細ニ記載シ置キタルモ今乙號証乙第十五六號ニハ其己レニ不利ナルヲ以テ擅ニ之ヲ刪除シ單ニ德米受取云々トアル處ノミヲ記載シ有之加之其不當ナル申述ヲ眞實ラシクセシカ爲メニ乙第十一號証ノ如キ痕迹モナキ僞作ノ証ヲ呈供シタルカ如キハ此レ實ニ不當ノ太甚シキモノニシテ深シ法官閣下ノ明察ヲ仰ク所ナリ

辨明

本訴ノ起訴者タル被上告者カ申述スル所ニ據レハ舊宇土藩ニ於テ本訴芝口尻新地築造ノ土功ヲ起シタルヤ被上告者ハ此土功ニ加入シ慶應四年九月中伊藤道齊ナルモノノ取次ヲ以テ資本金六拾五貫目差入レ其後明治二年中該地破壊シ滄海ニ復シタルヨリ宇土藩ハ之レヲ本藩ナル熊本藩ニ差出シ同藩ハ之レヲ小島万平治ナルモノノ自費再築ノ願ヲ許可シタルヨリ被上告者ハ又此土功ニ加入シ明治四年四月中上告者ノ取次ヲ以テ資本金二百六拾貫目差入レ其際被上告第一號証書ヲ上告者ヨリ受領シ又被上告第二號ノ証文及ヒ第五號乃至第廿二號ノ地券証ヲ受取リ上告第九號第十五六號証ノ如ク該地ノ德米ヲ領収シ被上告第三四號証及ヒ第二十九號第三十號証ノ通り該地ニ支消シタル拜借金及ヒ地租改正入費等迄ヲモ被上告者ヨリ辨納ナシタルハ論地ハ被上告者ノ所有也ト云フニ在リ果シテ被上告者ハ上告者ヲシテ己レノ取次ヲ爲サシメタル迄ナレハ其前年ニ於テ別人ナル伊藤道齊ヘ相渡シタル六拾五貫目ヲ上告者ヘ相渡シタル二百六拾貫目ト一括ニ爲シ上告者ヨリ之ノカ受取証ヲ受領シタルハ何ソヤ又前キニ差出シタル六拾五貫目ハ舊宇土藩ノ

土功ニ加入シタルモノナレハ明治二年中該地破壊ノ滄海ニ復シタル共ニ消滅シ被上告者ノ損失ニ歸スヘキモノナルヘシ然ルヲ猶ホ明治四年ニ至リ上告者ヨリ之レカ受領書ヲ要シタルハ何ソヤ」又上告第九號及ヒ第十五六號証被上告者カ所謂德米ノ受取証ニ據ルニ何レモ其被上告者カ囊ニ差出シタル金員ノ高ヲ記入シアルハ何ソヤ若シモ論地ハ被上告者ノ所有ニシテ其受取ルヘキ德米ナレハ其金員ノ高ヲ記入スヘキ理由ノ生スルアルナシ」又被上告第二號ノ証文及ヒ第五號乃至第廿二號ノ地券証ハ被上告者ノ手裏ニ現在スルト雖モ該証ニハ何レモ上告者カ該地ノ所有者タル名義記載アリテ被上告者ハ仮ニ上告者ナシテ該地ノ管理ヲ爲サシメタルモノニモセヨ重要ナル地券狀ノ如キハ固ヨリ其本人タル被上告者ニ於テ己レノ名義ヲ以テ當時之レカ下附テ請願スヘキ筈ナルハ勿論若シモ誤テ其代理者タル上告者ノ名前ニ爲シタルモノナレハ直チニ之レカ書換テ要ムヘキ筋ナルニ其之レテ上告者ノ名義ニ爲シ數年ノ久シキ默過シ來リタルハ何ソヤ」又該地ニ支消セシ拜借金、并手床償米、地券印稅料估券調入費民費等ハ上告第三號乃至第八號証ノ如ク上告者ニ於テ之レヲ辨納ナシタルニアラスヤ」然レハ以上數箇ノ点ハ本訴上入クヘカラサルノ要点ニシテ之レヲ審明セカレハ論地ノ所有權ハ果シテ原被告何レヘアルヤ之レヲ判定スルニ由ナカルヘシ然ルチ長崎上等裁判所ニ於テハ右等ノ点ニ毫モ審究ヲ與ヘスシテ（本訴拾八葉ノ地券狀ハ速ニ原告^{被上}告^{被告}）名前ニ書換ノ手續ヲ尽スヘシ」ト申渡シタルハ尽スヘキノ審理ヲ尽サ、ル不法ノ裁判ナリトス

判決

右辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年五月十四日長崎上等裁判所ニ於テ本訴地券証書換一件ニ對シ申渡シタル終審裁判ヲ破毀シ之レヲ東京控訴裁判所ヘ移スニ據リ同裁判所ノ裁判ヲ受クヘキモノナリ

但シ上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

第百十五號

○判文（明治十四年十月廿一日上告）
（明治十五年四月廿四日申渡）

- 群馬縣上野國碓氷郡岩井村
- 平民加部道五郎外三名代人
- 東京府四谷區阪町廿二番地
- 寄留靜岡縣士族
- 小 菅 忠 一 郎
- 群馬縣上野國碓氷郡岩井村
- 平民

被上告人

清 水 五 郎 平

宅地及畑取戻一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

一 被上告人清水五郎平二男勝五郎ノ加部彦太郎絶家跡相續セシ証據ハ上告第五號証乃至第九號証ニ皆加部勝五郎ト記載アルヲ以テ明カナルニ原裁判所ハ之ヲ採用セラレヌシテ唯被上告第二號証ニ依リ裁判セラレタルハ不法ナリトノ事

二 本訴ノ地所ヲ被上告人ニ保管セシメタル証據ハ上告第三號証ノ如ク明治四年マテ加部彦太郎ノ名義ヲ以テ其地ノ貢租及村費ヲ納メシヲ以テ明カナリ而シテ該地ノ地券ヲ被上人カ領受セシハ上告第四號証ノ如ク被上告人ノ專横ニ因テナリ然ルニ原裁判所ハ之ヲ預ケタル証ノ見ルヘキナシトシ被上告人ニ於テ質流地トシテ得タルノ証ナク且專横ヲ以テ得タル地券ナルニモ拘ハラス地券ヲ領受シ居ルト云フヲ以テ上告人ノ要求ヲ斥ケラシタルハ不當ノ裁判ナリトノ事
依テ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

第一條

上告要領第一項ノ趣旨ヲ審按スルニ上告第五號証乃至第九號証ニ加部勝五郎ト記載アルモ未タ之ヲ以テ加部彦太郎ノ跡ヲ相續セシモノト信認スルヲ得ヌ何ントナレハ上告者ハ原裁判所ニ於テ勝五郎ハ明治七年中加部ヲ相續シ明治十一年區畫改正ノ際ニ至リ家屋ノ標札ヲ清水勝五郎ト改メ加部姓ヲ廢シタリ是レ本訴ヲ起セシ原因ナリト陳述スルニ其第五號六號証ハ菩提寺教會等ノ連名帳ニシテ明治十二年十月ノ記録ニ係レハ既ニ加部氏ヲ廢シタリト云フ以後ニ屬スルモノナリ其第七號八號九號証ハ頼母子講帳ノ類ニシテ被上告ノ自筆ニモアラス又押印モナキモノニシテ被上告ノ看認メタル者ニアラス而シテ被上告第一號二號証即戸籍帳ニ依レハ勝次郎（被上告者ニ於テハ被上告ノ二男ヲ勝次郎ト稱シ文ニ勝次郎ト記載シアリテ上告者ハ之レニ異議ヲ言ハサルニ依リ本案ハ勝次郎ト記載ス）ハ生年以來曾テ他姓ヲ冒シタルヲ

ナク明治八年二月廿五日別居分籍シ依然清水勝次郎ト稱シ加部氏ヲ相續セサルヲ判明ナレハナリ故ニ原裁判所ニ於テ他ニ勝次郎カ加部家ヲ相續シタル明証ナキ以上ハ始終清水姓ヲ冒セシモノト見做サハルヲ得スト判定シタルハ不法ノ裁判ニアラス

第二條

上告要領第二項ノ趣旨ヲ審按スルニ上告第三號証ノ如ク村役場皆濟帳ニ明治四年マテ加部彦太郎ノ名義ニテ貢租及ヒ村費ヲ納メタリト云フノミヲ以テ被上告ニ對シ本訴ノ地所ヲ保管セシメタルモノト眞認スルヲ得ヌ何ントナレハ原裁判所ニ於テ被上告者ノ論辨セシ如ク現ニ上告第三號証第四筆ノ地ハ同村清水音五郎ノ所有ニ係リ其第五筆ノ地ハ上告者ノ一人タル加部仲次郎ノ所有ニ係ルカ如キノ實蹟アレハナリ左スレハ被上告者ニ於テ其他所ヲ得タル原由及ヒ地券ヲ受ケタル手續ノ如何ヲ論セス上告者ニ於テ之ヲ取戻スヘキ權利アルヲナシ是ヲ以テ原裁判所カ現ニ被告ハ其地券ヲ領受シ居ル上ハ原告カ一ノ証左モ舉ケスシテ預ケ地也トノ申分ハ相立サル者トスト言渡シタルハ相當ノ裁判ナリトス

前條ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ニ於テ言渡シタル終審ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

第一百十六號

○入會山所有爭論一件東京上等裁判所
明治十四年十月廿一日上告
裁判不法上告ノ判文
明治十五年四月廿四日申渡

長野縣信濃國東筑摩郡坂北村
内別所耕地平民増田藤吉外八
十四名總代兼

上告人

市之瀬 頼二郎

東京府日本橋區堀江町三丁目
六番地平民

右代言人

早川 清

長野縣信濃國東筑摩郡坂北村
内中村耕地平民

被上告人

高野 定一郎
外百十七名

上告ノ要領

原裁判所判文ニ〔乙第一號証ハ原告村私有地ノ外ニ公有地ニ屬スル箇所ヲ取調管轄廳へ
差出シタルモノニシテ右取調書中ニ論所字當澤澤大側澤兩所ノ山手米ヲ差出シ六ヶ村入
會等ヲ記載シ原告ノ肩書ニ地元ノ二字ヲ記入セシモノニテ是ヲ以テ論地ハ原告村ノミノ
所有地ナリト云ノ証據トナスニ足ラサルノミナラス却テ被告村ノ從來入會シアルコトヲ証
スルニ足ルヘシ〕ト裁判シ而シテ其說明ニ〔入會村ヲ列記シアルハ即チ被告村ノ入會シ
ルコトヲ明記セシモノニテ若シ原告村カ所有ノ地所チ被告村へ稼方ノミ差許シタルモノナ
レハ何ソ肩書ニ入會ト記入スルヲ須シヤ故ニ原告村ヨリ山手米ヲ官納シ及ヒ原告ノ肩書
ニ地元ト記入シアルノミニテハ未タ論所チ原告村一己ノ所有トナスニ足ラス〕云々トア
リ又上告乙第一號証ニ〔字生フ澤公有地五十町步嶮岨地元別所ト大書シ又字大側澤公有
地六十町步嶮岨地元別所村〕ト大書シ而シテ別所村ト記セシ其左傍ニ細字ヲ以テ〔入會刈
谷澤村中村青柳町村竹場村桑山村萩新田村〕ト記シタルハ上告乙第二十九號第三節ニ云
ヘル山手米ヲ受取山札ヲ渡テ同號第一二節ノ如ク入會チナサシムル者即チ乙第十一號第
二十八號指令ニ云ヘル稼方入會者ヲ傍書ニ記シタル者ニシテ而シテ之チ乙第二號乃至第十
號及乙第十三號乃至第二十四號等ニ參照スレハ山租ハ古來上告者ニ於テ上納シ來リ且其
山ニ被上告村ヲ入會セシムルモノ平等ノ權ヲ與ヘサリシ事實ノ著明ナルニ前掲ノ如キ裁判
ヲ與ヘラレシハ不當ナリ

原裁判所判文ニ〔乙第七號証ハ文政年中原告村ト被告村トノ間ニ詞訟起リ其末和談濟口
ニ相成タル濟口狀ニシテ該書中原告村申立ノ末文ニ「當村田方養等ニ甚難義至極一村難
行立御坐候間中村ヨリ請取來リ候山手米ノ儀以來請取申問敷候間中村ノ者入會御差留被
下置候様奉願候旨申立」トアルヲ觀レハ論所ハ原告村ノミノ持山ニ非サルコトハ自ラ瞭然
タリ若シ原告カ言フ如ク原告村ノミ持山ナリトセハ何ソ被告村ノ入會差留ノコトヲ請願ス
ルノ理アラシヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ地元村ト他村トノ間ニ於テ從來稼方慣行アルモ入會
ノ一段ニ至ツテハ孰レモ其權ヲ有シタルコト明ラカナリ〕トアリ上告者乙第七號証ハ文政
年中被上告村カ上告村ノ權ヲ侵スコト數度ナルチ憂慮シ將來被上告村ノ入會稼ヲ留メント

スレモ如何セシ民力ノ及ハサルヨリ之ヲ當時ノ管轄廳ニ訴ヘタルモノナリ然ルヲ不思議
 ヤ原裁判所ハ上告村カ之レヲ管轄廳ニ請願セシヲ以テ前顯ノ如ク「若シ原告村ノ言フ如
 ク云々被告村入會差留ノコトヲ請願スルノ理アラシヤ」ト判セラレタリ是レ請願云々ノ見
 解ヲ誤レルノミナラス却テ「中村ヨリ從來受取來リ候山手米ノ儀以來受取中間敷候間中
 村ノ者入會御差留」云々トアル語中ニテ判然地元村カ他村ヨリ山手米ヲ領収シ稼方入會
 ナ爲サシメタルコトヲ知得スヘク又其事跡ノ乙第二十九號証等ニ適切セルコトヲ見出シ得ヘ
 キニ之ヲ見出スコトヲセス且上告者カ痛論セシ乙第七號証ニ「中村當時ハ家數百二十四軒
 有之右總村入會ノ義ハ一軒鎌主一人トイタシ」云々トアル乃チ上告村カ被上告村ノ妄リ
 ニ多人數入來ルコトヲ拒キ其稼人員ヲ制限シタルカ如キ上告村ノ權利ヲ有スルヲ見ルヘキ
 点ニ就テハ審理ヲ盡スコトナク之ヲ判セラレテ曰ク「地元村ト他村トノ間ニ於
 テ從來稼方慣行アルモ入會ノ一段ニ至ツテハ孰レモ其權ヲ有ス」ト是則入會トサヘ
 云ヘハ皆同等ノ權ヲ有スルモノト一槩ニ見做シ上告乙第十一號乙第二十八號乙第二
 十九號等ノ如ク共有入會ト稼方入會トノ別アルコトヲ判定セラレサルハ審理不盡ノ裁判ナ
 リ

原裁判所判文ニ「乙第十六號乙第二十四號証等ハ文化年度ニ成立何レモ稼方ノ制限ヲ相
 約シタルモノニテ是亦原告村一己ノ持山ヲ被告ヘ稼方ノミ差許シタリトノ證據ニハ無之
 却テ乙第二十四號濟口狀中原告村申立ノ末ニ「乍恐御上様御慈悲ヲ以テ先例ノ通り被仰
 付被下置候ハ、難有仕合ニ奉存候」云々トアリ而シテ其趣意書第一項ヨリ第五項ニ至ル毎

頃ハ入會期節或ハ稼方ノ順序等ヲ相約シ其第七項ニ「尤以來入會地ノ内草木共伐刈置候
 儀ハ双方決シテ致間敷事」トアルヲ觀レハ其入會權ハ互ニ之ヲ有シタル事明カナリトア
 リ上告乙第十六號証ハ文化十三年十月附ノ爲取替約定証ニシテ此証ノ因テ成立ツ所ノ乙
 第二十四號濟口証文中ニ「山稼仕來候場所」(無故障山稼仕來候處)其他山稼ト記スル者多
 クアリ皆被上告村ノ自ラ申立ル所ニシテ被上告村ハ乙第十一號乙第二十八號乙第二十九
 號等ニ云ヘル稼方入會者タルコトヲ看ルニ足リ又其末文約定第一項ニ「別所山之内菖蒲澤
 大川澤ニケ所ハ云々山口明候ヨリ植付迄一圓入會」其第二項ニ「五月節前後見斗地元別所
 村ヨリ觸狀差出申」其第三項ニ「田方植付後夏山ノ儀ハ別所村ハ格別中村ハ入會申間敷
 事」ト明記アリ而シテ仍乙第十六號証ニハ「地元別所村ハ秋草重モ引取不申候テハ差支
 有之候ニ付中村ニテハ秋艸引取リノ儀ハ遠慮ヲ加ヘ可申等右之通双方得心」ト明記アリ
 テ何レモ原裁判所ニ於テ上告者カ充分論辨シタル如ク被上告村ハ全ク稼方入會者ナルコ
 際然タリ然ルニ原裁判所ハ前掲ノ如ク「何レモ稼方ノ制限ヲ相約シタル迄ニシテ原告持
 山ノ證據ニハ無之」ト判セラレ而シテ又乙第二十四號証ニ被我同等ノ權ヲ有スルニ非サ
 ルコトヲ見ル可キ一二三項ノ如キニ至テハ「入會期節或ハ稼方順序ヲ相約シ」トノミ言放チ
 却テ其第七項ニ「入會地ノ内草木共伐刈置候儀ハ双方共決テ致間敷」トアル語ヲ以テ入會
 權ハ互ニ有スト殊ニ曖昧タル判語ヲ下サレ而シテ其本訴ニ最大緊要ナル稼方入會ト共
 有入會トノ別ヲ判定セラレサルハ原被ノ争点ヲ不問ニ措カレタル不法ノ裁判ナリト思考
 ス

原裁判所ハ其判文ニ「明治九年中管轄廳へ差出タル改正地引帳甲第十一號ニ論所ヲ記載シ其下ニ最初ハ戸長青柳八郎ト記入シアリシモ其後持主別所ト記載シ被告村総代ノ調印アリ」トノミ文ヲ行リ其故如何ヲ判セラレサルハ抑何事ソ上告者ハ原裁判所ニ於テ其甲第十一號証ニ就テハ明治十四年六月被扣訴者カ証據物説明ノ非ナルヲ駁スト題セル書面ヲ以テ明々瞭々タル辨明ヲ爲シ置ケリ實ニ無稽ノ裁判ト云フヘシ

原裁判所判文ニ「明治十年中管轄廳へ差出シタル山野慣行成跡調甲第七號ニ「從前々山手米ノ名目ヲ以テ三石二斗七升五合ノ内地元村ニ於テ入會村々ヨリ取集メ上納致來リ尤入會公然タル入會コシテ地元村ニ於テ差許シ入會爲致候ハ無之トアルモ該書面ハ乙第二十五號証ニ於テ其誤謬ニ成立タルヲ証スル旨陳供スレモ是亦原告カ該書面ノ成立ヲ弁解スル迄ニ止リ原告ノ訴旨ヲ達ス可キ具トハナラサルモノトス」トアリ被上告者ノ証據書類數十號アリト雖モ甲第七號慣行成跡調ノ外本訴ニ要無キモノナリ而シテ其甲第七號証ノ誤謬ニ成立シコトハ該証初項ノ文詞ト第二項ニ云フ第五號寫ノ文詞ト撞着スルヲ以テ明ラカナル而已ナラス論山ハ古來共有ニ非サリシコトハ上告乙第一號以下一モ之ヲ見サル無ケンハ特リ乙第二十五號証ノミヲ以テ証スルニ非ス右ノ數証ヲ參酌シテ之ヲ正スモノナリ被上告者ハ古來論山ニ就テ權義ヲ行フタル証左一モ無之又其誤謬ニ非ストスル反對証據ノアラサル限りハ甲第七號ヲ以テ誤謬ニ成立シモノトセサルヲ得ス今仮リコト一步ヲ讓リ誤謬ニ非サルモノトスルモ明治十一年四月十七日調製シタル山林野地引帳即チ乙第廿號証ハ是坂北村七ヶ耕地總代及ヒ戸長等ノ連印アル調書ニシテ乃チ論山ハ持主別所タル

コト明記シ而シテ甲第七號証成立ハ明治十年十一月ナルヲ以テ視レハ甲第七號証ハ前コシテ力弱ク乙第二十號証ハ後ニシテ力強キハ一般法理ノ許ス處豈能ク枉クルヲ得ヘケンヤ况ヤ甲第七號証ハ瑕瑾アリ乙第二十號証ハ完全無疵ノモノニシテ猶乙第一號以下數証ノ輔翼アルニ於テチヤ斯ノ如キ理アルヲ痛論セシニ原裁判所ハ其乙第二十號又ハ乙第二十二號等ニ就テノ論辨ニハ裁判ヲ與ヘラレヌ甲第七號証ニ就テノミ前掲ノ如キ裁判ヲ與ヘラレシ而已ナラス最モ緊要トナス乙第廿號乙第二十二號乙第二十六號乙第二十七號乙第十一號等ニ就テハ一語ノ判決ヲ下タサレヌ是上告者カ原裁判ヲ目シテ訟ヲ理スルノ定規ニ背ク不法ノ裁判ト爲ス處ナリ

右陳述スル次第ナルヲ以テ原裁判ヲ破毀セラレ公明至當ノ裁判ヲナシ下サレンコトヲ謹テ請願ス

辨明

抑モ上告乙第一號証ニ據レハ上告村ノ肩書ニ地元ト記載シ被上告村ノ肩書ニ入會トアルモ其入會ハ只ニ稼方入會迄ナルヤ之レカ明記ノアルニアラス殊ニ其地元ナル文詞ハ所有者ト云フニアラスシテ其地所カ上告村ノ地内ニアルトノ意味ニ止マレハ其地元又ハ入會トアル文詞ノミニテ上告村ハ論山ノ所有者ナリ被上告村ハ稼方ノミノ入會者ナリト証スルヲ得ス又上告乙第二號乃至第六號証ハ論山ニ對スル山稅ハ上告村限リ上納ナシタルカ如シト雖モ被上告村モ亦其甲第三四五號証ノ通り該山稅ヲ上納ナシタルトノコトナレハ其上告村カ山稅ヲ上納ナシタル廉ヲ以テ論山ノ所有者ナリト云フヲ得ス又上告乙第七號及

ヒ第二十四號証ハ文政又ハ文化年度ニ於テ論山入會ノ事ニ付上告村ト被上告村トノ間ニ
 詞訟起リ其末内濟和談セシ濟口証ナルモ右ハ當時原被告村カ互ヒニ論山稼方ノ制限ヲ規
 定セシ迄ノモノナリ又上告乙第十六號証ニ於ル文化年度上告村ト被上告村トノ間ニ爲取
 替タル証書ナルモ是亦論山稼方ノ制限ヲ規定シタル迄ニテ右三通ノ証書中何レモ上告村
 ハ地主ナリ被上告村ハ稼方ノミノ入會者ナリト認メ得ヘキ文意ノアルヲ觀テ却テ原被告
 村カ論山ニ對シ同等ノ權利ヲ有シ來リタルコトハ右乙第二十四號証中「尤以來入會地ノ内
 草木共伐刈置候儀ハ双方決テ致間敷事」トアリ若シモ上告村カ論山ノ所有者ナレハ双方
 決テ致間敷等ノ内濟書ヲ差出スヘキ道理ナキノミナラズ被上告甲第七號証即チ山野慣行
 成蹟調書ニハ論山ハ原被告其他各村ノ入會地ト記シ其文中「尤入會公然タル入會ニシテ
 地元村ニ於テ差許入會爲致候ハ無之因テ入會スルニ當テハ同等ノ權利ヲ有シ引取物ニ於
 テモ甲乙ノ區別無之候」トアリテ原被告其他各村ノ惣代及ヒ戸長副戸長等連署ノ上之レ
 ナ長野縣ヘ届出タルヲ觀レハ論山ハ正シク原被告其他各村ノ共有權アル入會地ナリト認
 ムルニ余リアリ然ルニ上告者ハ其乙第二十五號証ヲ以テ被上告甲第七號証ハ當時誤謬ニ
 出タリト証スルモ該乙第二十五號証ハ本訴起成後上告村總代高野良平青柳町總代青柳吉
 十郎及ヒ戸長等ノ間ニ成立タル証ニシテ被上告村惣代ノ連署等アルニアラサレハ固ヨリ
 被上告村ヘ對シ其効ヲ有スヘキモノニアラス然レハ論山ハ被上告甲第七號証山野慣行成
 蹟調書ニ據リ原被告村共有權アル入會山也ト定メサルヘカラサル筋ナルヲ以テ東京上等
 裁判所ニ於テ「結局初審裁判ノ通り可相心得事」ト申渡シタルハ審理不尽又ハ無稽ナル不
 法ノ裁判ト云フヲ得ス

但シ上告要領中上告者カ最モ緊要ナリトスル乙第十一號第二十號第二十二號第二十六
 七號証ニ對シ原裁判所ハ一語ノ判決ヲモ與ヘサルハ聽斷ノ定規ニ乖ク旨申立レモ本文
 辨明ノ如ク要スルニ論山ハ被上告甲第七號証ニ據リ原被告村ノ共有權アル入會山ナリ
 ト認ムルニ余リアルヲ以テ別段右等ノ數証ニ對シ説明ヲ與ヘサルモ是等ノ事柄ヲ以テ
 聽斷ノ定規ニ乖ク裁判ナリト爲スヲ得サルナリ

判決

右辨明ノ筋合ナルニ付明治十四年八月二十二日東京上等裁判所ニ於テ本訴入會山所有爭論
 一件ニ對シ申渡シタル終決裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス
 第百十七號

○判文(明治十四年十一月十一日上告
 明治十五年四月廿四日申渡)

上告人

今井山次郎

外 壹 名

神奈川縣相模國大住郡羽根村
 人民總代兼同村平民
 東京府日本橋區濱町二丁目拾
 壹番地平民

右代言人

高梨哲四郎

一一五

神奈川縣相摸國大住郡箕毛村
總代兼同村平民

被告八

相原清七

外四名

東京府芝區南佐久間町二丁目
拾五番地平民

右代言人

田村 訥

秣場境界一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトスル上告ノ要領左ノ如シ

第一 原判文第一條ハ要スルニ原被告ノ隣村ナル東西田原村本訴爭論ノ結果ニ於テ毫モ利害ヲ有スル者ニ非サルヲ以テ右兩村ノ申立ハ採用ス可キモノナリトノ判定ニ外ナラサルナリ夫レ東西田原村ハ本訴ノ結果ニ於テ毫モ利害ヲシト雖モ人心ノ恒ナキ勿論ニソ愛憎偏頗ノ情ナキ能ハサル人ノ性ナリ故ニ口上ノ申立ヲ採用スルニハ証人ノ身分經歷ヲ審查シ或ハ他ノ一方ノ承認ヲ經ルカ若シハ文書ノ徵スヘキアリテ發言スルモノニ非ザレハ採用セサルモノナルニ原裁判所ニ於テ特リ東西田原村カ本訴爭論ノ結果ニ利害ヲ有スルコトナキノ一事項アルノミヲ以テ其申立ヲ採用セラレタルハ不法ナリトノ事

第二 同判文第二條ノ要旨ハ論所西山ハ文久年度ニ測量セシ反別貳千町歩ノ内ニ無之ヲ以テ上告村始メ四ヶ村共有地ノ外ナル旨平林九兵衛ニ於テ證明シ而テ其測量ノ際調製セシ圖面ヲ點檢スルニ論所西山ハ其圖面中ニ包羅セサルヲ見レハ右西山ハ上告村始メ四ヶ

村共有ノ秣山ニアラサル証ナリト而テ其二條ノ趣旨ニニツアリ其一ハ論所西山ハ上告村始メ四ヶ村共有地ノ外ナル旨平林九兵衛カ申立タルコト其二ハ右九兵衛ニ於テ測量ノ際調製セシト云フ圖面中ニ論所西山ハ描キアラサルコト是レナリ抑モ平林九兵衛ハ飯令ヒ慶應年度ニ丹澤連上山幾部ノ山地ヲ讓受ケタルモノナルモ論所ヲ隔ルル數里外ノ住民ナレハ論所カ丹澤山ノ一部ニシテ上告村始メ四ヶ村共有秣場ナルヤ又被上告村所屬ニシテ五ヶ村(箕毛村小箕毛村西田原村東田原村寺山村)入會ノ秣場ナルヤ知了スルノ謂レナシ然レハ其申立ハ別ニ證據ノアルニアラサレハ採用スヘキモノニアラス又其測量ノ際調製セシ圖面ハ粗繪圖ニシテ果シテ其際調製セシモノナリヤ之ヲ見ルヘキノ証ナク且又該圖ヲ見ルニ果シテ論所カ其圖中ニ描キアラサルヤ否ヤハ知ルニ由ナキノミナラス該圖ハ固ヨリ丹澤山全山ヲ描キタルモノニハアラサルナリ然ルモ原裁判所ハ何ニ因テ該粗繪圖ヲ測量ノ際調製セシモノト認メ加フルニ論所ハ其中ニ描キアラサリシコト認メラレタルヤ恐クハ法官一己ノ想像カ將タ偏頗ニ採用セラレタルカ之レ不法ノ裁判ナリトノ事

第三 同判文第三條ハ要スルニ乙第八號証及ヒ其附錄圖面ハ不正ニ出タルノ証ナク而テ其圖面ニハ論所西山ノ描キアラサルヲ以テ論所ハ上告村始メ四ヶ村共有地以外ナリト判定セラレタルコト外ナラズ然レ乙第八號証及ヒ其附錄圖ハ飯令ヒ丹澤連上山根付總代ノ調印アルニモセヨ是レ口取ノ粗繪圖ニシテ而カモ丹澤全山ヲ描キタルモノニアラサレハ果シテ該圖中論所西山ノ描キアルヤ否ヤハ漠然トシテ知ルコト得ヘカラス然ルヲ採用セラレタルハ不當ナリトノ事

第四 同判文第四條ノ要旨ハ論所ノ内字八丁ト稱スル地ニ於テ上告村民ハ秣ヲ芻取タルヲナク又論所四至ノ境界ハ被上告村民ノ持林或ハ新開畑等ニ沿テ境界判然難見認又其地形タル南ニ向ヒ上告村及ヒ菩提村ニ沿ヒタル秣山ハ北方ノ峯ヲ境トシ即チ上告村菩提村各村所屬ノ秣山ニシテ將タ東南ニ向ヒ東西田原村等ニ沿フタル秣山ハ西北ノ峯ヲ境トナシ東西田原村等所屬ノ秣山ナレハ此地形ニ依テ推スルハ論所西山ハ被上告村所屬ノ秣山ナリト見做サレルヲ得ストノ判定ニ過キカルナリ而テ字八丁ハ論所西山部内ノ小字ナリト雖モ該地ハ論所北方ノ極端ニシテ嶮岨ノ地ナリ而テ實地臨檢ノ際主任判官カ字八丁ノ内最嶮岨ナル山腹ニ至リ此地ハ上告村ヨリ秣芻採リニ立入ルヤ否ヤヲ審問セラレタルニ付此地ハ秣ヲ芻採ルニ最モ不便ナレハ之ヲ芻ラス峯道ヨリ入込ニ萱ノミヲ芻採ル旨ヲ申立タリ然ハ字八丁ノ内嶮岨ヲ極メタル山腹ノ一小部分(裁判狀ニ單ニ八丁ト記セシハ事實ニ違フ)ニ於テ秣ヲ芻採サルモ決シテ論所西山カ丹澤運上山部内ニシテ上告村始メ四ヶ村入會ノ山地タルコト害ナク且又論所ノ境界ハ上告甲第七號証ニ判然タレハ被上告村民ノ持林新開畑等ニ沿テ境界判然認メ難キノ謂レナク又地形ハ仮リニ原裁判ノ如ク上告村及ヒ菩提村所屬ノ秣山ハ北方ニ論所ト境シ東西田原村所屬ノ秣山ハ西北ニ境ヒスルモ決シテ論所ガ被上告村所屬ノ秣山ニシテ丹澤運上山ノ部内ニ非スト云フノ謂レナキモノナリ然ルチ原裁判所カ被上告村外四ヶ村ノ入會秣場ナリト判定セラレタルハ不當ナリトノ事

第五 同判文第五條ニ「論所西山ヲ始メ東西田原村菩提村被上告村(上告村)等ニ現在所屬ノ秣山ハ(中)甲第一號証ニ西山云々ノ字向アルノミヲ以テ被上告村(上告村)始メ四

ヶ村共有ノ秣山トハ看認難シトアレヒ上告甲第一號証中ニ「西山ハ丹澤山ノ内ニテ爲運上山間云々」トアリテ被上告者モ亦該西山ト記スルモノハ即チ論所ナルコトヲ明治十二年十一月十三日初審横濱裁判所ニ於テ明言シタルコト其申供書ニ明カナリ然ハ則該甲第一號証ハ本訴ニ援引スヘキ最大有力ノ証據ト云ハサルヘカラス何トナレハ該証ハ是レ舊時ノ裁許狀ニシテ後日ニ至リ決シテ變更スヘカラサルモノナレハナリ抑モ論地ハ字西山ト稱シ來レリ其字西山ハ丹澤運上山ノ内ナルコト上告甲第一號証ニ於テ明カ也上告甲第一號証ニ西山ト記スルモノハ本訴ノ論地タルコト被上告者モ亦自陳シ居レリ夫レ如斯クナレハ論地ハ丹澤運上山ノ一部ナルコト確然動スヘカラス然ハ上告村始メ四ヶ村ノ入會秣場ナルコト被上告者モ亦論ナキナリ然ルチ甲第一號証ニ記スル西山ハ論所西山ニ非サルカ如ク判決セラレタルハ不當ナリトノ事

第六 同判文第六條ニ「文久年度ニ測量セシ丹澤山貳千町歩ハ固ヨリ改正反別ノ如ク緻密ニ丈量セシモノニ非サル故云々被上告村(上告村)始メ四ヶ村共有秣場ノ新反別ニ四割余ノ減少ヲ生スルモ敢テ怪ムニ足ラス云々」トアレヒ文久年度ニ平林九兵衛カ丹澤山ヲ測量セシヤ否ヤハ上告村ノ關知セサル所ナレハ固ヨリ信認スルニ由ナシ然レモ素ト丹澤運上山ハ甲第三號四號証ノ如ク十六ヶ村入會ノ處慶應二年ニ於テ字門戸口ヲ境界トシ之ヲ一千五百町歩ト五百町歩トニ分割シタリ而テ平林九兵衛カ進退セシ一千五百町歩ハ果シテ四割ノ減少アリヤ如何ハ知ラスト雖モ其以外五百町歩余ノ山地ハ論所西山ヲ引去ル片ハ其實貳百六拾町歩余ナリ如何ニ慶應年度ノ分割約定ハ其測量緻密ノモノニアラサルモ貳

百六拾町步余ノ地ヲ五百町步ト記スルノ謂レアルヘカラス論所ヲ合スルモ現ニ三百九拾町步余ニシテ四百町ニ足ラス之レ恐クハ慶應年度ニ五百町步ト定メタル山地ナリト云フモ決シテ不當ニアラサルナリ且又甲第十一號乃至甲第十三號証ハ同郡今泉村外四ヶ村ノ保証書ニシテ該村々ハ丹澤運上山惣部ニ舊入會ノ村々ニシテ本訴爭論ノ結局ニ毫モ其利害ヲ有セサルコト恰モ東西田原村ノ本訴ノ結局ニ利害ヲ有セサルト一般ナリ而テ原裁判所ハ本訴爭論ノ結局ニ利害ヲ有セサルヲ以テ東西田原村ノ申立ヲ採用シ今泉村始メ五ヶ村ノ申立ヲ採用セラレサルハ彼ニ厚フシテ此ニ薄キ裁判ナリ加之甲第六號証ハ被上告村ト利害ヲ共ニスル小叢毛村ヨリ差出シタルモノナレハ斷シテ採用セサルヲ得サルモノナリ何ントナレハ該小叢毛村ニシテ論所ニ關係ナシト云フ之レ有効ノ証ニアラスシテ何ソヤ東西田原村カ被上告村ノ爲メニ申立ル處毫モ己レヲ害スルコトナキ故ニ隨意ノ申立ヲ爲スコトアルモ小叢毛村ノ如キハ蓋シ是等ノ比ニ非サレハナリ然ルニ原裁判所ハ是等ノ証ヲモ採用セラレサリシハ不當ナリトノ事

被上告者ハ上告ノ不當ナル旨ヲ陳述シ原裁判ヲ辨護セリ

依テ弁明並ニ判決ヲ與フル左ノ如シ

辨明

第一條

上告要領第一項ノ旨趣ヲ審按スルニ上告村ノ爲メニ本訴爭論ノ結局ニ於テ毫モ利害ノ關係ヲ有セサル今泉村外四ヶ村カ証言ノ在ルアリ然ルニ原裁判所ハ何等ノ理由ヲモ付

セス一方ノ証言ヲ斥ケ一方ノ証言ヲ採用シテ其判文第一條ノ判決ヲナシタルハ不當ナリトス

第二條

同要領第二三項ノ旨趣ヲ審按スルニ引合人丁第一號及ヒ被上告第八號附錄圖面ハ實ニ見取リノ粗繪圖面ニシテ本訴論地カ該圖面中ニ包羅スルヤ否ヤハ知ルニ由ナシ何ントナレハ該引合人丁第一號附錄圖面中羽根村外三ヶ村秣場五百町步ト記載スル部分及ヒ被上告第八號附錄圖面中赭色ノ部分ハ粗繪圖面中ノ最モ粗ナル部分ニシテ字何ノ場所ヨリ何ノ所迄ヲ畫キタルモノナルヤ否ハ茫乎トシテ知ルヲ得ヘカラサレハナリ然ルニ原裁判所ハ本訴論地カ該兩個ノ圖面中ニ包羅セサルモノトシ其判文第二三條ノ判決ヲナシタルハ不當ナリトス

第三條

同要領第四項ノ旨趣ヲ審案スルニ凡ソ實地臨檢ノ摸樣ニ據リ爭訟ノ如何ヲ判決スルハ他ニ據ルヘキ証左ナキノ場合ニ限ル故ニ假令ヒ如何ナル實地ノ摸樣アリト雖モ他ニ據ルヘキ書面等ノ証左アレハ故ナク此レヲ措キ彼レニ據ルコトヲ得サルハ亦論ヲ俟タサル也今原裁判所ハ其判文第五條ニ於テ上告第一號証ハ上告村ノ爲メ之ヲ採用スルニ足ラストナシ其第四條ニ於テ實地臨檢ノ摸樣ニ據リ本訴論地ハ被上告村ノ所屬ト看做シタリト雖モ既ニ本院辨明第四條ニ於テ原判文第五條ノ判決ヲ不當ナリトスル上ハ本訴論地ノ所屬ヲ判決スルハ決シテ實地臨檢ノ摸樣ニ據ルコトヲ得ス但シ原判文第四條中「西山ハ東ニ向ヒタ

ル秣山ニシテ東ハ山ノ半腹ヲ境ナリト云フモ原告村(被上)人民ノ持林或ハ新開畑等ニ沿テ境界判然看認メ難ク」トノ一段ハ蓋シ原裁判所カ上告第七號証ヲ採用セザリシニ因ミナルヘシト雖モ抑モ該第七號証ハ上告被上告両村カ東西田原ノ両村ニ依テシテ之ヲ調製セシメタル論地ノ圖面ニシテ其境界判然タリ如何ントナレハ其境界判然セサルニ該圖面ヲ調製シ得ヘキノ理ナケレハナリ況ンヤ又其圖面ヲ調製シタル東西田原村ハ既ニ原裁判所カ其判文第一條ニ於テ本訴爭論ノ結局ニ毫モ利害ノ關係ヲ有セザルトマテ之ヲ信認シ其証言ヲ採用シタル程ノ者ナルニ於テヨヤ又論地ノ内字八丁ノ一小部分ニ於テ上告村民カ秣ヲ芟取ラザルトテ之ヲ以テ論地全部カ被上告村ノ所屬ナリトスル理由ノ一ニ算入スルコトヲ得ス況ンヤ其時節ニ至リ萱ヲ芟取リ來リタルニ於テチヤ依テ原判文第四條ノ判決ハ不當ナリトス

第四條

同要領第五項ノ旨趣ヲ審按スルコト上告者ハ元祿二年度ノ裁許狀ナル上告第一號証中「西山者丹澤山ノ内ニテ爲運上山間云々」ト記載アル西山ハ被上告者ニ於テ本訴論地ナルコトヲ明治十二年十一月十三日初審横濱裁判所ノ法庭ニ於テ明言シタリト申立ルニ依リ上告者ハ仍ホ原裁判所ニ於テモ此ノ申立ヲ爲シタリシヤ否ヲ調査スルニ明治十四年七月十二日上告者カ原裁判所ニ於テノ口供ニ果シテ其申立アリ然シテ被上告者ハ更ニ當法庭ニ於テ該申立ノ事實ナルコトヲ認諾シタリ又被上告者ハ明治十四年四月二十七日原裁判所ニ於テノ口供ニ「甲第一號裁許繪圖裏書ニ西山ハ丹澤山ノ内ニテ云々」ト記載アルモノハ事

實ニ相違シタル文言ナリ何ントナレハ甲第一號証ノ冒頭ニ其節ノ願人東西田原村ノ申立ニ「養毛村ノ西山東山從先規入會秣薪取來云々」ト有テ以テ西山ハ丹澤山ノ内ト云フノ文言ハ不適當ナリト申立猶ホ上告答書第五條ニ於テモ甲第一號西山ハ丹澤山ノ内ニテ云々ノ文字ハ贅語或ハ誤謬ナリト申立タリ夫レ如此ク相違不適當贅語若クハ誤謬ナリト申立ハ要スルニ猶ホ該証記載ノ西山ハ本訴論地ナリト申立ニ異ナラサルヘシ如何ントナレハ該証記載ノ西山カ本訴論地ニ非ラスンハ如此キノ申立ヲナスニ及ハサレハナリ而テ今玆ニ上告第一號証ヲ点檢シ該証記載ノ「西山ハ丹澤山云々」ノ一句ハ果シテ被上告者ノ申立ノ如ク相違不適當贅語若クハ誤謬ナルヤ否ヲ審按スルニ看ヨ該証冒頭ニ「養毛村ノ西山東山從先規入會秣薪取來處」トノ下直接ニ「養毛村ノ者寺山村山守ト致一味」トアリ若シ該西山ニシテ養毛村ノ所屬地ナリトセハ其山守ハ即チ養毛村ナレハ何ソ寺山村カ山守タルノ謂ハレアラシヤ是レ蓋シ當時養毛村カ西山ヘモ入會シタルカ故ニ同入會村ノ東田原村チシテ自己ノ所屬地ナル東山ハ勿論併セテ西山ヘモ入會セサラシメンカ爲メ其地元ナル寺山村ト一味連合シテ之ヲ防止シタルモノニシテ右養毛村ノ西山云々ノ文詞ハ養毛村所屬ノ西山ト云フノ意ニ非スシテ既ニ被上告者モ明治十五年四月十四日附ノ再答書第四條ニ「本訴論地ハ養毛村ヨリ西ニ當レルヲ以テ之ヲ西山ト稱シタルモノニシテ其名稱偶然ニアラス」ト自認シタル如ク唯ク養毛村ノ西ニ當レル西山ナルヲ以テ斯ク稱シタルモノト解釋スルヲ適當ナリトス又看ヨ其後段ニ「西山ハ丹澤山ノ内ニテ爲運上山間」トアルノ下直接ニ「其節山守寺山村百姓御代官ヘ可申出儀ヲ不及沙汰養毛村斗田原村ト致爭

論上ハ野火出シ候地東山ト相聞ヘ云々トアリ是レ蓋シ當時ノ法官カ簗毛村ヲ曲者トシタル斷案ノ關鍵ニシテ此ノ判文ノ旨趣ニ據ルキハ既ニ被上告者カ初審以來屢々本訴論地ナルコトヲ自認シタル該証記載ノ西山ハ丹澤山ノ内ニテ其所属ハ被上告村ニ非スシテ寺山村ニ在ルコト該証冒頭記載ノ文詞ト相照應シテ戻ラサルノミナラス今時現ニ丹澤山カ寺山村ノ所属地ナルコトニ符合セリ論シテ此ニ到レハ上告第一號証ハ他ノ反証ノアラサル限リハ本訴論地ノ西山カ仍ホ今時丹澤山ノ内ニアリテ其所属ハ被上告村ニ非サルコト付キ動カスヘカラサルノ確証ナリトス然ルニ原裁判所ノ審理此ニ到ラス其判文第五條ニ於テ殆ント想像ニ等シキ判決ヲ下シタルハ最モ不當ナリトス

第五條

同要領第六項ノ旨趣ヲ審按スルニ慶應二年度ニ於テ丹澤山字門戸口ヲ境界ト爲シ之ヲ千五百町歩ト五百町歩トニ分割シタル該山総反別二千町歩ハ即チ當時ノ見取反別ナリ故ニ今日之ヲ精細ニ丈量セハ双方町歩ニ大ナル減少ヲ生スルニ非スヤ既ニ双方町歩ニ大ナル減少ヲ生スル程ナレハ一方ノ減少ヲ以テ他ノ一方ノ減少ニ比シ其割合モ亦或ハ少ナク或ハ多キノ理無シト云フヘカラス然ラハ則上告者ニ於テ此理由ヲ以テ論所西山ハ五百町歩ノ内ナリトスルコトヲ得ス畢竟右ノ理由ハ本訴ニ關シ影響ナキモノトス依テ原判文第六條前半ノ判決ハ不當ニアラスト雖モ其後半ノ判決ハ本院辨明第一條ノ如ナルヲ以テ之ヲ不當ナリトス

判決

右ノ次第ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判スルコト左ノ如シ
前ニ辨明スルカ如クナルニ依リ論所西山ハ丹澤山ノ内ニシテ原告羽根村外三ヶ村(菩提田原村西)入會ノ秣場ナリトス(村東田原村)入會ノ秣場ナリトス

但訴訟入費ハ規則ノ通り被告(被上告者)ニ於テ辨償ス可シ

第百十八號

○判文(明治十四年十一月十二日上告) (明治十五年四月廿四日申渡)

栃木縣下野國下都賀郡丸林村

平民

上告人

眞 瀬 彦 内

被上告人

同縣同國同郡同村平民

眞 瀬 惣 次 郎

絶家再興ヲ拒ムノ一件上告ノ要旨左ノ如シ

第一條

原裁判所カ主腦トセル被上告番外ノ數証ハ審理後ニ提供セシモノニテ上告者ニ於テハ夢ニモ承知セサルモノナルコトヲ以テ容易ク裁判セラレタルハ不法ノ裁判ナリトノコト

第二條

被上告者カ提出スル番外三號証過去帳ノ寫ハ被上告カ勝手ノ廉ノミテ摘寫シタルモノニシテ原簿ハ幸吉ヲ删除セルニ非ス又幸吉ナル者ハ病ノタメ佛門ニ歸依シ遂ニ剃髮スルコト

到ルモ依然眞瀬家ノ戸主ニシテ出家坊主トナリシモノニ非ス然ルチ原裁判所カ過去帳ニ幸吉ヲ删除シ云々幸右衛門ハ潰レ式トナリ幸吉ハ教心坊ノ坊主ナリト裁判セラレタルハ不適當ノ裁判ナリトノヲ

第三條

藤吉「スキ」ノ夫婦ニ於テ幸右衛門ノ屋敷ニ家屋ヲ建設シ之レニ居住シテ其跡式ヲ維持シ居ルハ其相續セシヲ知ルヘシ且彦右衛門ニハ長女「ハナ」ナル者アリテ上告者其智養子トナリ相續シアレハ其藤吉「スキ」等夫婦ハ他家ヲ襲カサルヘカラサルモノナリ由是觀之藤吉「スキ」ノ夫婦ハ幸右衛門ノ跡相續セシ幸吉ノ相續人タルヲ明カナリ然ルチ原裁判ニ於テ被上告甲第七號証中彦右衛門娘「スキ」トアルヲ以テ「スキ」ハ幸吉ノ養子ニ非スト言渡サレタルハ不法ノ裁判ナリトノヲ

第四條

墓碑玉垣等ヲ他人カ寄進スルヲハ民間其例少シトセス蓋シ幸右衛門ノ墓碑ハ阿部新藏ニ於テ幸右衛門ノ跡相續人幸吉藤吉等ニ拘ハラス寄進シタルモノナルヘシ然ルチ原裁判所ニ於テ被上告番外甲四號証幸右衛門ノ墓碑ニ施主阿部新藏トアルヲ以テ幸吉「スキ」藤吉等ハ幸右衛門ノ相續人ニ非ストナシタルハ虚証ヲ採リ事實ヲ誤リタル裁判ナリトノ事

判決

第一條

原書類ニ徴スルニ被上告者カ甲番外証ヲ提供シタル後上告者モ亦副答辨書ヲ提出シ其書

中ニ於テ番外甲第二號証ヲ論辨シアルヲ視レハ被上告番外証ハ審理後ニ提供シ上告者カ承知セサリシモノナリトハ信認シ難シ

第二條

番外甲第三號証過去帳ノ寫ハ被上告者於テ勝手ニ摘寫シタルモノニシテ其原簿ハ幸吉ヲ除カス又幸吉ハ眞瀬家ノ戸主ニシテ出家坊主ニ非サリシト云フモ皆口頭ノ陳述ニシテ認メ得ヘキ形跡タモナケレハ原裁判所カ番外甲第三號証ニ憑リ以テ裁判シタルハ不適當ニ非ストス

第三條

藤吉「スキ」ノ夫婦カ幸右衛門ノ屋敷ニ居住シ其跡式ヲ維持セシト云フモ其証據ナク又上告者カ彦右衛門跡相續ヲナセシ由是ヲ以テ藤吉「スキ」ハ幸右衛門ノ跡相續セシ幸吉ノ養子ト爲リシモノトハ認メ難シ況ンヤ甲第四號証等有テ藤吉等夫婦ハ幸右衛門ノ跡相續セサリシヲ著明ナルヲヤ即原裁判ハ相當ノ裁判ナリトス

第四條

相續ハ有テ祀ヲ絶タサリシニモ拘ハラス新藏ニ於テ特ニ幸右衛門ノ墓碑ヲ建立セシトナラハ宜シク其事由ナルヘカラス然ルニ之レナキヲ以テ視レハ幸右衛門跡ハ絶テ祭主ナク新藏カ其親族ノ故ヲ以テ碑ヲ建テ吊祭シタルモノト云ハサルヲ得ス乃チ原裁判所カ幸吉「スキ」藤吉等ニ於テハ幸右衛門ノ跡相續ヲナサ、ル實証ナリト裁判シタルハ不法ト云フヲ得サルモノトス

前條ノ通りナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス
第一百九號

○判文(明治十四年十一月十四日上告)
明治十五年四月廿四日申渡

上告者

長野縣信濃國下伊奈郡北方村
及上殿岡村下殿岡村總代

伊藤 藤 大 八

長野縣信濃國下伊那郡岡村

總代

長尾 格 之 助

被上告者

長野縣信濃國下伊奈郡松尾村
及同郡上飯田町ノ内羽場耕地
并同郡飯田町總代

後藤 宗 基

同

東京府日本橋區若松町廿一番
地寄留秋田縣平民

渡邊 小 太 郎

右代言人

共有山地爭論一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不當トナス上告ノ要領左ノ如シ
第一 上告第一號証ハ明治九年申本訴訟山ノ慣行成跡ヲ取調フルニ際シ原被告雙方ノ間

ニ紛議アリシヲ以テ遂ニ従前入會者ノ慣例ヲ一層永遠ニ鞏固ナラシメテ爲メ互相ニ交換
シタル証書ナレハ論山ニ就テ彼我同等ノ權ヲ有スル確証トス試ニ該証ノ主意ヲ細辨スレ
ハ其第一項ニ被上告三ヶ村ハ年内入會トシ其第二項ニ上告村ハ三月ヨリ十月迄入會ト記
載アリ如斯彼我ノ間ニ入會ノ區別ヲ爲シタルハ是上告村ハ論山ノ東南ニ位シ冬季モ猶平
生ノコトシ入會ノ便アリ之ニ反シテ被上告村ハ該山ノ東北ニ位シ冬季ハ雪深シテ入
ヲ得サルノ不便アルヲ以テ其平均ヲ得ンカ爲メニ上告村ハ右時間(十一月ヨリ
二月ニ至ル)入會ス
ルヲ差扣ヘタル主意ナリトス這ハ其但書ニ「月ノ儀ハ舊曆ニ候事」ト記載アルヲ以テ其平
均法ニ出テタル「明白ナリ何トナレハ深雪ノ時季ハ舊曆十一月ヨリ翌二月迄ノ間ニ係ル
ヲ以テナリ又第二項中ニ「草木ハ馬子操ナシ日歸ニ伐取申候事」ト記載アリ是上告村ハ
其山ニ接近スレハ一日ノ往復實ニ五回ノ多キヲ得而テ被上告村ハ之ニ異ナリ其山麓ヲ距
ル「遠ケレハ一日ノ往復實ニ一回ノ外ニ出テス故ニ上告村ハ馬子操ナシ日歸ニ伐取可
申ト規定ヲ立タルハ即チ平均ヲ得ン爲メ也夫是等ノ事實ニ由テ該証ノ成立ヲ考レハ其入
會ニ區別ヲ定メタルハ畢竟上告村カ其所得ノ過収ヲ制シ以テ其同等權ノ實ヲ得ン爲メニ
外ナラス殊ニ其第三項ニ於テハ「柴草刈敷ノ義ハ相互ニ年々談示ノ上山ノ口日限相定別
始可申」ト其私擅ノ所爲無カラシメテ又其第四項ニ至テハ「右規定候上ハ相互ニ急度
相守可申若規則ヲ犯シ候者ハ一人ニ付爲罰金拾圓ツ、爲差出云々」ト相互ニ連署シ以テ
該契約ヲ結了シタリ由是觀之ハ右第一號証ハ従前原被告カ同等ノ入會權ヲ有シ來レルヲ
証明スルニ余リアルモノナリトス從テ又該山ハ原被告カ共有ナルヲ論テ俟ス何トナレハ

論山ハ原ト公有地ニ編入セラレタルモノナルヲ原被告雙方カ往古ヨリ入會シ來レル慣行
成蹟即チ上告第四號証ノ如ク縣廳へ上申シ是ニ由リ始メテ民有ニ屬セシメラレタルモノ
ナレハ其從前ノ入會者ハ其共有者ニ屬スヘキハ當然ノ理由ナレハナリ然ルニ原裁判所
カ此第壹號証ヲ以テ共有ノ証ト認メ難シト裁判ヲ下サレタルハ審理ヲ盡サハル不當ノ
裁判ナリトス

第二 被上告第八號証地引帳附録ナルモノハ明治十三年十月十四日原裁判所ニ於テ被上
告者カ答ヘタル如ク素ヨリ共有地ノミヲ記載スル爲メ調製シタル帳簿ナレハ苟モ該帳簿
ニ記載アル限リハ即チ共有者タル確証トス然ルニ該帳簿ノ爲メ却テ共有權ナキモノトス
ルハ是他ナシ蓋シ右八號証被上告ノ肩書ニ持ヨトアリ上告者ノ肩書ニ入會ト記載アルチ
以テ論山ハ既ニ上告第三四號証ニ於テ原被告同等ノ入會山ナルヲ明白ナルモ更ニ被上告
第八號証ニ至リ上告者ハ自ラ其同等權ヲ殺キ入會爾ノ位置ニ下リタル者トセラレシモノ
ナラン果シテ爾ラハ事實ヲ誤ルモノト謂ハサルチ得ス如何トナレハ右肩書ハ明治十三年
十月八日原裁判所ニ於テ原被告カ問答ニ明白ナル如ク被上告者カ私擅ニ張紙ヲ爲シ自ラ
之ニ見認印ヲ押シタル不正ノモノナレハナリ加之右被上告第八號証ハ素ヨリ其性質共有
者而已記載スヘキモノナレハ其帳簿中更ニ復々共有者或ハ入會者トノ區別ヲ記載スヘキ
理由ナキヲ以テモ亦其肩書ノ真正ナラサルヲ知ルヘシ況ンヤ此入會山ハ實ニ農家ニ取テ
日常欠ク可ラサル緊要物タルヲ以テ上告者ニ限り何等ノ事故モナク亦何等ノ契約モ無ク
シテ從來固有ノ同等權ヲ俄カニ被上告第八號証ノ爲メニ滅殺スヘキ理アラソヤ又年月ノ

前後ヲ以テ其權利ノ如何ヲ判定セラル、ニ於テハ被上告第八號証ノ後ニ成立タル上告第
六號証ヲ採用セラルヘキ筈也然ルニ原裁判所ニ於テ(論地ハ曾テ原被告カ是認セシ原告
被上告第八號証及被告**上告者**第三四號証ニ據テ判明スルヲ緊要トス夫レ被告第三四
以下同號証ニ據ルキハ論地ハ原被告村ノ入會山ニシテ原告村ノミノ共有山ニアラサルヲ明カナ
リ何トナレハ其第三號証ニハ右ハ上飯田村始外八ヶ村入會普通公有地村云々トアリ其第
四號証ニハ入會鳴村松尾村伊賀良村内北方耕地上下殿岡耕地トアリテ原告村總代等之ニ
調印シアレハナリ然レモ該証ハ明治八年ノ頃縣廳へ奉呈セシモノニテ(第四號証ニハ年
明治八年ノ頃ナルヘシ)原告第八號証ハ明治十年ノ調製ニ係ルモノナレハ被告村ノ入會權ハ明治十
年ニ至リ更ニ原告第八號証ノ如ク分レテ原告村ノ共有被告村ノ入會ニ變換シタルモノナ
ルヘシトセラレタルハ審理ヲ盡サハル不當ノ裁判ナリ

第三 又被上告第八號証即チ地引帳附録ナルモノハ元ト共有地ノミ記載スヘキ爲メニ調
製シタルモノナレハ該帳ニ記載スルモノハ皆是共有者ニアラサルハナシ然ラハ原裁判所
云フ如ク其肩書ナキニ於テハ該山ハ共有山ナルカ將タ入會山ナルカ之ヲ知ルニ由ナシト
云フノ理ハ萬之レアル可ラス然ルニ原裁判所ハ該帳簿ノ性質ヲモ審究セズシテ(殊ニ右
肩書ナクシテ只原被告村總代等ノ姓名ノミヲ記シ置クキハ該山ハ果シテ共有山ナルカ將
ク入會山ナルカ之ヲ知ルニ由ナカルヘシ然則最初ヨリ共有トカ入會トカ分明ニ記載シ置
クハ當然ノコトニシテ怪ムニ足ラス)ト裁判セラレタルハ不當ナリト思考セリ

第四 上告村戸長カ地引帳(被上告)第八號証ニ調印セシ一事ハ上告村人民ノ曾テ知ラサル所ニ之

レアリシヲ以テ裁判ノ後其事實ヲ戸長ヘ尋問セシニ調印ヲ爲シタルモ其砌ハ一般入會者ト記載スルノ成規ニテ持主或ハ入會ト區別スヘキ成規アラサレハ右帳簿ニ今日持主或ハ入會ト區別シ記載アル如キハ被上告村ニ於テ私カニ後日書改メタルモノナリト答タリ元來數村共有地ノ如キハ其村々常ニ共有物取扱人ナル者ヲ設ケ置方般ノ事務ヲ爲取扱戸長一己ノ擅斷スヘキモノニ非ス况ヤ前述ノ如ク戸長ニ於テモ斯ル區別ナカリシヲ証言スルニ於テチヤ然ルニ原裁判所ハ「尙ホ其實否ヲ檢セン爲メ長野縣廳ニ照會シ地引帳ノ寫ヲ取寄セ之ヲ閱スル（中）抑モ地引帳ノ如キ該共有山村方總代ノ調印ヲ要スヘキハ當然ノコトナルニ該地引帳ニハ戸長而已ノ調印アツテ總代ノ調印ナキハ無欠全備ノモノトハ難認ト雖モ思フニ原告第八號証地引帳附録ニ各村總代等ノ調印アルヲ以テ再ヒ地引帳ニハ總代ノ調印ヲ要セスシテ戸長ノミ調印シ之ヲ縣廳ニ進達セシモノナルヘシ然ラサレハ戸長一己ノ考案ヲ以テ入會伊賀良村ト記載スヘキノ道理ナケレハ也」トセラレタルハ太々不當ノ裁判ナリ且夫レ地引帳ニ就テハ上告者ハ最モ異論アルヲ以テ原裁判所ニ於テ一應指示セラレナハ充分ノ辨論ヲ呈スヘキノ原裁判所ハ之ヲ示サス而カモ結審ノ後其寫ヲ取寄セラレタル由ナリキ然レモ該地引帳ノ本帳ニハ貼紙ヲ爲シ書加ヘアルモノナレハ願クハ之レヲ實檢セラレシヨリ尙ホ此事ニ付上告者カ最モ不服ニ耐ヘサルハ此度上告ニ際シ原裁判所ニ於テ書類謄寫ヲ爲シタル處右地引帳ヲ長野縣廳ヨリ取寄セラレタル後被上告而已尋問ニ對シタル自家保護ノ書面ヲ呈シ有テ發見シタリ抑モ本訴ハ明治十四年三月廿五日ナリテ原被告共ニ結審ノ旨ヲ供シタルハ其後被上告一方ノミ審問セラレ又被上告一方而

己書面ヲ受領セラレタルハ上告者ノ何分甘服シ能ハサル處ナリ凡ソ訴訟ニ關シ一方ヨリ自家保護ノ論辨ヲ呈スルニ於テハ他ノ一方ヘ相當ノ辨駁ヲ尽サシメラル、ハ是審理上當然ノ儀ト思考ス然ルニ原裁判所ハ此手續キヲ爲サスシテ其地引帳ヲ裁判ノ斷案トセラレタルハ是審判ノ法規ニ違フタル不法ノ裁判ナリ

第五 上告者ハ既ニ上告第三四號証ノ如ク論山ニ就テノ反別取調書ヲ提供シ又上告第八號証ノ如ク民有第二種ニ編入スヘキ旨達ヲ受テ其受書ヲモ呈シ示來地引帳附録等ニ調印シ地券下付請願ノ手續ヲ尽シタルニ原裁判所ハ上告者カ其手續ヲ拋棄シ置キタルカ如ク裁判セラレタルハ審理ヲ盡サレル不當ノ裁判ナリ

第六 凡ソ裁判ナルモノハ原被告相爭フタルモノニ與フヘキモノ也トス然ルニ控訴原告ハ岡村松尾村及上飯田村ノ内羽場耕地人民ニ止ル處終審裁許狀面如何ナル譯ニヤ紙葉ヲ切繼キ始審以來未ダ會テ本訴ニ關係セサル飯田町平民小木曾次郎外三名ト署名シ本件ノ裁判ヲ與ヘラレシハ裁判其法ヲ得サルモノトス當ニ裁判其法ヲ得サル爾ナラス収獲上ニ於テ圖ラサル損害ヲ被ルヘシ因テ上告者ハ扣訴審理中果シテ斯ル扣訴者アリトセハ之ニ對スル答辨ヲモ爲スヘキニ之ヲ爲サシメサルハ最モ不當ノ裁判ナリト事

被上告者ハ上告ノ不當ナルヲ主張シ原裁判ヲ辨護シタリ依テ辨明及判決ヲ與フルコト左ノ如

辨明

第一條

上告要領第一項ノ旨趣ヲ審按スルニ上告第一號証ニ被上告村ハ年内入會山ナルヲ得上告村ハ三月ヨリ十月迄八ヶ月限り入方スルヲ得ルノ記入迄ニ止リ別ニ被上告村又ハ上告村ノモノ共有ト判明シ得ヘキ記載ナクハ仮令上告被上告村カ論山ニ入方スルノ月數ニ異同アリト雖モ等シク是レ入會ニ相違ナケレハ本訴論山ハ上告第一號証ニ據ルキハ上告被上告村ノ共有スヘキモノト看認メサルヲ得ス既ニ原裁判所モ其判文ニ「被告第三四號証ニ據ル時ハ論地ハ原被告村ノ入會山ニシテ原告村ノモノ共有山ニアカルヲ明カナリ何トナレハ其第三號証ニハ右ハ上飯田村始メ外八ヶ村入會普通公有地林云々トアリ其第四號証ニハ入會岡村松尾村伊賀良村内北方耕地上下殿岡耕地トアリテ原告村總代等之レニ調印シアレハナリ」ト判決シ入會ハ即チ共有ナリト看認メタルコト非スヤ又蓋シ該第三四號証ニ記載スル入會ノ二字事實ハ即チ上告第一號証ニ記載スル事項ニ外ナラサルヘシ然ルニ原裁判所ハ此等ノ理由アルニモ拘ハラス上告第一號証ニ付テハ「該爲取換証（上告第一號証）第一項原告村ハ年内入會山ナルヲ得被告村ハ三月ヨリ十月迄八ヶ月限り入方スルヲ得ルノ記入迄ニ止マレハ是ヲ以テ原告村ノモノ共有トモ又ハ原被告村ノ共有トモ判明シ得ヘカラス」ト判決シタルハ不當ナリトス

第二條

上告要領第二項ノ旨趣ヲ審按シ且ツ地引帳附録ナル即チ被上告第八號証ヲ檢証スルニ該証中持主或ハ入會トアル肩書ノ文字ハ唯其文字ノミニ據ルキハ果シテ後日之ヲ書加ヘタルモノナルヤ否ハ未タ遮ニ之ヲ判明シ難シト雖モ右肩書ニ付頗ル疑フヘキノ條件一ニシ

テ是ラサルモノアリ第一地引帳附録ナルモノハ券面へ人名又ハ村名等悉皆書載シカダキ土地供有者ノ連名簿ニシテ即チ其土地ノ所有ヲ証スル帳簿ナリ然則地券ヲ受領スル權ナキ共有者ニ非サル入會者ニハ關係ナキモノナルカ故ニ果シテ上告村ハ本訴論山ニ關シ唯其入會權ヲ有スルノミニテ共有權ナシトモ該帳簿ニ連署ヲ要スルノ理ナキヲ但シ其入會權ノ如キハ別ニ上告被上告村ノ私約ニ付シテ可ナルノミナラス既ニ上告第一號証爲取換書ノ存スルアレハ亦新ニ其規約ヲ要スルニモ及ハサルカ如シ第二被上告第八號証ハ上飯田村ノ所屬ニ係ル都テノ共有地ヲ上飯田村カ地元ノ責任ヲ以テ之ヲ調成シ各共有者ノ連印ヲ得テ之ヲ縣廳へ捧呈シタル者ナルカ故ニ該帳簿ノ末項ニ右ハ當村内共有地ノ分名面取調持主一同調印奉書上云々ノ文詞ハ即チ上飯田村カ縣廳へ上申シタルノ文詞ニシテ該帳簿ニ連印スル他ノ共有各村カ上飯田村ト共ニ直ニ之ヲ縣廳ニ上申シタルノ文詞ニ非ス如何トナレハ右文詞中當村内云々トアリ而シテ其後ニ連署スル麥島彦平外六名中鼎村松尾村ノ者等ヲ交ヘスシテ皆上飯田村ノ正副戸長ナル而已ナラス該帳簿表題ニモ改正地引帳附録信濃國伊那郡上飯田村トアレハナリ然レハ則右文詞中持主一同調印ノ一句ハ該帳簿中渾テ調印シタル者ヲ指稱シタルモノナル可シ若シ然ラスシテ持主ノ肩書アル者ノミヲ指稱シタルモノトセン歟即チ持主並ニ入會一同調印云々ト書載スヘキ筈ナルヲ第一三書類ヲ調査スルニ元來被上告者ハ其第八號証ニ持主或ハ入會ト書載シタルハ從來本訴論山ハ被上告村ノ共有ト爲シ來リタルカ故ナリト主張スルカ如シ然ルニ從來被上告村而已ノ共有タリシ何等ノ証左ナキ而已ナラス却テ上告被上告村入會共有スヘキノ証アルヲ

第四長野縣地引帳ニハ飯田町ノ内舊大横町外三町ノ記載ナクシテ被上告第八號証ニハ持主ノ部ヘ張紙ノ上之ヲ記載シ且福住兵次郎ノ一名ヲ插入シタルコト第五上告第六號証ノ果シテ事實ナルヤ否ハ姑ク之ヲ措キ該証ニ本訴論山ハ上告被上告村入會共有山ト記載アツテ然シテ上告者ハ該正本ニ上告被上告者連印ノ上明治十二年九月十七日之ヲ飯田區裁判所ニ奉呈シタルコトノ事實ナルヲ申立ルコト以上數項ノ事由ヲ參考スレハ被上告第八號証中持主或ハ入會ノ肩書ハ甚タ信用ス可ラサルカ如シ其ヤ該肩書カ初メヨリ之ヲ記載有シ著トスル者トスルモ前上第三項ノ理由ニテ如斯記載ハ原因ナキ者ナルガ故ニ此ノ肩書ノミナ以テ本訴曲直ヲ判スルノ證據ト爲スヲ得ス如旣原裁判所ハ上告被上告村ノ入會權ハ明治十年即チ被上告第八號証成立ノ時ニ於テ初メテ被上告村ノ共有上告村ノ入會ニ分レタリト認メタル者ナレハ被上告第八號証ノ後本訴起頭ノ前ニ成立チタル彼ノ上告第六號証ノ事實如何ハ尤モ審究ヲ加フヘキ筈ナルコト然ラズシテ其判文ニ「原告第八號証ハ明治十年ノ調製ニ係ル者ナレハ被告第三四號証原被告村ノ入會權ハ明治十年ニ至リ更ニ原告第八號証ノ如ク分カレテ原告村ノ共有被告村ノ入會ニ變換シタル者ナルヘシ云々」ト判決シタルハ不當ナリトス

第三條

上告要領第三項ノ旨趣ヲ審按スルニ地引帳附錄ナル者ハ既ニ前條ニ辨明スル如クナルヲ以テ該帳簿ニ記載スル各人又ハ各村ハ皆其地ノ共有者タルコト知ルニ足レリ然ルニ原裁判所ハ「殊ニ右肩書無シテ只原被告村總代等ノ姓名ノミヲ記シ置クハ該山ハ果シテ共有山ナルカ將タ入會山ナルカ之レヲ知ルニ由ナカルヘシ」ト判決シタルハ不當也トス

第四條

上告要領第四項ノ旨趣ヲ審按スルニ凡ソ詞訟ニ付他ノ一方ヨリ提供スルノ證據物ハ一々之ヲ他ノ一方ニ示シ然シテ後之レカ判決ヲ下タスハ聽斷ノ順序ナリトス然レハ乃チ原裁判所カ長野縣廳ニ照會シテ取寄セタル地引帳ノ寫モ亦之ヲ上告者ニ示スヘキコト然ラズシテ直ニ該地引帳ノ寫ヲ以テ本訴判決ノ資料ニ供シタルハ不當ノ裁判ナリトス

第五條

上告第五項ノ旨趣ヲ審按スルニ上告者ハ地券下附ニ關シ其第四號及ヒ被上告第八號証等ノ書面ヲ縣廳ヘ捧呈シタルコトアレハ地券下附ノ時ニ至ル迄何等ノ取調モセズ之ヲ拋棄シ置キタルニ非ス然ルニ原裁判所ハ「被告村ハ該地券下附ノ時ニ至ル迄何等ノ取調モセズ之レヲ拋棄シ置キタル」ト裁判シタルハ不當ナリトス

第六條

上告要領第六項ノ旨趣ヲ審按スルニ扣訴上告手續第一條コ凡ソ地方裁判所ノ初審ニ服セズシテ再ヒ上等級裁判所ニ訴ヘ覆審ヲ求ムル者之ヲ扣訴ト云トアルコト據レハ未ダ初審ヲ經サル者ハ扣訴シテ覆審ヲ求ムルヲ得サルヤ明カナリトス然ルニ原裁判所ハ右ノ法律アルニモ拘ハラズ會テ初審ヲ經サル信濃國下伊那郡飯田町平民小木會次郎外三名カ總代某ニ對シ本訴ノ裁判ヲ宣告シタルハ不當ノ裁判ナリトス

判決

右弁明ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ名古屋控訴裁判所へ移スニヨリ更ニ同裁判所ノ裁判ヲ可受者也

但上告ニ關スル訴訟入費ハ被上告者ヨリ償却スヘシ

第二百二十號

○判文(明治十五年一月十四日上告) 全(年四月廿四日申渡)

上告人

千葉縣下總國海上郡芦崎村
四十六番地平民
石毛 茂左衛門

代言人

東京府京橋區南鍛冶町廿番
地寄留愛知縣士族
太田 鐵吉
千葉縣下總國海上郡新生村
一番地平民
田中 太平

被上告人

貸金并ニ預品催促一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトスル上告ノ要領左ノ如シ

第一 原判文中「原告(上告者以下同)ト元治ハ一家中同居ニシテ親子ノ間柄ナレハ本訴ニ關スル如キ商業ヲ元治ノ營ムヲ原告ニ於テ知ラサル筈ナシ」トアルモ抑モ本訴上告者ハ常ニ農事ヲ修ムル者也長男元治ハ商業ヲ營ム者ナリ夫レ如此ク日常業爲ノ差異アル者タレ

ハ之レカ詳細ヲ認知シ得サルハ事實ノ當ニ然ラシムル所ニ非スヤ然ラハ原裁判所カ原告ニ於テ知ラサル筈ナシトノ判決ハ推想法ヲ過用サレタル認定裁判ニシテ不當ナリトノ事

第二 原判文中「原告ハ家事ヲ賄ハセ置ク所ノ其長男元治カ一家中ニ在テ云々」ト有モ上告者ハ己ニ老衰ヲ告ケ家政ヲ辦理スルニ當リ或ハ困難ヲ生スルヨリ長男元治ニ家事ヲ賄ハセタルニ過キサル者ナリ然ルニ如此キ事實アルニ依リ許諾シ居ルトノ裁判ハ是レ亦推想法ヲ過用サレタル不當ノ裁判ナリト思考ス何ントナレハ仮令之ヲ認知シ得ルモノトスルモ被上告第二號証ノ契約者タルヲ證明スル印影ハ上告者ノ實印ニ非ス即チ元治ノ實印ニ係レハ之レカ辨償ノ義務ナキヤ照々手トシテ明カナレハナリトノ事

第三 前項ニ申陳スル如ク被上告第二號証ハ元治カ上告者ノ名義ヲ冒シタル者ニシテ其印影タル元治カ實印ニ係レハ被上告者於テ之レカ證明ヲ爲サ、ルヲ得ス則チ舉証ノ義務アル者トス然ルニ原裁判所ハ如此義務アルニモ拘ラス上告者於テ辨償ノ義務アルトノ裁判ハ不法ナリトノ事

依テ辨明并ニ判決ヲ與フル左ノ如シ

辨明

第一條

上告要領第一項ノ旨趣ヲ審按シ原書類ヲ調査スルニ上告者ハ明治十三年三月六日附ノ首末書ニ「長男元治云々茂左衛門名義ヲ以テ商法上取引致シタル義ハ兼テ聞及居」ト自認シ

タルニ非スヤ然レハ則原裁判所カ「原告」(上告者)ト元治ハ一家中同居ニシテ親子ノ間柄ナレハ本訴ニ關スル如キ商業ヲ元治ノ營ムヨ原告ニ於テ知ラサル筈ナシ」ト判決シタルハ不當ニアラストス

第二條

同要領第二項ノ旨趣ヲ審案スルニ上告者ハ明治十三年三月六日附ノ首末書ニ自認シタル如ク長男元治ニ家事取賄ハシメタルノミナラス既ニ所有ノ田地マテ上告者ノ名義ヲ以テ他ニ質入セシメ又第一條辨明ノ如ク元治カ上告者ノ名義ヲ以テ商法上取引致シタルヲ兼テ聞及居ナカラ之ヲ不問ニ付シ置キシハ是レ上告者ニ於テ長男元治カ上告者ノ名義ヲ以テ爲セシ都テノ行爲ハ固ヨリ之ヲ許諾シ居タルニアラスシテ何ソヤ依テハ原裁判所カ「原告ハ家事ヲ賄ハセ置ク處ノ其長男元治カ一家中ニ在テ他人ヲシテ原告カ承諾ニ係ル者ト認侍セシムル如キ所爲アルヲ不問ニ置キシ事實ニ由テ推求スレハ其所爲ヲ固ヨリ許諾シ居タル者トナスモ條理ニ於テ之ヲ避ル能ハサルナリ」ト判決シタルハ不當ニアラストス

第三條

同要領第三項ノ旨趣ヲ審按スルニ第一第二條辨明ノ如クナルヲ以テ原裁判所カ上告者ヲ以テ「本訴ノ義務ヲ擔負スル責任アル者」ト判決シタルハ不當ニアラストス
但上告者ハ右辨明ノ外仍ホ申立ル所アリト雖モ前數條ノ辨明ニテ自ラ之ヲ理會スルヲ得又ハ本訴ニ影響ナキノ事柄ナルヲ以テ一々之レカ辨明ヲ與ヘス

判決

右ノ次第ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノナリ
第二百一十一號

○判文(明治十四年六月廿日上告
明治十五年四月廿五日申渡)

上告人

滋賀縣近江國阪田郡清瀧村
四番地平民

柏 木 豊 純

東京府京橋區日吉町廿番地
寄留大阪府士族

藤 卷 正 太

右代言人

滋賀縣近江國阪田郡清瀧村
德源院法類同縣同國淺井郡
三川村玉泉寺住職

木 津 豪 暄

被上告人

前同院檀家總代
同縣同國阪田郡清瀧村五番
地平民

吉 田 豪 完

同

同縣同國同郡同村三十九番

地平民

同

田中彦左衛門

同縣同國同郡同村四十四

番地

西村五郎作

約定不履行ノ詞訟大阪上等裁判所ノ裁判ヲ不當トシ上告シテ破毀ヲ求ル要領左ノ如シ

原判文ニ「被告第一號証ヲ審閱スルニ只苗口トノミ記載シ苗村作ト明記セサルノミナラ
ス其金額モ記載之レナク」トアレト抑右一號証ト上告第二號証トハ田中彦左衛門ノ繼目
印モ押捺アリテ離ルヘカラサルモノナリ然レハ右一號証ニハ金額ノ記載ナキモ第一號証
ニハ現ニ八百圓苗村口借入トアリテ金額判然タリ依テ第一號証ノ苗口借財ト略記アルハ
即チ苗村作ヨリノ借金ニシテ其金員ハ八百圓ナルコト一目瞭然タルニ前判決ハ不當ナリト
思考スルトノコト

右ノ如クナルニ依リ被告上告人ト苗村作ヨリノ借金八百圓ノ償却ヲ引受タルコト明ナリ依テ
上告人ハ被上告ニ對シ右ノ義務ヲ盡シ吳ヨト請求スルノミニシテ其八百圓金ノ原來ノ性
質ヲ語リシハ只手續ヲ云シ迄ニシテ本詐請求ニ付テハ實ハ不用ノ論ナルニ原裁判所ハ其
性質ニ溯リ明治十年第四十三號布告ヲ援引シ寺借ニ非スト認定セラレシハ不當ナリトノ
コト

本訴ハ約定不履行ノ訴ナレハ雜用郵紙ヲ用ユル相當ナルニ原裁判所ハ黒色郵紙ヲ用ラレ
タルハ明治八年第九十六號公布ニ背反セシモノナリトノコト

上申書

上告第一號証ヲ原裁判所明治十四年第八百四十九號借金催促ノ件ニ於テハ「其德源院ヲ
シテ負擔セシムヘキ負債ニ就テハ曩ニ覺純カ同院ヲ退去スル當時既ニ之レカ分別ヲ要シ
原告第一號(本訴上告)第一號証(中記載ノ如ク苗口借財ヨリ他ナキヲ確認スヘキ云々)トアリテ之
ヲ寺借ト見認ラレ本訴ニ於テハ寺借ニ非ストサレ同一ノ證文ニ二様ニ判定セラレタルハ
不當ナリトノコト

辨明

第一條

本件上告ニ付原裁判書類ヲ取調ルニ上告第一號証中ニ苗口借財當方ヨリ將方可致候也ト
アル文面ニ對シ上告人ハ右苗口トハ苗村作(姓名)ト云フ略記ナリ被告第二號証八百圓苗
村口(是亦)借入トアル廉ニ適合シ明治十二年一月中苗村作ヨリ借入レ前住職ノ立替金ニ
返濟セシモノニシテ寺借ナリトノ旨申立被告上告人ハ被告人(上告)退院ニ付諸什器等引
渡ノ際彦根苗口ト申者ヘノ負債金三拾圓計リノ辨償ヲ乞タルニ依リ僅少ノ金員ナレハ之
レヲ引受ルモ妨ナシトテ我々協議ノ上之ヲ引受タル節苗口借財云々ノ証書ヲ渡タルモノ
ニテ苗村作ナル者ヘ八百圓ノ負債アルヲ引受タルニ非ス且被告第二號証ノ如キハ被告
(上告)及ヒ其同意者ニ於テ隨意ニ作爲シ得ルモノニ原告(被告)ノ承認セシモノニ非サ
ル

レハ原告ニ對シ効力ナキモノナリ(被上告人カ明治十四年四月六日原裁)而シテ其八百圓
ハ真正ノ借用ニ非ス假リニ真正トスルモ寺借タルノ証毫モアルコトナシト申述シタリキ然
ルニ上告人ハ右第二號証ニ付テハ被上告人ノ駁論ニ對シ之ヲ再駁セシニモ非ス又其繼目
印云々ヲ申立タルニモ非ス而シテ該証ハ上告人ヨリ法類檀徒中へ宛タルモノナルモ其法
類檀徒中カ之ヲ承諾セシ他ノ適証ヲ舉タルニモ非ス到底右第一號証苗口云々ノ文ハ原被
ノ供述孰レカ適實ナルヤ之ヲ知ルニ由ナカリシモノナリ依テ原裁判所ハ起訴者ナル初審
原告即チ上告人カ本訴請求ノ緊要証トスル第一號証ニ苗村作ノ明記ナキト其金額ノ記載
ナキト上告人カ申述セシ前住職ノ立替金ノ返償ニ充タル証ナキト明示シ且ツ上告人カ
控訴答辨第三條ニ於テ該一號証ノ金ハ其第三號証(上告人ヨリ苗村作へ)ノ金額八百圓ニ
適合スル旨申立被上告人ハ其三號証ハ真正ノモノト認メス良シ真正ノモノトスルモ寺借
ニ非サルノ証人ナルヲ以テ之ヲ引受ルヘキ道理ナキ旨ヲ辨論セシニ依リ其原因ナル上告
人ノ第三號証ニ溯リ明治十年第四十三號公布ニ背タルヲ以テ寺借ニ非ストシ被告即チ上
告人ノ訟求不相立ト申渡セシハ不當ニ非ストス

第二條

原裁判所ガ縱令裁判用罫紙ヲ誤用セシモ前條辨明ノ如ク本按ノ裁判ヲ誤リシニ非ス抑モ
裁判用罫紙ノ誤用ハ其裁判ヲ無効ナリトスルノ法律ナケレハ之ヲ以テ裁判ノ破毀ヲ求ム
ル資料トナシテ得サルモノトス

第三條

本院ハ原裁判所カ其訴訟ニ對シ與ヘタル其裁判ノ法律ニ適シタルヤ否ヲ辨明判決スル所
ナリ然而シテ本件ニ與ヘタル原裁判ハ前條々辨明ノ通り其當ヲ得タルモノナリ然レハ原
裁判所カ他件(上告中ナリト申立レテ未タ)ニ與ヘタル裁判ヲ引來テ云々上申スルモ本件
上告ニ於テハ原裁判ヲ破毀スヘキ廉ナキモノトス
但シ上告第二項ニ於テ明治十年第四十三號公布ハ本訴ニ引用スヘカラストノ点ハ第一
條辨明ニ就テ了解シ得ヘキニ依リ別ニ辨明セズ

判決

右ノ筋合ナルヲ以テ大坂上等裁判所カ明治十四年四月十五日本訴ニ對シ與ヘタル裁判ハ破
毀スヘキ限ニ非ストス

第百廿二號

○判文(明治十四年十一月廿一日上告)
明治十五年四月廿五日申渡
上告人

新瀛縣新瀛區東廐島町五番地
平民久保七郎次代人
芝區南佐久間町二丁目十五番
地平民

田村 訥

新瀛縣新瀛米商會所頭取

本間 新作

被上告人

同肝煎

同 同

吉 浦 永 年
藤 田 文 治

新潟米商會所處分不服一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトスル上告ノ要旨左ノ如シ

第一條

被告者カ(明治十二年五月三十一日付)口供ニ「仲買人共ノ都合ニ依リ質手形米若干ハ正米等ヲ先會所へ預ケ置キ追々賣買ヲ取組ム義ニ付其實際ニ於テハ必スシモ此ノ口へハ此米ヲ向ケ此手形米ハ此口へ當テ爾等ノ事ヲ一々取極メマシテ追テ數口賣買米ト前キニ會所ニ預ケアル手形米及ヒ正米トテ合計比較シテ差引ヲ立テ來レル習慣云々」トアルアリテ上告者カ賣買米ノ如キハ素ヨリ其証據米金ノ彼是相流用シ得ルハ論ヲ俟タス然ラハ則其賣買米ヲシテ必ス兩立セシムヘキモノト斷定スルヲ得サルヤ明ラカナリ然ルチ原裁判所ニ於テハ「凡ソ仲買ナルモノハ皆他人ノ囑托ヲ受ケ賣買ヲ爲スモノニ付賣買米共買埋賣埋ヲ爲サハル限リハ約定兩立スヘキモノトス而シテ本訴買埋ノ証據無之ニ付賣買約定兩立セシモノトス」トセラレシハ不尽不法ノ裁判ト思考ス

第二條

本訴賣買米証據米金ヲ以テ彼是相流用シ得ルハ前條被告上告者ノ自供ヲ以テ証スヘシ故ニ賣付米百石ノ証據金ノ爲メニ質手形米壹石代價四圓ト槩算シタルニ百石ヲ差入レ此米額ニ付他ノ債主ヨリ六百圓ヲ借入レタルモノト假定センニ尙ホ貳百圓ノ過剩アリ之ヲ以テ

右賣付米百石ノ証據金トナス場合ニ於テハ米價ノ高下ニ依テ其証據金即チ質手形米モ亦自ラ増減スヘキヲ知ルヘシ而シテ其証據米精粗ノ如キハ素ヨリ被告上告者ニ於テ當初之ヲ甄別シテ預カリ本訴處分ノ時ニ該リ被告上告者ハ不當ニモ上告者ノ立會ヲ要セス私擅ニ賣却セシモノナレハ今更其精粗ニ論及シ得ヘキ道理アル可ラス仮設ヒ上告者ニ違約ノ廉アリトスルモ其損益ノ如キハ賣買人ノ間ニ止リ被告上告會社ノ負擔スヘキ限リニアラサルハ明治十四年四月廿二日付被告上告口供及會社申合規則第十四條ニ依テ証スヘシ况ヤ毫モ違約者タルノ謂レナキニ於テチヤ然ルヲ原裁判所ニ於テハ「畢竟証據金ノ代リニ被告カ之ヲ預リシハ仲買等ノ便宜ヲ計リ其時受取ルヘキ証據金若干ノ爲メ互相商量其物品ノ價格ヲ豫定シ米穀若干ハ質手形若干ヲ預ルモノナレハ彼是流用スヘキモノニアラス又時ノ相場ニ從フ証據金ノ増減ヲ生セサルモノトス何トナレハ米穀ニハ性質ノ精粗アリ澤手欠減等ノ患ナキニアラス又己ニ他人へ質入レアル部分ハ其利子モ算入セサルヲ得サレハ到底時ノ相場ニ何分歟ノ減額ヲ生スルヤ必セリ此減額タル被告會社ノ外他ニ負擔スルモノナケレハナリ」トセラレシハ頗ル不當ノ裁判ト思考ス

第三條

被告上告第廿一號証追金帳ニ上告者カ見留印ヲ押捺セシハ當時追金ノ承諾ヲ証スルニ止リ其差入ルヘキ追金ハ曾テ被告上告者へ預ケアル米金ノ過剩ヲ以テ補フヘキ習慣ナルカ故ニ明治十一年七月七日ヨリ同三十一日マテ屢追金ヲ促サレ其都度該第廿一號へ承認印ヲ押捺セシモ別ニ米金等ヲ差入レタルヲアルヲナシ即チ上告第二號第三號証追金欄内ニ被告上

告者カ入金ノ記載ナキヲ以テ証スヘシ若シ果シ承諾印ヲナシテ入金ヲ差入レサルヲ以テ
 違約者ナリトセハ八月二日ヲ俟タス上告者ハ違約者タルヲ免レサルモノ、如シ然ルニ被
 上告者カ初終審ノ申立タル八月二日以前ニハ入金ニ不足ナキヲ以テ違約者タラス其二日
 以後ニ於テ始メテ不足ヲ生シタルカ故ニ處分セシナリト自供セシニアラスヤ此申立ト彼
 是流用スルノ事跡トニ依テ徴スルキハ則承諾印アルカ故ニ必ス入金ヲ差入レサルヘカラ
 スト云フノ道理ナキヤ實ニ明瞭ナルモノトス然ルヲ原裁判所ニ於テ「原告ニ於テ該正米
 質手形等時ノ相場ニ從ヒ証據金ト見做ス可キ金額ノ増殖セサルヲ並ニ彼是流用セサルヲ
 承諾セシ實蹟ノアルアリ其實蹟トハ何ソヤ乃チ明治十二年八月九日初審廳へ原告供述
 シテ曰第廿一號入金帳ニ見認印押ヲ捺シタルハ入金差入ル、コトヲ承諾シタルヲ以テ候乍
 然當時原告ハ過利ノ抵當米ヲ差入置タル故直ニ之ヲ以テ入金ニ充吳候様被告へ申入タル
 處被告ニ於テモ之ヲ承諾シ云々」トアリ而シテ其被告承諾ノ証據ナキヲ是ナリ故ニ明
 治十一年八月二日ニ於テ原告ハ被告會社へ對シ判然タル違約人ナリトス」トセラレシハ
 實ニ不當ト云ハサルヘカラス

第四條

賣買ヲナストナサハルトハ素ヨリ仲買人ノ自由ニ有テ之レヲ爲サ、レハ必ス違約者ナリ
 ト云フヘキ道理アルヲナシ現ニ上告者ハ十一年七月五日ヨリ十三日ニ至ルノ間都合ニ依
 テ賣買ヲ爲サ、リシハ上告第二號ニ就テ証スヘシ而シテ十一年八月二日以後ト雖モ又上
 告者ハ常ニ被告會所へ出頭セシハ十二年六月三日付被上告口供ニ徴シテ明晰ナリ然ルニ

原裁判所ニ於テ「明治十一年八月二日以後原告ニ於テ賣買セシ蹤跡ナキヲ視レハ被告カ
 原告ヲ違約人トシテ先ツ營業ヲ差止タリト云フハ事實相違ナク云々」ト判定セラレシハ
 怪シムヘク又驚クヘキ不法不盡ノ裁判ト云ハサルヘカラス

第五條

茲ニ一步ヲ讓リ今井孫吉郎名義ノ手形米ヲ明治十一年八月八日右孫吉郎カ銀行ヨリ取出
 セシ廉ニ依リ上告者ヲ違約者ナリト仮定スルモ處分當日即チ八月九日ハ上告第十二號ニ
 明記セル如ク本場直段ハ四圓四拾五錢ナルヲ以テ孫吉郎ノ手形米ヲ除キ全ク上告第一號
 第三號第四號ノ証據米金ヲ該本場直段ニ引算テ上告者カ賣米損分ヲ差引スルモ尙ホ且千
 八百三拾圓余ノ過金アルヲ上告番外第十五號仕譯書ニ就テ明ラカナレハ素ヨリ被上告ハ
 此過金ヲシテ上告者へ返付スヘキハ當然ナリトス然ルニ原裁判所ニ於テ是等ノ点ニ就テ
 ハ何等ノ判決ヲモ與ヘラレサルハ抑不法不盡ノ裁判ト思考ス

第六條

凡限月米賣買ノ如キハ瞬時ヲ爭フノ投機商業ナルカ故ニ果シテ上告者カ明治十二年八月
 二日ニアツテ違約者タルモノナラハ必スヤ即日又ハ翌日ニ於テ之レカ處分ヲ爲サ、ルハ
 カラス豈緩慢八月九日ヲ俟ツヘキ理由アラシヤ况ンヤ處分當日即チ八月九日ニアツテハ
 既ニ相場ニ下落ヲ生シ上告者カ証據米金ニ於テハ過分ノ剩余アルハ上告第廿二號及十四
 年三月三十一日付仕譯書ニ就テ証スヘキチヤ夫レ如斯事實及ヒ証據アルニモ關セズ尙上
 告者ヲシテ違約人ナリトシ却テ被上告者ノ處分ヲ至當ナリトセハ仲買人等ノ如キハ常ニ

如何ナル不當ノ處分ヲ受クルモ會所ニ對シ其取消シテ請求シ得サルカ如シ豈復斯ノ道
理ノアルヘケンヤ是原裁判所ノ裁判ヲ不當トシ破毀ヲ求ムル所以ナリトノ專
依テ辨明等ニ判決ヲ與フル左ノ如シ

辨明

第一條

仲買人ノ都合ニ由リ質手形米又ハ正米等ヲ會社ニ預ケ置キ數口ノ賣買ヲ爲シタル後チ之
チ乗除精算シ來ルノ慣習云々トノ被上告者カ口供ニ其流用シ得タル質手形及正米ト謂ヘ
ルハ純然タル正當ノモノニシテ且會社ノ承諾ニ出ツル場合ノ効用ヲ説クモノナリ故ニ如
斯事蹟ヲ比引シ不正若クハ不實(不正不實タル所以ハ載セテ明治十三年六月十日及七
月廿一日原裁判所ニ提供シタル被上告者ノ辨駁書中ニ
明カナリ而シテ上告者ハ遂ニ之ヲ排斥スヘキ)ノ手形米ヲ以テ之ト其効用ヲ同フセント
確証ヲ供出シ得サルヲ以テ右辨駁ヲ信認ス)ノ手形米ヲ以テ之ト其効用ヲ同フセント
スルハ抑モ爲スヲ得可ラサル事柄ナリ既ニ流用スルヲ得ス如何ソ上告者ノ買米ニ對ス
ル追証據金ニ補充スルヲ許サンヤ然ラハ此時ニ該リ上告者ノ買米ハ追金ノ補充スヘキナ
ケレハ其買買ハ自ラ對等ノ地位ニ背馳スルモノナリ故ニ原裁判所ニ於テ上告者カ買米四
百石ハ賣米ヲ買理メサルヲ以テ賣買兩立シタリト言渡シタルハ決テ不當ノ裁判ニ非ス
トス

第二條

上告者ハ再ヒ前條被上告者ノ口供ヲ援引シ買買米証據米金ヲ以テ彼此流用シ得ルノ証蹟
ナリト申陳スレモ本訴ニ流用セント欲スル質手形米ノ不正不實ニ非ルヲ證明スルヲ能ハ
スシテ原裁判所カ與ヘタル第二條ノ判文ニ對シ不當ナリト論スルヲ得ス

第三條

原裁判所ニ於テ上告者ハ明治十一年八月二日ニ當テ判然違約ト認定シタル点ニ對シ明治
十一年七月七日ヨリ同三十一日マテ屢追証據金ヲ促サレ毎回上告第廿一號証ニ承諾ノ認
印ヲシタルハ別ニ米金等ヲ差入レサリシハ上告第二第三號証追金欄内ニ被上告者カ入金
ノ記載ナキ事蹟ヲ証シ以テ明治十一年八月二日ニ於テ違約タルヘキ理由ナシト主張スレ
モ當時上告者カ差入レタル抵當米ニ過剩アリテ且之ヲ被上告者カ追金ニ流用ノヲ承諾
シタル証據ヲ舉ケタルニ非レハ本條ノ判決ヲ以テ不當ト爲スヲ得ス

第四條

上告者ハ其第二號証ヲ以テ明治十一年七月五日ヨリ十三日ニ至ルノ間都合ニ依リ賣買ヲ
爲サレリシ既往ノ事蹟ニ依リ其年八月二日以後賣買セサルノ例証トスレモ原裁判所ハ其
都合ニ因ルノ日時ニ對スル判決ニ非ス明治十一年八月二日ヨリ仲買營業ヲ差止メタリト
ノ被上告者カ口供ニヨリ其日以降上告者ノ賣買ニ關セサル蹤跡ニ徴シテ事實ノ推測ヲ下
シタルモノナレハ之ヲ一怪一驚ニ付シ不法不盡ト謂テ得ス

第五條

上告者ハ一步ヲ讓リ違約者タルノ地位ニ立ツモ上告第一第三第四號ノ証據米金ヲ本場直
段ニ引充テ其番外第十五號仕譯書ノ如ク千八百三拾餘圓ノ過金アルヲ明カナレハ之ヲ返

還スヘキ旨ノ判決ヲ與フヘキ筋ナリト論辨スレモ抑モ本按起訴ノ初メヨリ上告者ノ請求
スル處ハ被上告者カ不當ノ處分ヲ取消シ依舊仲買營業ニ從事セシメテ欲スルニアリ夫然
リ故ニ其訴外ニ渉ル過金ノ點ニ裁判ヲ與ヘサルハ固ヨリ法理ノ然ラシムル處之ヲ以テ不
法ト爲スヲ得ス

第六條

違約者ヲ處スルニ該リ縱令數日ノ遷延アリモ必竟米商會社役員即チ被上告者ノ權内ナレ
ハ處分當日ノ遲速ヲ以テ違約ト否トテ論定スヘキモノニ非ス又下落シタル八月九日ノ相
場ヲ以テ騰貴シタル八月二日ノ相場ニ比照スヘキ理由ナシトス然則當時ノ處分ヲ以テ正
當ナリト認定シタル原裁判所ノ裁判ヲ以テ不當ナリト謂フヲ得サルモノトス

判決

右辨明ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキ者也
第百廿三號

○判文(明治十四年十二月十九日上告)
明治十五年四月廿五日申渡

上告者

栃木縣下野國梁田郡羽蒔村
七十六番地平民
木村 福太郎
同縣同國足利郡山下村百五
十六番地平民亡忠助相續人

隆三郎事

岡 島 忠 助

被上告者

質地請戻裁判取消ヲ求ムル一件東京上等裁判所不法トスル上告ニ對シ辨明及判決ヲ與フル
左ノ如シ

辨明

本案上告ノ要ハ明治十三年五月三日控訴原告タル被上告岡島忠助ハ其年七月二十四日死
シタル後相續人ヨリ控訴繼續願ヲ差出シタルモノニ非ルナリ且亡忠助生存中委任シタル
部理代人齋藤松三ハ代言人ニ非ルナリ然ルニ之レヲ代言ト誤認シ死セル忠助ニ向テ覆審
判決ヲ下サレタル原裁判所ノ裁判ハ無効ナルカ故ニ其取消ヲ敬慎請願シタルニ之ヲ取消
スヘキ理由ナシト言渡サレタルハ不法ナルヲ以テ前裁判ヲ破毀セラレシメテ要求スルト
云ニアリ仍テ原書類ヲ調査スルニ明治十三年五月三日岡島忠助カ控訴シタル場合齋藤松
三ヲ以テ代人トシタルコトハ上告者モ異論ナキモノナリ而シテ忠助カ明治十三年七月二十
四日(即控訴)死亡シタルモ明治十四年一月五日(尙控訴)其相續人隆之助ヲ岡島忠助ヨリ
更ニ齋藤松三ヲ以テ代言人ト定メ控訴繼續ノコト届出タル書面ハ原書類中ニ保存セリ又
其齋藤松三カ代言ノ免許ヲ得タルハ明治十三年八月九月間ニアリシコトハ上告者カ明言スル
處ニ非スヤ既ニ此免許ヲ得タル代言人ヲ以テ死セル忠助カ相續人岡島忠助ヨリ届書ヲ差
出シタル上ハ原裁判所ニ於テ裁判宣告シタル岡島忠助ハ彼ノ死亡セル忠助ニ非スシテ相
續者タル岡島忠助ナルヲ知ルヘシ又亡忠助カ代人タル齋藤松三カ代言人タル資格ヲ備フ

ルヲモ亦知ルヘキナリ故ニ原裁判所ノ裁判ハ名實完全ノモノニシテ決テ不法トシテ取消
ヲ求ムヘキモノニ非ストス

判決

右辨明ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキ者也

第百廿四號

○判文(明治十四年六月二日上告)
(明治十五年四月廿六日申渡)

上告人

滋賀縣近江國坂田郡平方村
惣代兼平民

横 田 久 彌

同

同縣同國同郡同村惣代兼横

田彌平河合兵助代言人

東京府神田區猿樂町二番地

寄留福岡縣士族

齋 藤 友 徳

滋賀縣近江國坂田郡平方村

徳勝寺住職同縣士族

田 村 萬 安

被上告人

貸地取戻ノ一件大阪上等裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトシ破毀ヲ求ムル上告ノ要領左ノ如シ

第一條

原裁判所ノ判文ニ(然而ノ該書中ニ今ノ寺院ハ生駒神社ノ界内ナリトアルモノナレハ本
訴ノ論地ハ生駒社ノ所有ナルヲ証スルニ足ル云々申立ルト雖モ該書ハ仮令博識宏才ナル
學士ノ著書ニモセヨ正當ノ權ヲ有シタル官署ノ簿冊ト云フニアラス亦原被告間ノ契約証
書ニモアラサレハ本訴貸地ノ証左ト爲スヲ得サルモノトス)トアレモ上告第六號証ハ元
來正當ノ權ヲ有シタル官署ノ簿冊ニアラス又原被告間ノ契約証ニアラサルモ往古同國
ノ學士カ近江一國ノ輿地ヲ畧記シタルモノニシテ同國一般土地景況ノ如何ヲ知ルニ足ルモ
ノコソ仮令正當ノ權ヲ有シタル官簿ニアラス亦原被告間ノ契約証ナラサルニモセヨ原
被告間ニ關係ナキ古人カ公中ノ心思ヲ以テ著述シタル書籍ナレハ被上告者ニ於テ之レニ
對スル古書等ノアラサル以上ハ往古ヨリ上告者生駒神社ノ界内ニ被上告徳勝寺ヲ建設シ
タル情况ヲ知ルニ足レリ故ニ上告第六號証ハ上告者ニ於テ被上告者徳勝寺ハ該地所ヲ貸
付シタル証據ノ端緒トシテ提出シタルハ決而無益ノ証明ニアラス上告者一己ノ權利ヲ保護
スヘキ間接ノ要具ナリト思考ス

同判文ニ(仮リニ之ヲ証左ト爲シテ論スルモ該書中ニ然カノ後井伊掃部頭今ノ地ニ移ス
トアルヲ以テ當時徳勝寺ハ其領主タル掃部頭ノ命令ヲ以テ移轉シタルヤ明カナレハ其移
轉以前ニ在テハ其屋敷地ハ生駒神社ノ界内ナルモ領主ナルモノハ其領内ニアル際地ノ如
キハ專ラ與奪ノ權ヲ有スルモノナレハ焉ソ其領主カ生駒ノ社地ヲ以テ徳勝寺ヘ與ヘシ
ナキヲ知ランヤ云々)辨明セラレタリ抑モ除地ノ如キハ必ス官ノ檢地帳アリテ之レヲ明

記シ村役場ニ於テモ必ス記載アルモノニ非レハ何ヲ以テカ之レヲ証セシヤ今被上告者カ第十三號証ヲ暫ク有効ノモノトシ返リニ其一例ヲ舉ケンニ被上告人カ提供スル所ノ第十三號証中長濱町ノ内トアリ其長濱町ノ内古殿町ノ檢地帳ノ如キモ則其村方ニ現然往古ヨリ明記ノ存スルアリ今被上告者ハ從來其寺ニ除地ニケ所ナ所有スト云ヒ即チ其一ハ長濱町ノ内古殿町ニアリ其一ハ平方村ニアリト云ヘリ而シテ其一ハ例規ニ從テ明記ノ存スルアリ平方村ノ如キハ古來除地ノアルナキヲ以テ官廳并ニ村役場ノ檢地帳ニ於テモ除地ハ名義ノ存スルナシ故ニ官モ亦地券証ヲ村方ニ下附セラレタリ則チ是レヲ以テ被上告者ノ城郭ト恃ム除地タルノ証ハ素ヨリ架空ニ屬スルモノナレハ豈其所有ヲ占ムルヲ得ヘケンヤ且被上告者ハ第十三號証ヲ以テ該地ハ秀吉ヨリ寄付セラレタル地所ナリ又々第四號証ヲ以テ秀勝ヨリモ寄附セラレタル地所アルナリ如斯事實アルヲ以テ平方村民神ノ地ヲ借り受クル等ノ理由ナキハ辨テ竣タスノ明瞭ナリト陳スルモ被上告第十三號証ハ果ノ爭論地ト指定スヘキ確証ニアラス若シ該爭論地カ秀吉ヨリノ寄附地ナリトシ又被上告者ノ云フ如ク第四號証カ秀勝ヨリ寄付セラレタル証據ナリトセハ該爭論地モ同ク當時秀吉ヨリ寄附セラレタルノ際被上告者第四號証ト同一ナル証據ヲ被上告者カ有スヘキ筈ナルモ被上告者ハ其証ヲ有セサルノミナラス該地ノ除地ナラサルコトハ上告者カ明治十四年四月廿一日付ヲ以テ終審廳ニ上呈シタル辨駁書末項ニ且ツ被告証據書類ノ除地ノ証スヘカラサルハ明治十一年度被告ニ於テ本訴証據書類ヲ以テ除地ニセラレンコト滋賀縣廳ニ出願シタルニヨリ滋賀縣廳ハ種々取調ヘラレシモ除地タルノ確証無之上ハ願ノ趣キ難

及詮議候事ト指令セラレタルヲ以テ見ルモ明ラカナリ云々ノ如キ事實アルヲ以テ該地ハ除地ナラサルコト豈其弁ヲ要センヤ然ルニ被上告者カ提供スル所ノ數百年前ニアル情實ニ出タル架空ノ陳述ニ眩惑シ地方官ニ於テ下付セラレタル地券アル所以チモ不顧殊ニ維新後取結ヒタル確証ヲ無効トセラレタルハ固ヨリ法理ニ背キタルノ裁判ナリト信認ス

第二條

同判文ニ(以上弁明スルカ如ク明治四年以前ニ在テハ毫モ本訴ノ論地ハ生駒大明神ノ所有地ナリトノ証左ナク隨テ德勝寺ニ貸與シタリトノ証左ナキカ故ニ明治五年ニ取結ヒタル原告第一號証ノ契約ニ全ク無原因ニシテ先住職渡邊樵雲カ迷誤ニ出テタルモノト認定ス然而其原因ナキ契約ハ素ヨリ成立ツヘキ理由ナキヲ以テ原告第一號証ハ其効ナキモノトス)ト裁判セラレタリ抑モ被上告者德勝寺ニ於テハ明治四年以前上告村方ヨリ該地ヲ借受ケ借地料ヲモ拂ヒタルノ証跡アルヲ認メタルニ非ラサレハ先住職樵雲カ上告第一號証ヲ上告者ヘ差入ルノ理ナク仮令先住職ハ該寺往古ノ形狀ニ熟知セス全ク村方ヨリ借受ケタル事實ナキモノトセハ檀中ニ於テ之ヲ拒ムヘキハ普通ノ道理ナルコト該証中ニ連署セラル如ク既ニ檀家惣代富田加平外二名ノ記名アルコトアラスヤ斯レ往古ヨリ被上告者カ上告者ノ土地ヲ借受シタルコトヲ認メタルノ明証ナリ且ツ原裁判所ハ先住職樵雲カ迷誤ニ出テタルモノト認定セラレタルモ迷誤ヲナシタリト思料スヘキ事實アルカ或ハ迷誤ヲナサシメタル不正ノ確証アルコト非ス管ニ迷誤アリシナラントノ空想ヲ以テ模糊タル往古ノ情實ヲ據トシ確然新締シタル人民互相ノ契約ヲ取消シ無効トスヘキ道理ナキハ今上告人カ喋

々ヲ要セス故ニ原裁判所カ上告第一號証ノ契約ヲ以テ無原因ナリト判定セラレタルハ探証ノ法ヲ誤認セラレタル不法ノ裁判ナリト思料セリ

第三條

同判文ニ〔又原告第五號地券ハ原告第一號証ノ契約ニ付從テ成立タルモノナルカ故ニ原告第一號証カ無効ナルキハ隨テ該地券モ亦無効ナリトス云々〕ト判定セラレタリ元來被上告者ハ往古ヨリノ事跡ヲ縷陳シ該地ハ全ク除地ナリシナリ故ニ往古ヨリ該地ヲ所有シタルナリト然ルニ上告者ハ上告狀ノ第一條中第二項ニ陳ヘタル如ク該村中ニ除地ノナカリシコト明瞭ナリ又被上告者ハ往古ヨリ該地ノ所有ヲナシタリトセハ明治十二年中地券下付ノ際ニ至リ被上告者ハ自身ノ名義ヲ以テ其下付ヲ乞フヘキニ却テ上告者ヘ下附相成リタルハ地方廳ニ於テモ該地往古ヨリノ情況ヲ詳細調査シ生駒神社ノ社地ヲ被上告者カ借受ケタル實跡アリト認メシレタルニヨリ異儀ナク上告者ヘ上告第五號証ノ如ク地券証下附セラレタリ夫レ然リ上告者ハ上告第一號証ヲ有スルノミナラス上告第五號証ノ如ク既ニ地券証ヲモ所有スルヲ以テ上告者ノ所有地ヲ被上告者ヘ貸付シタルナリト痛論シタルハ眞ノ事實ノ陳述ニシテ他ニ証據ヲ需メスノ眞ノ所有主タルヲ確定セリ故ニ原裁判所ニ於テ「第一號証カ無効ナルキハ隨而該地券モ亦無効ナリトス」ト判定セラレタルハ不法ノ裁判ナリト確信ス

第四條

同判文末項ニ〔右之理由ナルヲ以テ原告ニ於テハ被告ニ對シ本訴貸地取戻ノ請求ヲナスヘキ權利無之者也〕ト判決セラレタリ上告者ハ前條ニ辨明シタル如ク原裁判所ノ裁判ハ到底探証ノ法ヲ誤認セラレタル不法ノ裁判ト思料致シ候間原裁判所ノ裁判ヲ破毀セラレシメ奉請願候也

退申書 (明治十五年一月十二日)

客年中上告補充ノ要領書上呈致置候處尙ホ退伸致度廉有之ニ付左ニ上申候
原裁判所判文中前ニハ爭論地ヲシテ大明神屋敷ハ〔當時該地ハ屋敷地ニシテ田地ニアラス〕ト前後不タルコト明瞭ナリ云々〕トイヒ又其後ニ〔本訴論地ハ屋敷地ニシテ田地ニアラス〕ト前後不適合ノ判語ヲ下サレタルハ原裁判所カ未タ地所ノ何タルヲ審理セスシテ漫リニ被上告等カ口頭ノ陳述ニシテ拘泥シ上告人ノ確証ヲ破却セラレタルハ審理ヲ盡サレサル不法ノ裁判ト思料致候間本件破毀ヲ求ムル退伸ノ要領トシテ上申仕候也

上申書 (明治十五年四月十一日)

被上告人ハ被上告第廿四號証ヲ提出シ生駒神社ハ該寺ノ鎮守社ノ如ク申立レテ該証ハ被上告人カ全ク作爲シタル証書ナルコトハ今上告人カ喋々ヲ要セスシテ明晰ナリ何トナレハ該書末尾ニ年號月日ノ記載モナク甚タ不完全ノ証據ナルノミナラス該証ノ明文ニ〔當山鎮守生駒大明神〕云々トアリ然ルニ被上告人ハ寬文年度ニ今ノ地ニ移轉シタリト云ヒ先ツ其陳述ヲ暫ク事實ナリトシテ論センニ果シテ寬文年度ニ該寺ヲ移シ生駒神社ヲシテ鎮守社トナシタルモノナラシメハ生駒神社ハ寬文年度ヨリ以後ニ建設スヘキハ當然ナルコト上告第三號証ノ如ク寬文年度ヨリ數十年前則慶長年度ニ再興シタルヲ徴スヘキ憑據ノ

現存スルアレハ決シテ生駒神社ハ被上告寺ノ鎮守ニ非ラスシテ該寺ハ生駒神社ノ社内ニ建設シタルコトハ論ヲ俟タサルナリ夫レ被上告人ハ敷號ノ証據物ヲ捧呈シタルニ確實ナル証書ノ乏シキコトハ該一点ヲ以テ視ルモ明カナルニ原裁判所ハ被上告第廿四號証ハ被上告人カ作爲シタル証據ナルコト前陳ノ如クナルニ其作爲シタル事實ヲモ審究セラレヌシテ妄リニ上告人カ趣旨ヲ破却セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト思考ス

辨明

第一條

凡ソ著述ノ事タル多シハ其著者ノ思想ト其見聞スル處等ヲ以テ之ヲ紙上ニ載スルモノナレハ其各著者ノ意ニ依テ其事柄モ差違ナキヲ保シ難キモノナリ今此近江國輿地志略ノ如キモ一學士ノ著書ニシテ其引書ハ之ヲ何々ノ官簿ニ取リタリ其事柄ハ何々ノ証據ニ基キタリトノ廉見ルヘキモノアルニ非レハ盡ク此書ヲ信スルヲ得サルモノトス左スレハ原裁判所カ官署ノ簿冊ト云ニモアラス原被問ノ契約証書ニモアラストシ之ヲ証據ノ端緒ニタモ採用セサリシハ相當ナリ

上告者ハ原裁判所カ右輿地志略文中一部分ノ語ヲ仮用シテ領主カ生駒ノ社地ヲ以テ德勝寺(被上告者)ヘ與ヘシコトナキヲ知ランヤ云々トノ申渡ニ對シ被上告第廿四號十三號証ヲ駁シ以テ論スル所アレハ原裁判ハ固ヨリ右輿地志略ナルモノハ本訴ノ証據ニ立タサルモノト之ヲ排棄シタル上暫ク之ヲ仮用シ論ヲ設タルモノニシテ之ヲ以テ本訴ヲ裁決スルノ適証トセシニ非サレハ其仮設ノ廉ヲ取テ破毀ヲ求ムルノ原由トナスヲ得サルモノトス抑原裁判

書類ニ就キ本訴ノ顛末ヲ取調ルニ被上告者ノ証據物モ被上告者カ論地ヲ所有スルノ適証ニ非ス又上告者ノ証據物モ亦原裁判文中掲記ノ如ク上告村共有ノ適証トナスヲ得サルモノニシテ之ヲ要スレハ双方共適切ノ証據ナキコトナリ然リ而シテ上告者ハ明治四年被上告者先住樵雲ヨリ借地証ヲ受領シタル外其以前別ニ借地証ヲ有スルニ非ス又借地料ヲ受取タルノ証據一モアルコトナリ然ルニ被上告者ハ百有餘年來(德勝寺カ論地ニ移住セシコトニ被上告者ハ寛文)今日ニ至ル迄論地上ニ大堂宇ヲ建設シ居住ヲ占メタルモノナレハ之ニ對シ借地料ヲ求メ或ハ之ヲシテ立除シメントスルニハ其貸地タル適証無レハアラサルナリ然ルニ上告者ハ其適証ナクシテ除地有無等ノ論ヲ主張シ今更之ヲ争フコトヲ得サルモノトス然レハ原裁判所ニ於テ上告人カ貸與ノ証ナキト被上告者カ該地ニ永住スル等ノ事跡ヲ推考シ上告者カ地券ヲ受タルヲモ不顧且維新後取結タル甲第一號証ヲモ無効トセシハ事實ニ相當セシ裁判ニシテ法理ニ背キタル裁判ニ非トス

但シ仮令上告村ニ除地ナシトスルモ本文辨明ノ通り上告者ヨリ被上告者ヘ論地ヲ貸與ヘタル証ナク又上告第二號証檢地帳中ノ大明神屋敷カ論地ニ適合セサル以上ハ除地無キト云一点ヲ以テ論地ヲ被上告者ヘ貸與セシモノナリト認ルヲ得サルモノトス

第二條

上告第一號借地証書ハ先住職渡邊樵雲并ニ檀家總代ノ連署ナルモ明治四年以前ヨリ被上告德勝寺カ論地ヲ上告村ヨリ借受居リタルノ証ナク且ツ右連署各名カ舊來借地ナルノ証據アルヲ知リテ連署セシ廉見ルヘキモノナケレハ右第一號ヲ差入タルノミヲ以テ古來ノ

借地ナリト云フ得サル者トス左スレハ原裁判所カ右一號証ヲ先住職樵雲カ迷誤ニ由タル無原因ノ契約ニシテ其効ナシトシ隨テ上告第五號村方共有ノ地券モ無効ナリト申渡セシハ不當ニ非ストス

第三條

上告第三條四條并ニ補充要領書ハ第一二條ノ辨明ニ就テ解得スヘシ依テ別ニ辨明セス

第四條

明治十五年一月十二日付上告追申書ニ付之ヲ按スルニ原判文中前ニ「該地ハ屋敷地ニシテ畑地タルヲ明瞭ナリ」ト云シハ上告人第二號証中生駒大明神ノ所有地ナリト申立シ地面ヲ指テ畑地ト云タルモノナリ後ニ「本訴訟地ハ屋敷ニシテ田地ニアラス」ト云シハ即チ現今德勝寺ノ居住シアル地面ヲ指タルモノナレハ同一ノ地所ヲ指シテ或ハ畑地ト云ヒ或ハ田地ト云シニ非サレハ前後不適合ナル廉ナシ能ク原判文ヲ熟視スヘシ
明治十五年四月十一日付上申書ニ付之ヲ按スルニ本件ハ貸地取戻ノ詞訟ニシテ生駒神社ノ争ニ非ス左スレハ生駒神社勸請ノ前後ハ本訴貸地如何ニ必要ノ影響ナキモノナレハ原裁判所カ被上告第廿四號証ヲ審究セサリシハ不當ニ非ストス

判決

右ノ筋合ナルヲ以テ大阪上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノナリ

第百廿五號

○判文(明治十四年十一月廿四日上告) 同(十五年四月廿六日申渡)

上告人

千葉縣下總國香取郡津ノ宮村
平民久保木直吉代官人
東京府日本橋區蠣殼町二丁目
十七番地平民

浦田治兵衛

被上告人

千葉縣下總國香取郡津ノ宮村
平民柳田幸右衛門外二百八十
八名總代人同村平民
久保木伊右衛門
久保木利兵衛
久保木重右衛門

村持質地々引帳名義書替一件上告人ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ムル上告ノ要領左ノ如シ

抑モ本件ノ論地ハ遠ク寶曆八年ヨリ(上告第一號証)上告人(和訴被告)カ祖先ニ於テ該地ヲ買取り爾來數百年ノ久シキ之レヲ開墾シ且貢租ヲモ完納シ來リタリ然レモ該地ハ原ト村持ノ名稱ナルカ故ニ明治六年三月ニ至リ更ニ上告人外二名(久保木太郎兵衛)ニテ金七拾五圓ヲ差出シ買取りノ名義ヲ以テ其實村持ノ名稱ヲ上告人ノ名義ニ更正シタルナリ然リ而シテ之レヲ証スルニ上告人乙第二號乃至乙第五號証ノ如ク其明治六年三月ノ已前ニアリテ本件

論地ノ貢租ヲ完納シアリ若シ夫ノ明治六年三月ニアリテ更ニ被上告人(原告)等ヨリ本件論地ヲ質地ニ取リシ者トセハ焉ソ既往ノ貢租ヲシテ上告人カ負擔シタルノ道理アルヘカラス然ルニ原裁判所ハ此數箇ノ證據則乙第一號乃至乙第五號証ニ對シテハ一ツノ辨明ヲモ付セサリシハ蓋シ不法ノ裁判ト云ハスシテ何ソヤ而ノ判文ニ(抑モ地所賣買ノ如キハ其地券ヲ申受ケサル已前ハ必ス賣買ノ証書ナカルヘカラス)トアリ或ハ然リ然レモ本件ノ論地ニ就テハ既ニ乙第二號乃至乙第五號証ノ如ク明治六年三月ノ已前ニアリテ論地ノ貢租ヲ上告人ニ於テ完納シ置ケリ夫レ貢租ヲ上納スル者ハ抑モ所有者ニアラサルヨリハ之ヲ負擔スルノ義務ナキコトハ敢テ贅言ヲ俟タサルナリ况ンヤ明治九年地租改正ノ當時本件ノ論地ハ既ニ上告人先代久保木新五右衛門ノ所有名義ヲ以テ地引帳ノ調整モ相濟ミ其後明治十年十月十日上告人カ家督相續ニ據テ本件ノ論地ヲモ既ニ相續ヲ爲シタリキ是レ則チ被上告人カ原裁判所ヘ提供シタル甲第四號地引帳ニ由リ寔ニ以テ明ナリ且ツヤ地引帳ナルモノハ地租改正ニ際シ現地ニ就テ之レヲ点檢シタルモノナレハ所謂地券証ノ原帳ニシテ確乎動カス可キ者ニアラサルナリ由是觀之ハ本件論地ハ業已ニ上告人ノ所有ナルヤ知ルヘシ然ルニ原裁判所ハ判文ニ(所役場ニ備アリシ質地奥印帳中ニ(酉ヨリ午迄十ヶ年季金廿五圓ニテ質地云々)トアリ又名寄帳中ニ(酉ヨリ午迄質地)ト記載アリテ而シテ其帳簿タルヤ不正ニ成立タル証ナキ限リハ本訴訟論地ハ質地年季中ノ者ト判定ス)トアリ然レモ質地奥印帳ノ寫ナル者ハ上告人ノ毫モ與リ知ラサルノミナラス或ハ被上告人等カ容易ニ之ヲ調製シ得ヘキモノナレハ豈本件ノ証トナスノカアラシヤ然ルニ原裁判所ハ之レ

ヲ有効ノ証トナシ尙且ツ名寄帳ニ就テハ(不正ノ証ナキ限リハ)云々ト判定セラレタルハ最モ敬服シ能ハサルナリ何ントナレハ其名寄帳中(酉ヨリ午迄質地)ト記入シ而シテ上告人ノ實印ニ紛ラハシキ印影ノ玆ニ抑用シアルカ故ニ上告人ノ實印ト其名寄帳中ノ印影トハ同一ナルヤ否ヤノ点ニ付既ニ鑒定人ハ別印ナリトノ証言ヲ呈シタリキ然ハ則チ其名寄帳中ニアル押印ハ偽印ナルヤ明ケシ然ハ則チ是ヲ不正ト云ハスシテ何ソヤ然ルニ(不正ノ証ナキ限リハ)云々ト言渡サレタルハ蓋シ不法ノ裁判ナリト云ハサルヲ得サルナリ然レ而シテ抑モ實印ナルハ壹箇ヲ所持スルニ止マリ焉ソ二箇已上所持スヘキモノニアラサルコトハ敢テ論スル迄モナキモノナリ然レモ尙ホ自己ノ實印ハ一箇ニ止マルコトハ一層確メント考ヘ明治五年中調製シタル本村戶籍帳ノ正本ヲシテ千葉縣廳ヨリ取寄セ方ヲ情願シタルニ該帳ヲ取寄セラレズ咄嗟ニモ此結果ヲ達セラレズシテ裁判ヲ言渡サレタルハ之レ審理不尽ト云ハスシテ何ソヤ由是原裁判所ノ裁判ニハ服従スルコトヲ得サル所以ナリ前條ノ理由ニ付東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ適法ノ裁判アラソコト乞フ

尙明治十五年一月廿三日及ヒ明治十五年四月十五日付追申書ヲ以テ縷々申立アリ

辨明

本件上告ニ於テ原裁判ヲ不當ナリトスル要點ハ左ノ三項ナリトス

- 一 乙第一號乃至第五號証ヲ採用サレサリシトノコト
- 一 上告人カ論地ヲ買付セシ証ナシトサレシトノコト
- 一 名寄帳ヲ不正ノ証ニ非ストサレシトノコト

右第一項ヲ按スルニ乙第一號証ハ寶曆八年度彦左衛門ナル者ヨリ上告人ノ祖先新五右衛門ニ差入アル流地証文ナルモ其地所ノ字ハ子々田(上告追伸書ニハ子々田ト云)トアリテ畝歩ノ記載モ無之モノナレハ本訴論地ノ字掛リ川五畝廿四歩ヲ買得シテ之ヲ開墾セシ証トスルヲ得ス乙第二號証ハ元治元年ノ年貢請取覺書ニシテ内侍儀村田分トアリ乙第三四五號ハ年貢請取ノ記載ナキモ暫ク上告人ノ申立ニ隨ヒ右第二號証ト同シク年貢請取証トスルモ是亦村田分トアリ右四箇ノ証書共何レノ村田分ニ屬スル年貢ナルヤ本訴掛リ川地所ノ年貢ナリト見ルヘキ証ナク且ツ宛名ナキモノナレハ果シテ上告人カ其年貢ヲ上納シタルヤ之ヲ知ルニ由ナシ然レハ此等ノ証書ヲ以テ上告人カ本訴論地ノ貢租ヲ上納セシ証トシテ明治六年(上告人カ地所々有ノ名義)以前ヨリ論地ヲ所有セシ証憑トナスヲ得サルモノトス尙ホ年貢ノミナシ更ニセシト云年度(ノミナシ更ニセシト云年度)以前ヨリ論地ヲ所有セシ証憑トナスヲ得サルモノトス尙ホ上告書ニ憑リ本訴論地ヲ上告人カ所有スルト云願末ヲ推考スルニ上告人祖先カ寶曆八年度ニ於テ己ニ年貢諸役ノ付屬セシ土地(子々田)ヲ買取爾後幾多ノ勞力ヲ費シ開墾ヲモナシタル地所ヲ安政年度高入ノ節之ヲ村持ニシ殊ニ明治六年ニ於テ其村持ノ名稱ヲ上告人ノ名義ニ更改スル迄ノヲナルニ殆ント其地所ヲ新タニ買入ル、ニ等シキ金員ヲ再ヒ差出セシト云ハ事實ニ於テ有間敷ヲナリトス右旁ノ次第ナルニ依リ原裁判所カ乙第一號乃至第五號証ヲ採用セサリシハ不當ニ非ストス

但シ明治十五年四月十五日付追伸書ヲ以テ乙第一號証中〔子々田〕トアル地ハ中古掛リ川ト政稱セシ旨申立レ右ハ原裁判所ニ申立サル事柄ナルノミナラス其証據モアラサレハ之ヲ採用セス其他申立ノ事柄ハ本案辨明中ニ就テ了解ス可シ

右第二項ヲ案スルニ乙第二號乃至第五號証アルモ前條辨明ノ通り論地ノ貢租ヲ上納セシ証ト云テ得サルモノナレハ此等ノ証據アルヲ以テ論地ハ古來上告人ノ買得保有セシモノ也ト云テ得ス又上告人先代新五右衛門カ地引帳ニ調印シ而シテ上告人家督ヲ相續セシモ其調印ノコトハ本訴ノ起リシ理由ニシテ上告人カ從來之ヲ買得シテ所有セシ他ノ証據アルニアラサレハ只地引帳ニ調印セシノミナリテ本訴論地所有ノ証ト云テ得ス左スレハ原裁判所カ質地與印帳及ヒ名寄帳ニ酉ヨリ午迄(十ヶ年)質地ト記載アルヲ以テ之ヲ質地年季中ノモノナリト判定シテ上告人カ買得セシ証ナシト認シハ不當ニ非トス

但シ質地與印帳ノ寫ハ被上告人等ノ容易ニ調製シ得ヘキモノナレハ本件ノ証トナラスト申立レ被上告人等カ妄リニ調製セシ証據ヲ擧ケサル限リハ之ヲ公正ノモノトスヘキモノトス

第三項ヲ按スルニ名寄帳中西ヨリ午迄質地ト記入シアル部ニ押捺アル上告人印影ニ付鑒定人ノ上申書ヲ見ルニ甲第三號証名寄帳久保本新五右衛門ノ印影ト戸籍帳同人名下印影トハ同印ナリトアリ夫レ尙クモ役場ニ備ヘアル公正ノ両帳簿中ノ印影相符合セシ上ハ上告人カ差出シタル印鑑ト符合セサリシトテ其公正帳簿中ノ印ハ偽印ナリト云フヲ得ス(偽印タル事ノ明白)然レハ原裁判所カ名寄帳ハ不正ニ成立タル証ナキ限リハ云々ト申渡シタル上ハ格別ニ然レハ原裁判所カ名寄帳ハ不正ニ成立タル証ナキ限リハ云々ト申渡セシハ不當ニ非ス又上告人ハ明治五年戸籍帳ノ正本ヲ千葉縣廳ヨリ取寄方ヲ請願シタルニ該帳ヲ取寄ラレサリシハ審理不盡ナリト申立レ原裁判書類ヲ取調フルニ右戸籍帳取寄方ニ付千葉縣廳ノ回答書ニ右戸籍帳ハ其筋ヘ伺定ノ上加除等総テ區戸長ヘ爲取扱候間

備置ノ戸籍簿ハ参考不相成トアリ依テ原裁判所ハ戸長役場ヨリ之ヲ取寄セタル者ヲ以テ
鑑定等ノ用ニ供セシモノニシテ十分手順ヲ盡シタルモノナレハ之ニ對シ審理不盡ナリト
ノ上告ハ不相立モノトス

判決

右辨明ノ如クナルニ付東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス
但上告入費ハ上告人ヨリ辨納ス可シ

第百廿六號

○判文(明治十四年十一月廿四日上告)
明治十五年四月廿六日申渡
上告人

千葉縣下總國香取郡津ノ宮村

平民久保木徳次郎代理人

東京府日本橋區蠣壳町二丁目

十七番地平民

浦田治兵衛

千葉縣下總國香取郡津ノ宮村

平民柳田幸右衛門外二百八十

四名惣代人同村平民

久保木伊右衛門

久保木利兵衛

被上告人

久保木重右衛門

村持質地々引帳名義書替一件上告人ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ムル
上告ノ要領左ノ如シ

抑モ本件ノ論地ハ遠ク寶曆八年ヨリ久保木直吉久保木龜太郎(今般共々上告セ)等祖先ニ
於テ該地ヲ買取リ爾來數百年ノ久シキ之ヲ開墾シ且貢租ヲモ完納シ來リタリ然レモ該地
ハ元村持ノ名稱ナルカ故ニ明治六年三月ニ至リ更ニ其開墾人ノ相續人タル久保木直吉ノ
實父新五右衛門久保木龜太郎ノ實父太郎兵衛且ツ上告人ノ實父喜兵衛トニテ金七十五圓
ヲ差出シ買取リノ名義ヲ以テ其實村持ノ名稱ヲ上告人外二名(久保木新五右衛門)ノ名
義ニ更改シタル也然リ而シテ之レヲ証スルニ其久保木直吉久保木龜太郎等ニ於テハ明治六
年三月ノ己前ニ有テ本件論地ノ貢租ヲ完納シアリ若シ夫レ明治六年三月ノ當時上告人外
二名(外二名ハ則チ直吉龜太郎ヲ云フ)ニ於テ本件論地ヲ質地ニ取リシモノトセハ焉ソソ既往ノ貢租ヲシ
テ其直吉龜太郎等カ負擔シ居ルノ道理アルヘカラス然ルニ原裁判所ハ是等ノ審理ヲ遂ケ
ラレヌシテ其判文ニ「抑モ地所賣買ノ如キハ其地券ヲ申受サル己前ハ必ス賣買ノ証書ナ
カルヘカラス」ト言渡サレタリ然レモ本件ノ論地ニ就テハ既ニ其直吉龜太郎等ニ於テ明
治六年三月ノ己前ニ有リテ其貢租ヲ完納シアルハ之レ該地ヲ所有シ居ルノ明証ト云ハサ
ルヘカラス夫貢租ヲ完納スル者ハ抑モ所有者ニアラサルヨリハ之レヲ負擔スルノ義務ナ
キヲハ敢テ贅言ヲ俟タサルナリ然リ而シテ其所有者ナル久保木新五右衛門久保木太郎兵
衛ト共々上告人ハ其地代金ノ一部ヲ差出シ爾來之レヲ所有シ明治九年ニ至リ地租改正ノ

當時本件ノ論地ハ既ニ上告人ノ所有名義ヲ以テ地引帳ノ調整モ相濟タリキ是レ則チ被上告人カ原裁判所ヘ提供シタル甲第四號地引帳ニ由リ寔ニ以テ明ナリ且ツヤ地引帳ナル者ハ地租改正ニ際シ現地ニ就テ之ヲ點檢シタルモノナレハ所謂地券証ノ原帳ニシテ確乎動カス可キモノニアラサルナリ由之視之ハ本件論地ハ業己ニ上告人ノ所有ナルヤ知ルヘシ然ルニ原裁判所ハ判文ニ「所役場ニ備アリシ質地奥印帳中ニ酉ヨリ午迄十ヶ年季金廿五圓ニテ質地云々」トアリ又名寄帳中ニ「酉ヨリ午迄質地」ト記載アリテ而シテ其帳簿タルヤ不正ニ成立タル証ナキ限リハ本訴論地ハ質地年季中ノ者ト判定ス」トアリ然レハ質地奥印帳ノ寫ナルモノハ上告人ノ毫モ預リ知ラサルノミナラス或ハ被上告人等カ容易ニ之レヲ調製シ得ヘキモノナレハ豈本件ノ証トナスノ力アラシヤ然ルニ原裁判所ハ之レヲ有効ノ証トナシ尙且ツ名寄帳ニ就テハ「不正ノ証ナキ限リハ」云々ト判定セラレタルハ最モ敬服シ能ハサルナリ何ントナレハ其名寄帳中「酉ヨリ午迄質地」ト記入シ而シテ上告人ノ實印（上告人ノ父喜兵衛ノ印ヲ指）カ押用シアリト云フニヨリ上告人ノ實印ト同一ナルヤ否ニ付既ニ鑑定人ハ別印ナリトノ証言ヲ呈シタリキ然ラハ則チ其名寄帳中ニアル押印ハ偽印ナルヤ明ケシ然ハ則チ是ヲ不正ト云ハスシテ何ソヤ然ルニ「不正ノ証ナキ限リハ」云々ト言渡サレタルハ蓋シ不法ノ裁判ト云ハサルヲ得サルナリ然リ而シテ抑實印ナルモノハ壹箇ヲ所持スルニ止マリ焉ソ二箇己上所持スヘキモノニアラサルヲハ敢テ論スル迄モナキモノ也然レハ尙自己ノ實印ハ壹箇ニ止マルヲ一層確メント考ヘ明治五年中調製シタル本村戸籍帳ノ正本ヲシテ千葉縣廳ヨリ取寄セ方チ情願シタルニ該帳ヲ取寄セラレズ咄嗟ニモ此

結果ヲ達セラレシテ裁判ヲ言渡サレタルハ是レ審理不盡ト云ハスシテ何ソヤ由是原裁判所ノ裁判ニハ服従スルヲ得サル所以ナリ

前條ノ理由ニ付東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ適法ノ裁判アラシムヲ乞フ
辨明

本件上告ニ於テ原裁判ヲ不當ナリトスル要点ハ左ノ三項ナリトス

一久保木直吉久保木龜太郎等カ明治六年三月（上告人外二名カ論地所有ノ名義ヲ更改シタリト云年度）前論地ノ貢租

ヲ完納シタル事ヲ審理サレサリシトノコト

一上告人カ論地ヲ買得セシ証ナシトサレシトノコト

一名寄帳ヲ不正ノ証ニ非ストサレシトノコト

右第一項ヲ按スルニ久保木直吉カ納租ノ証トスル乙第二號証ハ元治元年ノ年貢請取覺書ニシテ内壹俵村田分トアリ乙第三四五號ハ年貢請取ノ記載ナキモ暫ク直吉ノ申立ニ隨ヒ右第二號証ト同シク年貢請取証トスルモ是亦村田分トアリ又龜太郎カ納租ノ証トスル乙第二號モ亦村田分御年貢トアリ右等ノ証書共何レノ村田分ニ屬スル年貢ナルヤ掛リ川地所ノ年貢ナリト見ルヘキ証ナク且ツ宛名ナキモノナレハ果シテ直吉龜太郎カ其年貢ヲ上納シタルヤ之ヲ知ルニ由ナシ然レハ此等ノ証書ヲ以テ論地ノ貢租ヲ上納セシ証トシテ明治六年（上告人カ地所々有ノ名義ノミヲ更正セシト云年度）以前ヨリ論地ヲ所有セシ証トナスヲ得サルモノトス依テ原裁判所ハ右直吉龜太郎等カ納租ノ証據ト申立シ乙號數証ヲ以テ貢租ヲ負擔セシモノニ非ストシ之ヲ採用セサリシハ不當ニ非ストス

第二項ヲ按スルニ右乙號數証有モ前條辨明ノ通り論地ノ貢租ヲ上納セシ証ト云テ得ス
 仮リニ右數號証ハ直吉龜太郎カ貢租ヲ完納セシ証據トスルモ右兩人ハ往古ヨリ論地ヲ所
 有シ來リタリト唱ル者ナリ上告人ハ今新タニ論地ヲ買取タリト云人ニシテ直吉龜太郎ノ
 兩人ト上告人トカ論地ニ關スル頗ル其由來ヲ異ニスルモノナレハ右兩人カ貢租ヲ納メタ
 リト云証據物ヲ以テ直チニ上告人亦直吉外一名ト共ニ論地ヲ買得セシモノナリト云フチ
 得ス又上告人カ地引帳ニ調印セシモ其調印ノコトハ本訴ノ起リシ原由ニシテ上告人カ之ヲ
 買得セシ他ノ証據アルニアラサレハ只地引帳ニ調印セシノミヲ以テ本訴論地所有ノ証ト
 云テ得ス左スレハ原裁判所カ質地奥印帳名寄帳ニ酉ヨリ午迄(十ヶ年)質地ト記載アルヲ以
 テ之ヲ質地年季中ノモノナリト判定シテ上告人カ買得セシ証ナシト認シハ不當ニ非ト
 ス

但シ質地奥印帳ノ寫ハ被上告人等ノ容易ニ調製シ得ヘキモノナレハ本件ノ証トナスノ
 カナシト申立レ被上告人等カ妄リニ調製セシ証據ヲ擧ケサル限リハ之ヲ公正ノモノ
 トスヘキモノトス

第三項ヲ按スルニ名寄帳中西ヨリ午迄質地ト記入シアル部ニ押捺アル上告人印影ニ付鑿
 定人ノ上申書ヲ見ルニ甲第三號証名寄帳久保木喜兵衛ノ印影ト戸籍帳同人名下印影トハ
 同印ナリトアリ夫レ苟クモ役場ニ備ヘアル兩帳簿ノ印影相符合セシハ上告人カ差出シ
 タル印影ト符合セサリシトテ之ヲ以テ僞印ナリト云テ得ス(僞印タル事ノ明白)然レハ原
 裁判所カ名寄帳ハ不正ニ成立タル証ナキ限リハ云々ト申渡セシハ不當ニ非ス又上告人ハ

明治五年戸籍帳ノ正本ヲ千葉縣廳ヨリ取寄方ヲ請願シタルニ該帳ヲ取寄ラレサリシハ審
 理不盡ナリト申立レ原裁判所書類ヲ取調フルニ右戸籍帳取寄方ニ付千葉縣廳ノ回答書
 ニ右戸籍帳ハ其筋ヘ伺定ノ上加除等總テ區戸長ヘ爲取扱候間備置ノ戸籍簿ハ參考ニ不相
 成トアリ依テ原裁判所ハ戸長役場ヨリ之ヲ取寄セタルモノヲ以テ鑑定等ノ用ニ供セシモ
 ノニシテ十分手順ヲ盡シタルモノナレハ之ニ對シ審理不盡ナリトノ上告ハ不相立モノト
 ス

判決

右辨明ノ如クナルニ付東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀ス可キ理由ナキモノトス
 但上告入費ハ上告人ヨリ辨納ス可シ

第百廿七號

○判文(明治十四年十一月廿四日上告)
 (明治十五年四月廿六日申渡)
 上告人

千葉縣下總國香取郡津ノ宮村
 平民久保木龜太郎代官人
 東京府日本橋區蠣壳町二丁目
 十七番地平民

浦田治兵衛

千葉縣下總國香取郡津ノ宮村
 平民柳田幸右衛門外二百八十

被上告人

四名惣代人同村平民
 久保木伊右衛門
 久保木利兵衛
 久保木重右衛門

村持質地々引帳名義書替一件上告人ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ル上告ノ要領左シ如シ

抑モ本件ノ論地ハ遠ク寶曆八年ヨリ(上告第一號証)上告人(扣訴被告)カ祖先ニ於テ該地ヲ買取り爾來數百年ノ久シキ之レヲ開墾シ且貢租ヲモ完納シ來リタ然レモ該地ハ原ト相持ノ名稱ナルカ故ニ明治六年三月ニ至リ更ニ上告人外二名(久保木新五右衛門)ニテ金七拾五圓ヲ差出シ買取りノ名義ヲ以テ其實村持ノ名稱ヲ上告人ノ名義ニ更正シタルナリ然リ而シテ之レヲ証スルニ上告人乙第二號証ノ如ク其明治六年三月ノ己前ニアリテ本件論地ノ貢租ヲ完納シアリ若シ夫レ明治六年三月ニアリテ更ニ被上告人(扣訴原告)等ヨリ本件論地ヲ質地ニ取リシ者トセハ焉ソソ既往ノ貢租ヲシテ上告人カ負擔シ居ルノ道理アルヘカラス然ルチ原裁判所ハ此乙第一號乙第二號証ニ對シテハ一ツノ辨明ヲモ付セサリシハ蓋シ不法ノ裁判ト云ハスシテ何ソヤ而シテ判文ニ(抑モ地所賣買ノ如キハ其地券ヲ申受ケザル己前ハ必ス賣買ノ證書ナカルヘカラス)トアリ或ハ然リ然レモ本件ノ論地ニ就テハ既ニ乙第二號証ノ如ク明治六年三月ノ己前ニアリテ論地ノ貢租ヲ上告人ニ於テ完納シ置ケリ夫レ貢租ヲ完納スルモノハ抑モ所有者ニアラサルヨリハ之ヲ負擔スルノ義務ナキコトハ敢テ贅言ナ

俟タサル也況ンヤ明治九年地租改正ノ當時本件ノ論地ハ既ニ上告人先代久保木太郎兵衛ノ所有名義ヲ以テ地引帳ノ調査モ相濟ニ其後明治十二年七月中上告人カ家督相續ニ據テ本件ノ論地ヲモ既ニ相續ナシタリキ是レ則チ被上告人カ原裁判所ニ提供シタル甲第四號地引帳ニ由リ寔ニ以テ明ナリ且ツヤ地引帳ナルモノハ地租改正ニ際シ現地ニ就テ之ヲ点檢シタルモノナレハ所謂地券証ノ原帳ニシテ確手動スヘキモノニアラサルナリ由是視之ハ本件論地ハ業己ニ上告人ノ所有成ヤ知ル可シ然ルニ原裁判所ハ判文ニ「所役場ニ備ヘアリシ質地與印帳中ニ酉ヨリ午迄十ヶ年季金廿五圓ニテ質地云々」トアリ又名寄帳中ニ酉ヨリ午迄質地ト記載アリテ而シテ其帳簿タルヤ不正ニ成立タル証ナキ限リハ本訴論地ハ質地年季中ノモノト判定ス」トアリ然レモ質地與印帳ノ寫ナルモノハ上告人ノ毫モ與リ知ラサル而已ナラス或ハ被上告人等カ容易ニ之ヲ調製シ得ヘキモノナレハ豈本件ノ証トナスノ力アラシヤ然ルニ原裁判所ハ之レヲ有効ノ証トナシ尙且ツ名寄帳ニ就テハ「不正ノ証ナキ限リハ」云々ト判定セラレタレモ該帳ニ押捺シタル印影ハ上告人ノ實印ニアラサルノミナラス該名寄帳ハ既ニ盜難ニ罹リ紛失セシ旨村吏ヨリ原裁判所ニ申立アルコト非スヤ然ハ則該帳ニ押捺シタル印影ト上告人ノ實印ト同一ナルヤ否ノ鑒定モナク直ニ上告人ニ對シ「不正ノ証ナキ限リハ」云々ト言渡サレタルハ蓋シ不法ノ裁判ト云ハサルヲ得サル也然リ而シテ抑モ實印ナル者ハ壹箇ヲ所持スルニ止マリ焉ソソ二箇以上所持スヘキモノニアラサルコトハ敢テ論スル迄モナキモノナリ然レモ尙自己ノ實印ハ壹箇ニ止マルコトヲ一層確メント考ヘ明治五年中調製シタル本村戶籍帳ノ正本ヲシテ千葉縣廳ヨリ

取寄セ方ヲ情願シタルニ該帳ヲ取寄セラレズ咄嗟ニモ此結果ヲ達セラレズシテ裁判ヲ言渡サレタルハ之レ審理不尽ト云ハスシテ何ソヤ由是原裁判所ノ裁判ニハ服従スルコトヲ得サル所以ナリ

前條ノ理由ニ付東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ適法ノ裁判アラソコトヲ乞フ

辨別

本件上告ニ於テ原裁判ヲ不當ナリトスル要點ハ左ノ三項ナリトス

- 一 乙第一二號証ヲ採用サレサリシトノコト
- 一 上告人カ論地ノ買得セシ証ナシトサレシトノコト
- 一 一名寄帳ヲ不正ノ証ニ非ストサレシトノコト

右第一項ニ按スルニ乙第一號証ハ寶曆八年度多左衛門ナル者ヨリ上告人ノ祖先太郎兵衛ニ差入タル流地証文ナルモ地所ノ字畝歩等ノ記載モ無之モノナレハ本訴論地ノ字掛リ川五畝廿四歩ヲ買得シテ之ヲ開墾セシ証トスルヲ得ス乙第二號証ニハ村田御年貢トアルモ何レノ村田分ニ屬スル年貢ナルヤ本訴掛リ川地所ノ年貢ナリト見ルヘキ証ナク且ツ宛名ナキモノナレハ果シテ上告人カツノ年貢ヲ収メタルヤ之ヲ知ルニ由ナシ然レハ右ノ証書ヲ以テ上告人カ本訴論地ノ貢租ヲ上納セシ証トシテ明治六年(上告人カ地所所有ノ名義ノミチ更正セシト云年度)以前ヨリ論地ヲ所有セシ証トナスヲ得サル者トス尙ホ上告書ニ憑リ本訴論地ヲ上告人カ所有スルト云領末ヲ推考スルニ上告人祖先カ寶曆八年度ニ於テ己ニ年貢諸役ノ付屬セシ土地(乙第一號証ノ土地)ヲ買取り爾後幾多ノ勞力ヲ費シ開墾ヲモナシタル地所ヲ安政年度高入ノ

節之ヲ村持ニシ殊ニ明治六年ニ於テ其村持ノ名稱ヲ上告人ノ名義ニ更改スル迄ノコトナルニ殆ント其地所ヲ新クニ買入ル、ニ等シキ金員ヲ再ヒ差出セシト云ハ事實ニ於テ有間敷コトナリトス右旁ノ次第ナルニ依リ原裁判所カ乙第一二號証ヲ採用セサリシハ不當ニ非ストス

右第二項ヲ按スルニ乙第二號証アルモ前條辨明ノ通り論地ノ貢租ヲ上納セシ証ト云テ得サルモノナレハ此証據アルヲ以テ論地ハ古來上告人ノ買得保有セシモノナリト云テ得ズ又上告人先代太郎兵衛カ地引帳ニ調印シ而シテ上告人カ家督ヲ相續セシモ其調印ノコトハ本訴ノ起リシ理由ニシテ上告人カ從來之ヲ買得シテ所有セシ他ノ証據アルニアラサレハ只地引帳ニ調印セシノミヲ以テ本訴論地所有ノ証ト云テ得ス左スレハ原裁判所カ質地與印帳名寄帳ニ酉ヨリ午迄(十ヶ年)質地ト記載アルヲ以テ之ヲ質地年季中ノモノナリト判定シテ上告人カ買得セシ証ナシト認メシハ不當ニ非トス

但シ質地與印帳ノ寫ハ被上告人等ノ容易ニ調製シ得ヘキモノナレハ本件ノ証トナラスト申立レト被上告人等カ妄リニ調製セシ証據ヲ擧ケサル限リハ之ヲ公正ノモトスヘキモノトス

第三項上告人カ不法トスル趣意ハ名寄帳ニ押捺シアル印影ト上告人ノ實印ト同一ナルヤ否ノ鑒定モナクシテ直チニ不正ノ証ナキ限リト申渡サレタルハ不法ナリト云ニ在レハ其名寄帳ノ盜難ニ罹リタルコトハ既ニ其筋ニモ届出アリテ被上告人等ニ於テ之ヲ提供セント欲スルモ能ハサル事柄ナレハ其之ヲ鑒定セシメントスルモ亦能ハサルコト也トス然リ而シ

右名寄帳ハ本訴ノ被上告人共ヨリ久保木直吉及ヒ久保木徳二郎ニ對スル控訴ニ付糞ニ原
 裁判所ニ於テ親シク該帳簿ヲ檢閲シ且鑑定人ノ申立ニ依リ久保木直吉外一名先代ノ印影
 ト戸籍帳ノ印影ト符合シ不正ノモノニ非スト看認タルヨリ本訴上告人先代ノ印影モ亦不
 正ノモノニアラスト類推シタルモノナリ而シテ該帳簿ト質地與印帳トハ論地ニ關シ其記
 載スル處相符合スルノミナラス其不正ニ成リ立タルノ證據無之モノナレハ
 ノ印影ハ偽印ナルヲ
 ノ明白セシ上ハ格別) 其鑒定ナキモ該帳簿ヲ真正ナリトスルニ妨ナキ者トス然レハ原裁
 判所カ名寄帳ハ不正ニ成立タル証ナキ限リハ云々ト申渡セシハ不當ニ非ス又上告人ハ明
 治五年戸籍帳ノ正本ヲ千葉縣廳ヨリ取寄方ヲ請願シタルニ該帳ヲ取寄セラレサリシハ審
 理不尽ナリト申立レモ原裁判所書類ヲ取調フルニ右戸籍帳取寄方ニ付千葉縣廳ノ回答書
 ニ右戸籍帳ハ其筋ヘ伺定ノ上加除等總テ區區長ヘ爲取扱候間備置ノ戸籍簿ハ參考ニ不
 成トアリ依テ原裁判所ハ戸長役場ヨリ之ヲ取寄セタルモノヲ以テ鑒定等ノ用ニ供セシモ
 ノニシテ十分手順ヲ尽シタルモノナレハ之ニ對シ審理不尽ナリトノ上告ハ不立モノト
 ス

判決

右辨明ノ如クナルニ付東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀ス可キ理由ナキモノトス
 但上告入費ハ上告人ヨリ辨納ス可シ
 第百廿八號

○抵當品引戻一件東京上等裁判所

豫審裁判不法上告ノ判文(明治十四年十二月廿七日上告) 明治十五年四月廿六日申渡

三重縣伊勢國河曲郡神戸堅町

四十六番地平民

杉本清造

上告人

東京府深川區深川佐賀町二丁

目十八番地平民

田代久米治

代言人

三重縣伊勢國奄藝郡上野村

百九十番地平民

野口勝右衛門

被上告人
 上告ノ旨趣ハ左ノ如シ

本訴豫審ノ起因ハ野口仙桂ニ於テ抵當品引戻ノ訴訟名古屋裁判所安濃津支廳ノ裁判不服
 トシテ明治十四年二月二十五日ヲ以テ東京上等裁判所ニ控訴ニ及ヒタリ其控訴狀ニ野口
 勝右衛門養子原告ハ野口仙桂ト記載セルヲ以テ上告人ニ於テ仙桂ハ戸主ヲ讓受ケタルモ
 ノト信認シ原告人野口仙桂ヨリ相係ル云々トノ委任狀ヲ與ヘ之カ答辨書ヲ呈セリ然ルニ
 全年十月十日原被告初對審ニ於テ仙桂ハ代人コシテ本人コ非サル旨ヲ自白セリ依テ該委
 任狀及ヒ代人願書等ヲ提供セシヤ否ヤヲ質問シタルニ提供セサル旨答ヘタリ玆ニ於テ上
 告人ハ該控訴ハ無効ナルヲ陳辨シ而シテ尙ホ即日上申書ヲ以テ之レカ豫審ヲ請願シタ

東京上等裁判所豫審ノ裁判ヲ下シ其判文ニ曰ク控訴ノ當初代人届書ヲ呈出セヌ又控訴狀
 記名ニ代人ト肩書ヲ付サ、リシハ至ク一時ノ錯誤ニ過カリシ事情ナルハ知ルヘシトア
 レト抑モ控訴代人ハ本人ノ委任狀代人願書等アラサレハ控訴ノ成立ツヘキ理由アラサル
 モノナリ之レカ証明ヲ舉クレハ明治九年司法省甲第四號布達ニ仍ツテ明瞭タリ設令一時
 ノ錯誤ナリトスルモ該手續ニ背戻シタル上ハ無効ニシテ法律上是ヲ錯誤ナリト見做ス能
 ハサルモノナリ又明治十四年十月十日以後ニ代人届書委任狀ヲ呈出シ控訴狀記名ノ肩書
 ナ改正シタル云々トアレト控訴期限ハ己ニ八ヶ月余モ經過シタル當時ニ於テ之ヲ呈出ス
 ルモ業ニ己ニ無効ニ販シタル控訴狀ヲ維持スヘキ理由アラサルモノナリ

又曰〔被控訴人ヨリハ己ニ答辨書モ差出シタル者ニシテ審理上差支ナシト〕アレト前陳ス
 ル如ク仙桂ハ原告ナリト思惟シ仙桂ヨリ掛ル云々トノ委任狀ヲ與ヘ之カ答辨ヲ爲シタル
 モノナレハ被上告人野口勝右衛門ニ對シ答辨ヲ爲サ、ルナリ良シヤ答辨ヲ爲シタルモ
 トスルモ無効ノ控訴ニ對シ答辨ヲ爲シタルモノナレハ從テ無効ノ答辨ナリ之ヲ以テ審理
 上差支ナシト言フヲ得ス如何トナレハ現ニ成文律ニ違背スル控訴ナレハ最大ナル差支ア
 ルモノニ非スヤ若シ之レヲ原裁判ノ如ク有効ナルモノトスルキハ控訴手續規則モ徒法ニ
 販シ寧ロ委任狀代人願書等モナク出訴スルモ差支ナシト謂フニ至ル可シ豈如斯不法ノ
 アランヤ

凡ソ詞訟上委任狀代人願書等ヲ要スル所以ハ代人タルノ權限ヲ證明スルモノナレハ若シ

之ヲ携帶セサル者ハ法理上決シテ代人ト見做ス能ハサルモノナリ然ルニ東京上等裁判所
 ハ控訴期限八ヶ月ノ久シキヲ經テ呈出シタル委任狀ヲ以テ代人タルノ効ヲ有スル者ナリ
 ト裁定セラレタルハ頗ル不法ノ裁判ナリト思考ス

以上ノ理由ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀セラレシトテ請願ス

辨明

凡ソ委任狀代人届等ヲ要スル所以ノモノハ其本人ニ代リタル所ノ人ハ果シテ本人ヨリ其
 權限ヲ囑托サレタルモノナリシヤテ証スルノ具ニシテ必竟其本人ノ權利ヲ保護スルノ趣
 意ニ外ナラサルモノトス抑モ野口仙桂カ原裁判所へ控訴ノ際其控訴本人タル即チ被上告
 野口勝右衛門ノ委任狀及ヒ代人届書ヲ呈供セサルモ其委任狀ハ未タ控訴ヲ爲サ、ル以前
 ニ於テ既ニ勝右衛門ヨリ受領シアリシハ仙桂カ明治十四年十月十三日原裁判所ニ於テ爲
 シタル口供中「委任狀ハ明治十四年一月トノ記載アリシヲ」云々トアルニ於テ知ラルヘ
 シ然レハ其委任狀ヲ控訴ノ際呈供セサルハ必竟仙桂カ疎漏ニ出タル迄ニシテ明治九年司
 法省甲第四號布達ノ旨趣ニ背戻セシモノニアラス殊ニ此仙桂ハ勝右衛門ノ養子ニシテ本
 訴初審以來勝右衛門ノ代人トナリ初審ノ裁判ヲモ領シタルモノナレハ他ノ代人ト同一ニ
 論シ難キ事情アルノミナラス其控訴ヲ爲スノ權モ現ニ勝右衛門ヨリ囑托ヲ受ケタルコトハ
 其控訴ノ以前委任狀ノ成立チタルニ於テ明白ナリト云フヘシ而シテ其委任狀ハ控訴ノ際
 之レヲ呈供セサルモ現ニ其後此委任狀ト代人届書ヲ差出シタルハ即チ仙桂ハ勝右衛門ノ
 代人ニシテ本案ノ審判上毫モ障害ヲ與ヘサルモノトス然レハ仙桂カ其控訴ノ際右委任狀

等ヲ差出サノルヲ口實トナシ本案ノ控訴ヲ無効ト爲スヘキノ條理ナキヲ以テ原裁判所ニ於テ結局(被控訴人ニ於テ本件ヲ無効ノ控訴ナリトシ却下ヲ受ケタキトノ請願ハ採用セサル事)ト申渡シタルハ不法ノ裁判ト謂フヲ得サルナリ

判決

右辨明ノ筋合ナルヲ以テ明治十四年十一月十八日東京上等裁判所ニ於テ本件ニ對シ申渡シタル豫審裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

第百廿九號

○判文(明治十四年十二月廿六日上告) 明治十五年 四月廿七日申渡

上告人

東京府日本橋區數寄屋町

九番地平民亡栗田園吉妻

「フジ」代言人

神奈川縣橫濱區野毛町三丁

目百四十七番地平民

小林 幸二郎

神奈川縣橫濱區居留地百四

十一番館清國人

忠 和 泰

被上告人

白米賣買一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトスル上告ノ要旨左ノ如シ

第一 原判文第二條ニ「清商忠和泰ト賣買ノ契約セシ書ニ一百包ヨリ千包迄トアルハ云々故ニ千包以上ハ之ヲ拒ミ得ルモ千包以下ハ拒ム能ハサルモノト判セラレタレ」該賣買契約証ニ「但シ百俵ヨリ千俵迄云々」トアリテ現ニ引渡ノ員數確定セサル而已ナラズ該契約ノ意味ハ買主ナル興業組ノ便益ノ爲メニ定メタル但書ト云ハサルヲ得ス何ントナレハ百俵取ルモ千俵取ルモ皆以テ代價拂ヒ渡シノ都合アレハナリ若シ該但書ハ權利者(主買)ノ爲メナルカ又義務者(主賣)ノ爲メニ定メタル契約ナルカ疑ハシキ文詞トスルモ皆以テ權利者(主賣)ノ損失ト成ル可キ方法ニ解釋テ下サ、ル可カラス」然ルニ原裁判所ハ千包以下ハ拒ム能ハサルモノト判セラレナカラ被上告者カ千俵ノ引渡ヲ請求セシヲ相當トシ判文第五條ニ「到底橫濱裁判所裁判ノ通りト可相心得事」ト判定セラレタルハ前後矛盾ノ裁判ト云ハサルヲ得ス」加フルニ上告者ハ控訴狀第二條ニ「品物惡シキ節ハ百斤ニ付五厘ツ、直引可致事」トノ契約アルハ該輸入品ハ果シテ契約適當ノ良米ナルヤ否看認メ難キ旨申立アルコト一片ノ判語ヲモ下サレサルハ不法ノ判決ナリトノ事

第二 同判文第三條ニ「賣買契約ハ其物件ノ確定ニ由テ云々右確定ノ日即チ白米揚陸後ノ保險棧租等ハ買取主ヨリ償却スヘキモノトス」トアリ凡ソ賣買契約ナルモノハ一方ヨリ未タ物件ヲ渡スヲナク且他ノ一方ヨリ其價ヲ拂ハサルモ其物件ト價ト互ニ協議確定シタル上ハ賣買ヲ爲シ了リタルモノナレモ今ヤ本件賣買契約ノ如キハ前項ニ陳フル如ク被上告者カ賣ラントスル物件ニ未タ引渡ス可キ員數ノ確定ナク又物件ノ良否ニ依リ代價ノ確定ヲ得ルノ契約ナレハ完全賣買ヲ爲シ了リタルモノト速決ス可カラス故ニ此ノ二個ノ

確定ニ至ル迄ノ間其物件保護ハ賣主ナル被上告者ニ於テ擔當ス可キ條理ナルニ原裁判所
ハ己ニ賣買ヲ爲シ了リタル契約証書ト誤認セラレ又特別ノ契約モアラサル物件保護ノ保
險棧租ノ費用ニシテ買主ナル上告者ニ一切ノ義務ヲ負擔セシメラレタルハ不當ナリトノ
事

依テ辨明並ニ判決ヲ與フル左ノ如シ

辨明

第一條

上告者於テ上告要旨第一項ノ如ク申立ルニ依リ之ヲ審察スルニ本件賣買契約証ノ但書ハ
賣主ノ便益ニスル爲メ定メタルモノニシテ疑ハシキ文詞ナリト云フヲ得サルモノナリ如
何トナレハ該証ハ買主ヨリ賣主ニ取リタル書面ニシテ之ニ記載スル分ハ買主カ引受ケル
意味ノ契約ナルヲ自然ニ明カナルヲ以テナリ然リ而テ原判文ニ記載セル千包以上以下ノ
文字タル上下何レノ方ニモ算入シ得ヘキモノ、如クナルモ此等ノ解釋ハ固ヨリ其場合ニ
依ルヘキモノニシテ本件ニ所謂ル一千包ノ如キハ其以下ノ數ニ合算スルヲ相當ナリトス
如何トナレハ該判文中千包ヨリ多カラサル云々ノ文言アルノミナラス右賣買契約書ノ但
書ニモ百俵ヨリ一千俵迄トアリテ千俵迄ハ引取ント契約シタルヲ判然タレハナリ然ハ則
原裁判所於テ被上告者カ千包ノ引渡ヲ請求シタルハ相當ナリト言渡セシハ不當ニアラサ
ルモノナリ又上告者ハ品物惡シキ節ハ百斤ニ付五厘ツ、直引可致トノ契約アリテ該輸入
品ハ果シテ適當ノ良米ナルヤ否看認メ難キニ付其旨申立置タルニ一片ノ判語ヲ與ヘラレ

サルハ不法ナリト云フモ元來本訴ハ上告者於テ白米引取ヲ拒ムヨリ起リタル爭訟ニシテ
其米質ノ良否及價直如何ノ如キハ本訴確定ノ上白米引取ノ際ニ至ラズンハ知ル能ハサル
モノナルニヨリ豫メ之ヲ判定スルニ由ナキモノナリ左スレハ是等ノ申立アルモ本案ノ裁
決ニ影響ナキ事柄ニシテ裁判ヲ與フルニ及ハサル筋合ナルニヨリ原裁判所於テ其申立ニ對
シ何等ノ判語ヲ下サレリシトテ決シテ不當ト云フヘキモノニ非ストス

第二條

上告要旨第二項ノ如ク申立ルニ依リ之ヲ審察スルニ本訴原被告者於テ賣買ヲ契約セシ物
件即チ白米ノ員數及ヒ其代價ハ己ニ確定シタルモノト看認サルヲ得ス如何トナレハ該契
約書ニ和百斤ニ付洋三枚二分五厘及ヒ百俵ヨリ千俵迄ト員數代價俱ニ明記シアレハ被上
告者カ千俵以下百俵迄ヲ約ノ如ク精載シ來ルキハ上告者於テ之ヲ引受ケサルヲ得サルヘ
ク而テ「品物惡シキ節ハ百斤ニ付五厘ツ、直引可致事」トアルハ品物惡シキ節百斤ニ付
五厘ツ、減價セシムルヲ得ルニ止マリ之カ爲メ代價確定セスト云フヲ得サルモノナル
ヲ以テナリ然ハ則物件保護ノ保險料及ヒ棧租ノ如キ特別ノ契約ナキモ買主即チ上告者於
テ之ヲ負擔スヘキハ勿論ナリトス何ントナレハ本訴ハ被上告者於テ引渡サントスル白米
ヲ上告者カ引取ラサルヨリ起リタルモノニテ買主タル上告者ノ申分立サル以上ハ此間ニ
生シタル費用即チ保險料棧租ノ如キ買主ヲシテ負擔セシメサルヲ得サル道理ナレハナリ
論シテ茲ニ至ル原裁判所カ明治十三年九月十五日附ノ契約証書ハ賣買契約ノ完了シタ
ル証書ナリト看認メ保險棧租ハ買取主ヨリ償却ス可シト言渡シタルハ相當ノ裁判ナリト

ス

判決

右ノ次第ナルコヨリ該訴ニ對スル東京上等裁判所ノ裁判ハ被毀ス可キ理由ナキモノナリ
第百三十號

○判文(明治十四年七月廿八日上告)
明治十五年四月廿八日申渡)
上告人

兵庫縣但馬國城崎郡豊岡中
町九番地平民南條善三郎代
言人

東京府神田區今川小路一丁

目一番地寄留群馬縣士族

廣 瀬 帆 三

兵庫縣但馬國氣多郡栗栖野

村平民

和多田 吉兵衛

外 二 名

被上告人

買受耕地不渡一件上告人ニ於テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當トシ被毀ヲ求ムル上告ノ要領
左ノ如シ

第一條

終審廳於テ被告ノ内福富太郎左衛門カ奥田揆一ヨリ買請タル丙第一號証書(被告第一號
賣渡申証文之事)ナリトテ捧呈シタルニ獨リ証証ノミヲ信據シ上告第四號証ヲ排斥シテ
ニ題セルモノ)一モ裁決ヲ與ヘラレサルハ不當ノ裁判ナリ看ヨ扣訴原告第四號証ハ明治二年被告ノ内吉
兵衛外一名ヨリ中ノ切宮畑開田悉皆ニ對スル貢租ヲ勤メタルノ証ナリ其之ヲ上伸セシモ
ノハ其當時ノ在屋役即チ明治二年奥田揆一ヨリ本訴論地ヲ買受タリト申立ル扣訴被告ノ
内福富太郎左衛門ナリ而シテ本訴論地ノ中ノ切宮畑開田悉皆ニ對スル貢租ハ原告被告口供ノ符合
スル所ニシテ一モ異儀ナク然レハ中ノ切宮畑開田悉皆ニ對スル貢租ヲ吉兵衛外一名ヨリ
上納シタルトセハ同人等於テ其名義ヲ以テ本訴論地(論地ハ中ノ切宮
畑開田中ニアリ)ニ對スル貢租ヲ納
メタルコトハ明瞭ナリ同人等ノ名義ヲ以テ(同人等ノ名義ヲ以テ上納シタル)貢租ヲ上納シ
タルモノナレハ同人等ノ所有地タル事ハ判然タリ如何トナレハ他人ノ負擔スル貢租ヲ自
分等ノ名義ヲ以テ上納スルノ理由ナケレハナリ是ニ由テ之ヲ觀シハ明治二年本訴論地ハ
吉兵衛外一名ノ所有ニシテ揆一ノ所有ナラサルコトハ判然也况ヤ吉兵衛外一名ヨリ揆一ヘ
本訴論地ヲ讓渡シタル事ナシト口供ヲ呈出スルニ於テチヤ去レハ如何ナル理由ヲ以テ吉
兵衛外一名ヨリ貢租ヲ上納シタルモノナル歟又如何ナル理由ヲ以テ奥田揆一ノ証書ハ公
正シタルモノナル乎吟味セサル可ラサルナリ其所有ヲ確定スルコト於テ原告第四號証ハ
最モ緊要ノ証據ナリ然ルニ原告第四號証ヲ範圍外ニ置キ一モ判決ヲ下サル而已ナラス
裁訴狀中載セテ無見ハ不尽不理ノ裁判ナリ

第二條

判文第一項ノ趣旨ヲ要スルニ被告太郎左衛門ヨリ提供スル第一號証ハ公正ノ証書ニシテ原告第一號証ハ村役人ノ奥書等コソナキ一個ノ私約ナリ而シテ原告ハ明治三年四月ニ至リ宇三郎吉兵衛ヨリ買請ケタル地所ノ内字宮畑古谷川筋十二番及ヒ日ノ邊道上十一番ノ地所ト被告福富太郎左衛門カ奥田揆一ヨリ買受ケタル地所ノ内字宮畑古谷川筋十番ノ土地ト交換シタルヲ以テ看レハ仮令原告第一號証中ニ右奥田揆一ヨリ太郎左衛門一買請ケタリト云フ地所カ合當シタルコトモセヨ其實字古谷川十番ノ地所ヲ除キ其余ノ地所ヲ吉兵衛外一名ヨリ原告へ買請ケタルモノト云サルヲ得ス若シ眞ニ原告ニ於テ買請ケタルモノトスレハ原告ハ太郎左衛門カ揆一ヨリ買請ケタルヲ確認シテ自己ノ所有權ヲ拋棄シタルモノナリト云フニ在リ然ルニ原告第一號証ハ吉兵衛外一名ヨリ原告へ買請ケタルノ証ニシテ右二名ニ於テモ正ニ賣渡シタルニ相違ナシト申供ス而シテ其買受ケタル所ノ土地ハ被告太郎左衛門ニ於テ揆一ヨリ買得シタル土地トハ全ク異別ノモノニシテ一個ノ土地ニ對シテ二個ノ賣買者アルニアラス何トナレハ原告第一號証中ニ揆一ヨリ太郎左衛門へ買請ケタリト云フ土地ナク被告太郎左衛門カ提供スル第一號証ニモ又原告第一號証ノ土地ハ明記ナキヲ以テナリ然ラハ則チ一個ノ土地ニ對シ二個ノ賣買者アリテ其權利ヲ爭フニアラサレハ其公証有無ニ依テ論地ヲ判別スヘキモノニアラサルナリ然リ而シテ曾テ原告カ所有タリシ字日ノ邊道上十一番五畝十八步壹厘及古谷川筋十二番四畝七步九厘五毛ノ地所ト太郎左衛門カ揆一ヨリ買受ケタルト云フ字古谷川十番六畝二十四步七厘五毛ト

テ原告第二號証被告第二號証ノ如ク交換シタルモノハ原告カ請求外ノ土地ナリ何トナレハ論地ハ字古谷川十一番六畝九步ナレハナリ而シテ右十一番ノ土地ハ上告狀第一條ニ述ヘタル如ク宇三郎吉兵衛ノ所有ナルヲ同人等ヨリ原告へ買請タル所ノモノニシテ又宇三郎吉兵衛ニ於テハ正ニ原告へ賣渡シタリト明言ス果シテ然ラハ字古谷川十一番ノ地所ハ奥田揆一ヨリ太郎左衛門へ買受タリト云フ土地ト全ク異ニシテ原告ノ所有ス可キ土地ナリシヲ明カナリ然ルニ太郎左衛門ニ於テ之ヲ保有シタルハ無原因ニシテ謂レナク占有シタルモノト云サルヘカラス其レ己ニ謂レナク占有シタルヲ明カニシテ今ヤ正當ノ所有者現出シタル上ハ其占有即チ太郎左衛門ニ於テ其占有シタル土地ハ正當ノ所有者即チ原告へ返還セサルヘカラサルハ勿論ナリト然ルニ原裁判所ニ於テハ上文掲ケタル如ク判決セラレタルハ其事實ヲ誤マリタル裁判ニシテ不當ト思惟ス

辨明

上告第一條ノ要点ハ原裁判所カ上告第四號証ヲ排斥シテ裁判ヲ與ヘサリシテ不當トスルニアリ右第四號証ノ文ニ明治二年分ノ貢租ハ中ノ切分（本訴訟地ノ）悉皆被告兩人（被告上内和多田吉兵衛田畑）ノ名前ヲ以テ茶役相納候トアリ然ルニ明治十四年四月廿八日被告宇三郎ヲ指タルモ（被告上）福富太郎左衛門カ口供ニ自分ニ於テ明治十三年七月一日始審口供ニ明治二年分ノ貢租ハ中ノ切分悉皆被告兩人ノ名前ニテ茶役相納候云々申上候處原告（被告上）ニ於テハ之ヲ以テ宇三郎吉兵衛ノ所有ノ証トスレト明治六年迄ハ被告太郎左衛門カ揆一ヨリノ買受

地ヲ除クノ外右開墾地(中ノ切)ハ悉皆大庄屋國村又右衛門所有名義ニ有之決テ宇三郎吉兵衛等カ所有ノ名義ニテ上納イタルコトニ無之明治六年ニ至リ漸ク各自所有ニ分チ其中ノ切ノ内太郎左衛門カ揆一ヨリ買受地ヲ除クノ外ハ宇三郎吉兵衛ノ所有地ニ相成候儀有之候右ノ次第ニ付明治六年迄ハ太郎左衛門カ買受地ヲ除クノ外決シテ公正ノ賣買ハ無之ナリ故ニ明治二年分ノ茶役ヲ宇三郎等ヨリ出シタルハトテ是ハ此レ又右衛門ノ爲ニ出シタルニ過キスシテ宇三郎等カ所有地ナルニ付貢租シタルトノ義ニハ無之候トアリ此口供ニ對シ上告人(扣訴原告)ハ何等ノ辨解ヲナシタルコトナシ而シテ上告第四號証モ即右口供ヲ爲シタル福富太郎左衛門カ保証書ナレハ其文ニ明治二年分中ノ切貢租ハ被告兩人ノ名前ニテ納タリトアルハ貢租収入ノ名前チ云シモノニシテ其所有ヲ表スルニ足ラサルモノトス又上告人ハ被上告人ノ内福富太郎左衛門カ與田揆一ヨリ論地ヲ買受タルコトハ之ヲ承認シ其買受地ト上告人カ宇三郎吉兵衛ヨリ買受タル地所ト交換セシハ原告第二號被告第二號ノ兩証ニ於テ明瞭ナレハ其被上告太郎左衛門カ揆一ヨリ買受タル地所ハ明治二年度迄宇三郎吉兵衛ノ所有ニ非サリシコトヲ上告人ハ知り居タルモノト論セサルヲ得ス然レハ上告第四號証アルチ以テ中ノ切總土地即チ太郎左衛門カ揆一ヨリ買得セシ土地モ吉兵衛宇三郎兩人ノ所有ニシテ揆一カ所有スル所以ナシト云フヘカラス依テ原裁判所カ仮令上告第一號証ニ太郎左衛門カ揆一ヨリ買受タル地所ハ包含シアルニモモセニ其實之ヲ除キタルモノト云ハサルヲ得ス又眞ニ買受タルモ之ヲ拋棄セシモノト云ハサルヲ得サルモノト推測シ明治二年被告ノ内吉兵衛宇三郎カ論地ヲ所有シアリシ証トシテ上告人カ差出シタル

第四號証ヲ排斥セシモ不當ニ非ストス

第二條

上告第二條ノ要趣ハ上告人カ上告第一號証ヲ以テ吉兵衛外一名ヨリ買請タル地所ト被上告ノ内太郎左衛門カ其第一號証ヲ以テ與田揆一ヨリ買受タリト云地所トハ異別ノモノナルニ依リ上告人カ太郎左衛門ト會テ交換セシ土地ハ本訴ニ於テ上告人カ請求スル土地ニ非ス然レハ字古谷川十一番(論地)ニ固ヨリ太郎左衛門カ揆一ヨリ買得セシ土地ニ非ス然ルニ太郎左衛門カ所有スルハ之ヲ無原因ナリトス其無原因ニ所有スル土地ヲ吉兵衛宇三郎ヨリ買得セシ眞ノ所有者即チ上告現出シタル上ハ其返還ヲ受クヘキハ當然ナリトノコトナリトス依テ原裁判書ヲ審閱シ之ヲ按スルニ上告人カ扣訴狀第二條ニ「原告(上告人)ニ於テ明治二年二月宇三郎吉兵衛兩名ヨリ字宮畑中ノ切薪田悉皆買取ノ約定ヲシ云々太郎左衛門ハ與田揆一ヨリ買取ノ名義ヲ以テ所有シタリト申立原告ハ相渡シ吳レサリキ」トアリ又上告人ハ(其代言人)明治十四年四月廿六日ニ原告(上告人)ニ於テハ原告第一號(上告第一號証)ノ如ク宮畑中ノ切殘ラス宇三郎吉兵衛兩人ヨリ買受タリ然處其内字古谷川筋十番及一番(論地)ノ地所ハ福富太郎左衛門ニ於テ固勘事與田揆一ヨリ買請ケタル旨申張リ該地所チ原告ヘ渡サス尤其内古谷川筋十番ノ地所ハ原告ヘ受取リ其替地トシテ原告ヨリ日ノ邊道上ニテ十一番ノ地所ト右谷川筋ニテ十二番ノ地所(兩地)トシテ上告人カ其第一號証ヲ以テ吉兵衛外一人ヨリ買受タルト云トチ太郎左衛門ヘ渡シタリト口供セリ加之明治十四年四月廿六日上告人ヨリ原裁判所ニ差出シタル圖面モ右口供等ノ申分ト相符合セリ右等都テ本訴論地ハ被告ノ内

太郎左衛門カ奥田揆一ヨリ買取タリト申分テ其儘ニ承認セシモノトス又被告上告ノ内太郎左衛門カ扣訴答弁書第二條抑モ論地壹反三畝三步七厘五毛ノ田地ハ被告太郎左衛門カ奥田揆一ヨリ買得シタルコトハ第壹號証ノ如クコシテ云々奥田揆一カ明治十二年以前ハ所有者云々奥田揆一ヨリ公正ノ手續ヲ以テ買得セシ田地トアリ其第三條ニ原告(上告人)カ該地ハ奥田揆一所有ナルコトハ確信シ居ル个條アリ第三號(上告人カ吉兵衛外一人ヨリ買受太郎左衛門カ奥田揆一ヨリ)タル中ノ切ノ田地ト被告上告ノ内買受タル田地ト交換ノ証)是ナリトアルコト對シ上告人ハ毫モ辨駁セシコトナシ然レハ太郎左衛門カ奥田揆一ヨリ買得セリト云土地ハ即チ中ノ切ノ内字古谷川筋十番(六畝廿四毛)ト十一番(六畝)ナルコトハ飽マテ之ヲ承認ノ上之ヲ論争セシコト判然ニシテ上告人カ吉兵衛外一人ヨリ買受タル土地ト太郎左衛門カ奥田揆一ヨリ買受タル土地トハ異別ナリト論セシコトナシ然ルコト今詞訟ノ針路ヲ變シ來リ曾テ交換セシ土地ハ上告人カ請求スル土地ニ非ス云々ノ上告ハ條理不相立モノトス抑上告人ハ本件ノ扣訴ニ於テハ元ト壹反三畝三步三厘五毛ヲ請求シ而シテ右交換アリシコトノ明白セシヨリ其請求高ハ六畝九步ニ減シタルモノナリ而シテ上告人ハ中ノ切ノ田地ハ明治二年中之ヲ買得シ其所得ヲ領収シ其賃租ヲナシ來リナカラ爾後十年余ヲ經過シ明治十二年ニ至リ本訴ヲ起シ被告上告人ノ内太郎左衛門カ公然所有スル土地ヲ受取ラントスルモ其太郎左衛門カ所有スル土地ハ奥田揆一ヨリ買得セシコトヲ上告人カ認テ之ヲ受換シアル等ノ事跡ニ依レハ原裁判所カ原告(上告人)ハ太郎左衛門カ揆一ヨリ買受タルコトヲ確認シテ自己ノ所有權ヲ拋棄シタルモノト認メ其返還ヲ受クヘキ筋ナキ旨申渡セシハ不當ノ裁判ニ非ストス

判決

右辨明ノ次第ナルヲ以テ大坂上等裁判所カ明治十四年五月十二日本訴ニ對シ與ヘタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシ

上告入費ハ上告人ヨリ辨納スヘシ

第百三十一號

○判文(明治十四年八月廿三日上告) (明治十五年四月廿八日申渡)

大分縣豊前國宇佐郡上乙女村
三百八十二番地主族

上告人

江 上 孝 義

同

城 堅 策

東京府神田區今川小路二丁目
七番地寄留熊本縣平民

右代言人

白 石 剛

大分縣豊前國宇佐郡下乙女村
二百九十七番地平民

被上告人

熊 野 御 堂 眞 哉

右代言人

記録板文字改正請求一件長崎上等裁判所ノ裁判ヲ不當トスル上告ノ要領左ノ如シ

第一 凡ソ訴狀ハ正當ノ規則ニ從ハサレハ其効チ有スルヲ得ス仍テ裁判官ニ於テハ主トシテ之ヲ査閲シ其受理不受理ヲ決シ原被告ヲ問ハス其申立タル事柄ニ對シテハ必ズ裁判ヲ爲サレハカラス今也被上告者カ原裁判所ニ出シタル控訴狀ヲ閱スルニ初審ノ原告タリシ筒井利平ヲ見サルヲ以テ被上告人ニ其理由ヲ質シタルニ上告第十一號証ノ如ク全ク誤脱セシモノト答ヘタリ因テ上告者ニ於テ該控訴狀ハ不完全ノモノナルニ付之ヲ訂正セサレハ裁判官ニ於テ受理裁判アルヘキモノニ非スト思惟セシニ付本案ニ對シ答辨ヲ爲シ難キ旨申立クルニ原裁判所ニ於テ(凡ソ詞訟ナルモノハ云々本案ノ答辨ヲ致スヘキ者ナリ)ト宣告セラレ上告者カ請求セシ豫審ノ裁判ヲ與ヘラレス上告者ニ於テ本案ノ答辨ヲ爲サレハ其儘裁判スヘシトノイナリシニ付止ムヲ得スシテ答書ヲナシタリシニ何ソ料ラン(被告申分一切不相互モノ)ト判決セラレタリ然レモ該裁判タルヤ實際執行スル能ハサルモノト謂ハサルヲ得ス如何ントナレハ筒井利平ハ初審裁判所ニ於テ其請求ノ通記録板取除ヲナサシムルノ權利ヲ有シタル者ニ非スヤ而テ之ニ對シ控訴ヲ受サル限リハ初審裁判ハ既ニ確定シテ動カスヘカラサルニ至リタルモノナルニ付利平ノ爲メ確定シタル初審裁判ニ從ハシカ終審裁判ニ背キ終審裁判ヲ奉センカ初

審裁判ニ反セサルヲ得ス夫レ斯ノ如クナレハ其後チニ申渡サレタル裁判即チ原裁判所ノ裁判ハ無効ニ屬シ終ニ實踐スルヲ得サルヲ以テナリ抑モ被上告者ニ於テ筒井利平ヲ脱漏セシハ全ク過失ナル旨申立タル上ハ原裁判所ハ該控訴狀ノ訂正ヲ命ジ一應却下セラルヘキ筈ナルニ長崎上等裁判所ニ於テハ直チニ受理裁判セラレタルハ不法ナリトノ事

第二 今ヤ仮リニ一步ヲ讓リ該控訴狀ハ完全ノモノトシ又本案ノ事柄ハ壹人又ハ數人於テ分チ得ヘキモノトスルモ原ト上告者カ要求ノ目的ハ被上告人カ私カニ該社ニ納メ置タル虚妄ノ記録板取除ヲ訴ヘタルモノナレハ該記録板ノ事實ニ適合セルヤ否ヤ主トシテ之ヲ審究セラルヘキ筈ナルニ長崎上等裁判所ニ於テハ其眞虚如何ヲ問ハレスシテ(民法上起訴ノ原由チ有セサルモノナリ況ンヤ該板ハ寄附物件ノ目錄ナルモ其物件ニ添ヘテ納藏セシ者ナレハ要スルニ亦神社附屬品ト云ハサルハカラス既ニ神社ノ附屬品タル上ハ被告ニ於テ明治六年第二百四拾九號同九年第五十四號ノ公布ニ遵依セス原告ニ對シ該板ノ改正又ハ取除ヲ要求スルハ不法ノ所爲ナルニ於テ「ヤ」ト裁判セラレ直チニ神社ノ附屬品ト速了ノ斷定ヲ下サレタルハ不當ナルノミナラス明治六年第二百四十九號及ヒ同九年第五十四號公布ノ如キ記録板ノ記録取除等ノ事項ニ關係ナキモノニ付決シテ之ヲ適用スヘキ者ニ非サルヘシ抑モ上告人等カ金錢ト勞力トヲ費ヤシ以テ成功ニ至リタル事業ノ名譽ヲ奪ハントテ被上告者ハ私カニ不實ノ記録板ヲ取替ヘ以テ該社ニ納メタリ是レ上告人等カ該板取除ヲ要求シタル所以ニシテ素ヨリ當然ノ請求ト

謂フヘシ然ルニ原裁判所ハ本訴ヲ以テ民法上起訴ノ原由ナシトセラレタルハ不當ノ甚シキ者ト謂ハサルヲ得ス若シ又原裁判所ノ如ク既ニ本訴ヲ以テ起訴ノ原由ヲ有セサルモノトセハ何ツ「神社ノ附屬品タル上ハ明治六年第二百四十九號及ヒ同九年第五十四號公布ニ依遵セス」云々トノ裁判ヲ下サレタルヤ是亦不當ノ裁判ト思惟スルトノ事
 被上告人ヲ上告ノ論旨ヲ抗擊シ以テ原裁判ヲ弁護シタリ依テ弁明并判決ヲ與フル左ノ如シ

辨明

上告第一項ノ論旨ヲ審案スルニ凡ソ訴訟ノ對手人初審ニ數人アルモノ扣訴ニ至リ其員數ヲ減スルモハ扣訴スルヲ得ストノ成規アラサレハ扣訴ニ至リ初審對手ノ人員ヲ減シタリトテ爲之扣訴被告ニ對スル扣訴權ヲ失スルノ道理ナシトス如何トナレハ扣訴原告人カ初審對手ノ幾人ヲ減スルモハ其人ニ對シ覆審ヲ求ムル權利ヲ失スルニ止マリテ他ノ被告人ニ對スル權利ニ影響スヘキノ道理ナキヲ以テナリ然ラハ本件被上告者カ扣訴ノ際對手人百三十余名ノ中誤テ筒井利平一名ヲ脱漏シタリシトテ上告人等ニ影響スヘキノ道理ナキニ依リ原裁判所ニ於テ上告者ノ抗言ヲ排斥シ以テ「本案ノ答辨ヲ致スヘキ者ナリ」ト言渡シタルハ相當ノ裁判ナリ又上告第二項ノ論旨ヲ審案スルニ抑モ本訴起訴ノ請求タル所爭ノ記録板ハ被上告者カ竊カニ納藏シタルモノニテ社司ノ許諾ヲ受ケタル者ニアラス而ノ其記録文中氏愛不敏竊恐神之不安弘化四丁未謀邑人修神廟之敗退於居者五間有半續嘉永二年己酉誕興鉅構新經營回廊再築舞殿ト被上告人ノ亡父カ右之事業ノ發起者タルカ如ク記載アレモ俱ニ被上告亡父ノ盡力シタルニアラサル証據ハ弘化度ハ上告第二號証ノ如ク村

民會議ノ上世話掛リヲ取極メ嘉永度ハ上告第三四號証ノ如ク關係人員ヲ明記シアルニ一モ被上告亡父ノ氏名ヲ記載シアラサルニテ明ラカナリ又該板表面ニ外圍砦長三十九間半高四尺五寸トシテ文中ニ氏愛營外圍之砦トアルモ外圍ノ石垣ハ上告第五號証ノ如ク元ト安永度竹下彌次兵衛外壹人ノ經營ニシテ爾後僅少破損ノ箇所築更ノ節欠石補填ノ代價ヲ被上告亡父カ寄附セシ有モ之ヲ運輸スル人夫等ハ悉皆氏子ヨリ出辨シテ被上告亡父カ一己ニ成業セシモノニアラス如此事實相違ノ事柄ヲ記載シテ社殿ニ納藏スルハ全ク上告人等カ先祖ノ功勞ヲ奪フモノナルニヨリ之カ改正ヲ要ムルナリ而シテ其被上告人ニ係リテ訴訟スル所以ハ該板ノ納藏人ナル被上告人ヨリ之カ取除ケ又ハ改正ヲ其筋即社司ヘ申出シムルハ至當ノ順序ト心得出訴シタルナリト云ニアリ然レハ右ノ訴件ヲ斷定スルニハ第一該記録板ハ果ソ上告者中立ノ如ク被上告人カ竊カニ納藏ナシタルニ相違ナキヤ否第二該板ニ記スル所果シテ事實ニ相違スルヤ否ヤヲ審究シテ若シ上告者カ言ノ如ク事實ト記録ト全ク背反スルカ如キ事アラハ須ク其實實ニ凭テ之カ改正ノ手續ヲ爲サシムヘク決テ該社附屬品等ノ譯ヲ以テ擯斥スヘキモノニアラス如何トナレハ右記録板ノ物質タル當時社殿ノ修造改築等ヲ爲シタル顛末ヲ記ルセシモノニテ尤他人ノ關係ヲ有スルモノナレハ該物件ノ寄附物ナルト否ラサルトニ拘ハラス事實ニ背反シタル事柄ヲ記シテ永ク社頭ニ納メ置クヘキ道理ナキヲ以テナリ就テハ原裁判所ハ起訴者即上告人等カ提供スル諸証ヲ調査シテ本案所爭ノ事實ニ適當スルヤ否ヲ審判スヘキハ勿論ナルニ其審究此ニ至ラヌシテ良シヤ事實齟齬ノ件登記アルニモセヨ「中略」起訴ノ原由ヲ有セサルモノナリ云々既

○神社ノ附属品タル上ハ被告於テ明治六年第二百四十九號同九年第五十四號ノ公布ニ依
遵セス原告ヘ對シ該板ノ改正又ハ取除ヲ要求スルハ不法ノ所爲ナルニ於テヤト言渡シ
タルハ條理ニ適セサル不法ノ裁判ナリトス

判決

右辨明ノ如クナルヲ以テ長崎上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ判決ヲ與フルヲ左
ノ如シ

第一條

上告人ニ於テ所争ノ記録板ハ被上告者カ竊カニ納藏シタルモノニテ社司ノ許諾ヲ受ケタ
ルモノニアラス其証據ハ上告第十號証ノ如ク當時ノ社職在前正彦於テ私ヨリ差入レタル
トコレナシト云ヒシヨテ明ラカナリト申立ルモ被上告者於テ當時ノ正社司ハ乙咩足穂權
社司ハ在前壹岐コテ在前正彦ハ社司ニコレナク然レハ右十號証ハ本訴ニ關係コレナキモ
ノナリト抗辨セシモ在前正彦カ當時ノ社司ヨリシニ相違ナクシテ他ニ社司權社司ナルモ
ノアラサリシトノ確証ヲ掲ケサレハ之ヲ以テ被上告者カ果ソ竊カニ納藏シタルニ相違ナ
キヤ否ヲ調ルニ由ナキモノナリ然リ而シテ該板ノ現ニ本社ニ納藏シアルニヨリテ之ヲ見
レハ當時正當ノ手續ヲモツテ納メタルモノト見做サ、ルヲ得ヌ如何トナレハ正當ノ手續
ヲ爲サザルモノカ故ナク社殿ニ納藏シアルヘキ道理ナキヲ以テナリ仍テ上告者カ右ノ申
分ハ相立カタキモノトス

第二條

上告人於テ上告第二號証ハ弘化度神廟修築ノ際村民會議ノ上世話掛リテ取極メタル書面
ナルコ該書中被上告人ノ氏名ヲ記載セス又上告第三四號証ハ嘉永度回廊舞殿營築ノ時該
事業ニ關係セシ人員ヲ明記シタル者ナルニ被上告亡父ノ氏名ヲ記載セサルニコレハ俱ニ
被上告亡父ノ尽力シタルモノニアラスト申立レ上告第二號証ハ上乙咩村庄屋留記ニシ
テ被上告人ノ居村役場ノ留記ニアラサレハ之ニ記名ナキヲ以テ被上告人カ關係セサリシ
トノ証據ニナリカタキノミナラス該証及第三四號証ニ被上告者ノ記名ナキハ如何ナル理
由ニ依テ然リシヤヲ知ルニ由ナキモノナレハ只不審ナリト云ニ止マリテ被上告者カ關係
セサリシ証據ト確認シカタキモノナリ然レハ之ヲ以テ慶應度以來納藏シアル記録ニ記
シタル事柄ヲ實事相違ナリト云テ得サルモノナルニヨリ上告者カ右ノ申分モ相立カタキ
モノトス

第三條

上告人ニ於テ該記録板表面ニ外圍疹長三十九間半高四尺五寸ヲシテ文中ニ氏愛營外圍之
疹トアルニ外圍ノ石垣ハ上告第五號証ノ如ク元ト安永度竹下彌次兵衛外一人ノ經營ニシ
テ爾后僅少破損ノケ所築更ノ節欠石補填ノ代價ヲ被上告亡父カ寄附セシコアルモ之ヲ運
輸スル人夫等ハ悉皆氏子ヨリ出辨セリ然レハ右ノ石垣ハ被上告亡父カ一己ニ成業セシモ
ノニアラスト云モ上告第五號証ハ竹下彌次兵衛外一人カ寄進シタリトノ証據ナルヲ以テ
同人等ノ子孫カ故障ヲ申出ルルキノ証據ニナルヘキモ之ニ關セサル上告人等カ本訴ヲ起ス
ノ証據ニナルヘキモノニ非ス而シテ破損所築更ノ節人夫ヲ出辨シタリトハ全ク口頭ノ陳

述ノミヨシテ毫モ憑ルヘキ証據アルニアラサレハ上告者カ右ニ中立ル所モ採用シカタキモノトス

右數條ノ如クナルヲ以テ上告人ノ請求ハ相立チカタキ義ト心得ヘシ

但上告ニ付テノ入費ハ被上告者之ヲ償却シ本案ニ付テノ訴訟入費ハ總テ上告者ノ負擔

タルヘシ

第三百三十二號

○判文(明治十五年一月六日上告)
明治十五年四月廿八日申渡
上告人

大坂府大和國葛上郡蛇穴村平

民西京長十郎代人兼同郡池ノ

内村平民上村三郎代言人

東京府京橋區瀧山町二番地寄

留増玉縣士族

澤 田 俊 三

大坂府大和國葛上郡蛇穴村

平民

西 川 源 治

被上告人

貸金催促追訴一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトスル上告ノ要領左ノ如シ

第一條

原判文ニ「原告(上告者)第一號証ニ記載アル被告(被上告者)ノ姓名ハ果テ被告ノ自認スル被告(原告ノ)第二號証ノ筆跡ト同一ノ手ニ成リシヲ看認メ得サルノミナラス其印影ハ實印ニモ無之云々」トアリ是レ太々不法ナリ如何トナレハ該第一號証被上告者ノ記名ハ被上告者ノ自署ニ係リ被上告者ノ自認セル上告第二號証ノ筆跡ト毫モ差異ナキノミナラス其印影ハ固ヨリ被上告者ノ使用スル印章ナレハ好シ實印ニアラストモ既ニ被上告者ガ使用ニ係ルモノタルヲ証明符合スル以上ハ只ニ實印ニアラストノ辭柄ヲ以テ無効ニ歸セシムルノ謂レナケレハ也然ルヲ原裁判所ハ其筆跡印影ノ符合シテ被上告者ノ自署自捺ニ係ルヲ判然ナルニモ拘ハラヌ筆跡ハ同一ニアラストシ單ニ實印ニアラサルヲ以テ真正ナラストシタルハ不當ノ裁判ナリトノ事

第一條追補ノ要

上告第一號証ニ記載セル被上告者ノ手署ナルヲ証スルニ上告者ハ被上告者ノ手署ナリト自認セル上告第二號証ヲ以テシタルモノナリ然ラハ原裁判所ハ其同筆ナルヤ否ヤヲ審明セサル可ラス之ヲ審明スルニハ宜シク文書ノ眞否ヲ鑒別スル能力アル者ヲシテ鑒定ヲ爲サシメ其説明スル所ヲ參考シ其眞否ノ判決ヲ爲スヘキ筈ナリ然ルニ原裁判所ハ是等ノ手續ヲ盡サス單ニ第一號証ノ姓名ト第二號証ト同一ノ手ニ成リシヲ看認メ得スト速了ノ裁判ヲ下サレシハ不法ノ裁判ナリトノ事

第二條

同判文ニ「原告第五號証吉川五郎平ノ租稅諸掛金受取帳中明治十三年四月二十六日付金

壹圓九拾七錢貳厘ノ受取書ニ同一ノ印影アリ逆原告第一號証ノ真正タルヲ証スト雖モ該受取帳中原告第一號証ト同一ノ印章ヲ捺捺セル一葉ハ素ヨリ被告ノ看認メサル所ニ其字体モ前後ノ筆勢ニ異リ云々」トアレハ上告第五號ノ帳簿ハ固ヨリ被告上告者ニ於テ仕渡シタル者ニ相違ナキ旨自認スル以上ハ只其帳簿中上告第一號ノ印影ト符合スルニ一葉ノミヲ看認サルト云フカ如キハ實ニ不條理ト云ハサルヘカラス果シテ該一葉ノミ不真正也ト云ハ、宜シク被告上告者ハ其不真正タルヲ証明セサルヘカラサルハ其責任ナリ然ルテ原告裁判所ハ被告上告者カ斯ル無証ノ供述ヲ採用シ上告者カ有証確實ノ陳辨ヲ付ケ加フルニ前後ノ筆勢ニ異ナリト判語ヲ下シタルハ誠ニ不法ノ裁判ニシテ上告者カ最モ不服トスル一大眼目ナリトノ事

第二條追補ノ要

上告第五號証租稅諸掛リ金納帳ハ被告上告者カ村總代ヲ以テ吉川五郎平ニ交付セシ租稅諸掛金受領証ノ一冊ナリ其受領証中明治十三年四月二十六日付ノ項ニ上告第一號証被告上告名下ノ印影ト同一ノ印章ヲ捺捺シタル者ナリ抑モ該帳簿ノ製タル袋帳ニシテ片紙ト雖モ加除スレハ其跡顯然タルヘキモノナリ然ルニ該帳簿ハ片紙モ加除シタルヲナシテ之ニ記載シタル廉ハ明治十二年十二月二十八日以來明治十四年八月六日迄ニ逐次十二項アリ其各項ノ押印六種アリ如斯ク被告上告者ハ數顆ノ印章ヲ使用セル者コシテ十二項ノ各項ニ交コモ之ヲ捺捺シタルモノナリ然ルニ明治十三年四月二十六日分一項ノ押印ノミ豈ニ被告上告者ノ印章ニアラスト云フヲ得ンヤ況シテ右明治十三年四月二十六日以前ハ勿論以

後明治十四年八月六日迄順次ノ受取証ヲ其一冊中ニ連接シテ記載アルヲ又事實ニ徴スルニ若シ被告上告者ニ於テ明治十三年四月二十六日ノ一項ハ果シテ知ラサルモノナレハ其次項ノ同年同月同日ノ受領証ヲ記載スル時及ヒ其以後ノ各項ヲ記載スル時ニ於テモ必ズ異議ヲ發スヘキニ上告者カ本訴ニ付提出スル迄一言之レニ異議ヲ發セサリシナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ該帳簿中ノ一項ノミ被告上告者カ押印セサルノ理ナキハ該帳簿ヨ一見スレハ何人モ知了スヘキモノナリ然ルニ原告裁判所ニ於テ第五號証ヲ採用セサリシハ不法ノ裁判ナリトノ事

第三條

同判文ニ「該帳簿ハ總テ戶長役場ノ元帳ニ合セ金高ノ頭ニ割印ヲ捺シタルモノナルニ原告カ証トスル所ノ一葉ハ其元帳ノ割印ニ符合セサルモノナレハ該証ハ素ヨリ真正ト看認メ得ヘカラスシテ原告第一號証ノ眞否ヲ証スルコ足ラサルモノトス」トアレハ審理中嘗テ一回タモ其元帳ノ割印ニ合否ヲ檢セシナキノミナラス上告者又ハ代理人ニ於テモ其元帳ナルモノハ一見タモセシナシ好シヤ公然原被告ノ目前ニ其元帳ナル者ト合否ヲ檢シ仮令ヒ割印ノ上告第五號ト符合セサルニモセヨ其元帳ハ被告上告者ノ手ニ在ルモノニシテ被告上告者ハ戶長在職ノ者ナレハ其割印ノ如キハ被告上告者カ何時ニテモ取捨描改スルヲ得村簿ハ皆己レカ手元ニ在リ其割印ノ如キハ被告上告者カ何時ニテモ取捨描改スルヲ得ヘキ性質ノ簿冊ナレハ決テ之レト符合セサルト直ニ不真正ト云フヲ得ヘカラス況ンヤ嘗テ一回ノ檢眞モナキニ於テチヤ然ルニ前顯ノ如キ裁判ヲ下サレタルハ不法ノ裁判ナリトノ事